

ISSN 1343-439X

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第 2 号

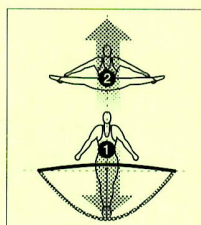


全日本大学ソフトボール連盟

結論。
ダブルウォールは、飛ぶ。

インパクトの破壊力が、打球の伸びが、弾道の鋭さが、確かに違う。
これが飛びの常識をくつがえすミズノの結論、「二重管構造」DW-SPRING。
金属バットとしては初めて、最高峰ブランド「ミズノプロ」から登場。
これからは「DW-SPRING」の前に、すべての投手が震撼することになる。

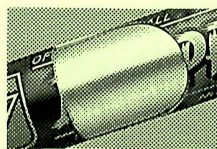
金属バットにおける飛びのメカニズムは、バットの変形(たわみ)を復元させようとする力にある。これを分かりやすく説明しよう。一般的に100km/hの速球を弾き返す場合、打球部には約2tもの力に加わるといわれているが、そのような強い衝撃を受けるとバット壁面は扁平状に変形



してしまう。しかし、その変形を復元しようとする力が反発力に変換されるため、結果的に「ボールが飛ぶ」のである。この働きがあたかもトランポリンの機能に酷似していることから、金属バットがボールを弾くプロセスを我々は『トランポリン効果』と呼んでいる。

では、そのトランポリン効果を最大限に高めるには、どのようなバット設計が求められるのか。答えは簡単である。バットの肉厚を薄くすれば良い。なぜなら肉厚が薄いほど壁面の変形量が大きくなる。つまり、より強力な反発力がバットに発生するからだ。しかしバットの肉厚を薄く設計し過ぎると永久変形(へこみ)が起きるなど、とても実戦で耐えうる強度は得られない。

薄肉設計と高強度。この相反する要素を高次元で両立し、新たな飛距離の可能性『二重管構造』である。ダブルを拓いたのが『二重管構造』



も呼ばれるこの構造、例えばバット中空部にもう一本のバットを内蔵させたような構造で、外壁の変形を内壁で受けとめることにより衝撃を分散。薄肉ながらもバットの耐久性を可能

なまでに高めたものである。しかも向上したのは強度だけではない。薄肉による高反発力に加え、インパクト時に内壁の持つ反発力までもが外壁へと伝達されるため、従来『体感値 約10m*』モデルと比べて打球の伸びに『体感値 約10m*』

もの差が表れたのだ。また反発係数の測定結果では、従来モデルより数値が約3%アップ。この3%という数値は小さく思えるかもしれないが、金属バット製造の技術的には非常に大きな進歩といっても過言ではない。ダブルの壁のトランポリン効果によるダブルの反発力。机上の理論ではなく実打データが証明する飛びの性能。破壊力で、飛距離で選ぶなら、

結論はミズノプロ「DW-SPRING」である。

*フィールドテストの結果

〈ミズノプロ〉DW-SPRING ¥28,000

2TO-79240 (84cm・平均745g・780g (ホワイト)) ボトル型
2TO-79250 (85cm・平均820g (ブラック)) ボトル型
2TO-79340 (84cm・平均725g (ホワイト)、750g (ブラック)) セミボトル型

●ZR09 ●二重管構造 ●ホワイト、ブラック ●φ57mm
●革・ゴムボール用

〈ミズノプロ〉DW-SPRING ¥26,000

2TO-79440 (84cm・平均700g・740g) ボトル型
2TO-79540 (84cm・平均740g) セミボトル型

●ZR09 ●二重管構造 ●ネイビー ●φ57mm ●ゴムボール用

MizunoPro
DW-SPRING **New**



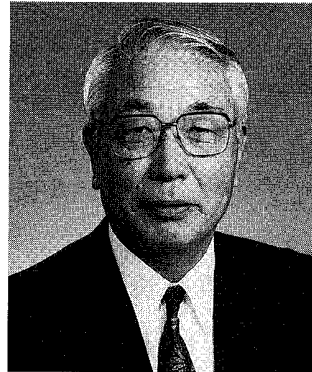
●ミズノ・インターネット情報は—— <http://www.mizuno.co.jp>
●記載価格はすべて税抜き価格です。消費税相当額はお客様に負担いただくことになります。
●ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は——「ミズノお客様相談センター」
東京 TEL (03)3233-7110 FAX (03)3233-7217 大阪 TEL (06)614-8110 FAX (06)614-8463



全日本大学ソフトボール連盟

「ウインドミル」第2号発刊によせて

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長
大内敬哉

昨年、全日本大学ソフトボール連盟として、最初の機関誌「ウインドミル」が発刊され、大変な好評を得ました。編集にご協力を賜りました諸先生方に心より感謝申し上げます。

今般、第2号が発刊される運びとなり誠に同慶にたえません。

ご承知の通り、学連の発展充実は、各地区の活性化にあり、各地区のどんな小さな情報であっても、学連に参加する皆さんに報告できることは、大変に大きな意味があります。この「ウインドミル」は只単に学連の記録を残すことのみでなく、地区発展にも大きな役割を果たしております。したがって、この機関誌は、学連の情報のみでなく、ソフトボールに関するすべての技術論や、研究分野への機関誌としてさらなる発展を祈念して、第2号発刊のご挨拶といたします。

ウインドミル

第2号

目次

ごあいさつ ● 「ウインドミル」第2号発刊によせて	1
会長 大内敬哉	
〔巻頭言〕 ● ソフトボールを科学する	4
末井健作	
〔総説〕 ● 野球型スポーツに関する研究の動向	5
松永尚久	
〔提言〕 ● 大学院生の出場について	9
後藤静夫	
男子捕手の装備について	21
後藤静夫	
〔研究報告〕 ● 一塁ベースへのヘッドスライディングはやり 方しだいで効果的になる	10
淵本隆文	
プロ野球選手のバットスイング速度と肩関節 等速性筋力	12
児玉公正・中山悌一	
打者はどのカウントから振っていけばよいか？	16
熊坂康典	
ウインドミル投法の動作分析的研究	22
山本英弘	
〔卒業論文〕 ● ソフトボールにおける打者の視覚情報につい ての研究	28
水田悦世	
調査・研究委員会から ● 編集を終えて	30
森田啓之	
研究論文、実践報告並びに研究企画などの募集	30

〔報告〕 ●全日本大学男子選抜チームニュージーランド

遠征 31

高橋伸次

平成10年度の事業報告と今後の課題 42

理事長 末井健作

全国大会の記録 ●文部大臣杯第33回全日本大学選手権大会 44

第25回全日本大学男子・女子ソフトボール

東西対抗結果 48

第4回全日本女子短期大学ソフトボール大会

..... 50

第13回東日本大学ソフトボール選手権大会

..... 52

第30回西日本大学ソフトボール選手権大会

..... 54

第50回全日本総合女子選手権大会 56

各地区の大会結果 ●北海道・東北地区 春季大会 58

秋季大会 59

関東地区 春季大会 60

北信越地区 春季大会 62

秋季大会 63

東京地区 春季大会 64

秋季大会 66

東海地区 春季大会 68

秋季大会 72

関西地区 春季大会 76

秋季大会 80

中国地区 春季大会 84

四国地区 春季大会 85

秋季大会 88

九州地区 春季大会 90

資料 ●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿 92

全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿 --- 95

平成10年度加盟大学一覧 96

編集後記 98

末 井 健 作（姫路工業大学）

ソフトボールの技術は、各個人の体力及びからだのさまざまな能力をトレーニングや種々の練習によって獲得することができると考えられています。しかし、多くの指導者は選手の個性を見抜き、それを生かしながさらさらに技術を向上させることの難しさを経験しています。例えば、基本技術の投、打、走、捕る等の合理的フォームを修得するには、どのような体力トレーニングや練習が効果的なのでしょうか。私たちはこれらの難問に試行錯誤を繰り返しながら、技術や体力の向上を目指して指導していますが、経験を大切にしながらも科学的アプローチが技術をより向上させるために重要であると考えます。

優秀な投手の力強い投球動作から投げられる速いボールは、高速度カメラで分析してみると、投球腕の回転速度やからだの回転運動が重要であること、また、脚筋力や投球腕の筋パワーを高めることが大切であると推測されます。しかし、ボールの握りをいろいろ変えて、ボールを回転させたり、回転させない投球の効果的なトレーニングの研究は、今後の重要な課題といえるでしょう。

また、打撃において、打者がボールを遠くへ飛ばすためには、バット速度が重要な要素ですが、筋の出力を高めるだけでなくその出力の強さの調節能力や出力の調節力（タイミング）も大きく関与しているといわれています。しかし、打撃はボールを遠くへ飛ばすだけでなく、投球されたボールの速度や変化に対応して、いかにボールを正確にとらえるかが重要な要素です。それでは優秀な選手の打撃フォームは、どうでしょうか。

最近、速く走るための疾走動作についての研究において、短距離疾走動作と疾走速度の分析からキックの仕方が重要な要素になるという知見が得られています。その望ましいフォームをベースランニングや守備にどのように応用し、指導すればよいのでしょうか。

ソフトボール競技選手の技術、体力や精神力を向上・改善させるためには、多くの優秀な選手の投球、打撃や守備等をあらゆる角度からその特性を分析し、対象となる選手の特徴を理解した指導法を確立することが重要であると考えます。そのためには、スポーツバイオメカニックス、スポーツ生理学、トレーニング科学及びメンタルトレーニング等の分野からの取り組みが必要であると思います。

私たちは、この企画がソフトボールに関心がある仲間の情報交換と現場での指導に、少しでも役立つことを期待しています。

野球型スポーツに関する研究の動向

東海大学 松永尚久

スポーツの世界に科学が持ち込まれるようになったのは、東京オリンピックの開催が決定した後である。そして、スポーツ運動に関する科学的と言われるアプローチが盛んに行われるようになった。

しかし、スポーツ界が独自の研究方法や研究機器を持っているわけではないので、その研究も手探り状態であったように思う。やがて医学者や心理学者、さらには運動力学の専門家である物理学者などがスポーツ運動に興味を示し、彼らがそれぞれの領域で使われる研究器械や研究方法をスポーツ運動研究の場に持ち込み、スポーツ科学が急速に発展することになった。このように複合領域・応用領域と呼ばれるスポーツ科学は、他の関連領域の発展と共に発展してきたといっても過言ではない。

近年パーソナルコンピュータの急激な普及と共に、データの収集や分析が非常に簡単にしかも短期間にやれるようになったことは、これからのスポーツ科学の発展にとって喜ばしい限りである。筆者らの学生時代は、動作分析をやるにも Bolex 16mm ムービーカメラを用いて動きを撮影し、フィルムを現像にだし、それから印画紙に1枚1枚焼きつけ、トレーシングペーパーに動きをトレースしてから分析したことを思うと僅か10数年のうちに私達が何年もかけて手作業でやってたことが1週間足らずで結果が出てしまうようになり、隔世の感がある。

野球型スポーツに限らず、ボールゲームの場合は、筋力とパフォーマンスの関係が薄かったり、個人のパフォーマンスが直接的にチームの勝利に結びつかなかったり、良いと云われるフォームが必ずしもそのもののパフォーマンスを高めることに直結しないことなどがあり、研究もなかなか思うような成果を上げ得ていないと云うべきであろう。また、ゲームの状況を実験場面で作り出し得ないことも一因であろう。

今回野球あるいはソフトボールに関する研究の動向を書くにあたって、国立国会図書館のデータベースから、1985年～1998年間の野球・ソフトボール関係の論文を検索してみると総数で130件あった。国会図書館のデータベースに全てが納められているとは思えないし、キーワードを野球・ソフトボール・投げる・打つ・体育・スポーツで検索してるので、漏れもあるだろう。従って、実際には1割5分か2割増し位の数字になるのではないかと推察している。

130件のおよその内容の分類は、表1の通りである。内容の分類は筆者の興味によるところが大きく、研究方法や研究領域別ではない。

表 1 研究内容の分類

内 容	野 球	ソフトボール
体力・トレーニングなどに関するもの	2 8	3
組織・運営・法などに関するもの	1 4	0
意識調査・性格・あがりなどに関するもの	1 5	2
スポーツ障害に関するもの	1 2	2
歴史に関するもの	1 1	0
ゲーム分析・戦術に関するもの	9	3
投げに関するもの	9	3
打に関するもの	1 5	1
正課体育・授業に関するもの	0	3
合 計 数	1 1 3	1 7

それぞれの内容がどのようなことを取り扱っているか簡単に紹介すると以下のようである。

体力・トレーニングに関するものは、ある特定集団の体力や他種目の選手達との体力比較を行ったものとトレーニング効果についてのものが含まれる。

「高校野球選手のポジション別体格・体力の比較」や「大学女子ソフトボール選手の体力評価とトレーニング処方」のようなものも含んでいる。

組織・運営・法に関するものは、連盟の組織とその運営についてのものや授業やクラブ活動での事故に対する判例を扱ったものが主である。テーマとしては、「社会人軟式野球の組織構造と運営」「少年スポーツ事故における法的責任ー野球・サッカー事故判例にみる安全配慮義務の一考察」などである。

意識・性格・あがりなどに関するものは、研究領域的には心理学や社会学で取り扱うような内容で指導者や選手の意識調査や性格特性・態度の変容なども含んでいる。代表的テーマは、「高校野球に関する意識・イメージについて」「“あがり”に関する研究ー日米高校野球選手の試合態度等と状態不安の関係について」などである。

スポーツ障害に関するものは、障害の発生部位と原因、さらにはその予防に

関するものから障害の治療例や現場復帰に向けてのリハビリテーションの内容・結果まで含んでいる。「ソフトボールプレーヤーにおけるスポーツ障害に関する研究ー高競技レベルの中学、高校女子選手」「ソフトボールにおける尺骨疲労骨折の4例」「プロ野球投手の肘関節の関節症変化ーその経時的推移について」などが代表的なテーマである。

歴史に関するものは、戦前あるいは明治期のといったものを全て含んでいる。テーマとしては、「女子野球に関する史的考察」や「明治期における秋田県での野球受容と統制について」などである。

ゲーム分析・戦術に関するものは、勝敗に関する原因分析からある特定の状況での特定のプレーの評価まで、ゲームの中で起きた状況を分析したものを含み、「ソフトボールにおける攻撃の新戦法に関するー考察ー選球スクイズについて」「走者1・3塁における攻防について」「ソフトボールにおけるいわゆる“ラッキーセブン”について」などがある。

投げに関するものは、ピッチング・遠投・送球を扱ったものでスピードや距離など量的な評価とフォームあるいは動きを3次元で分析した質的な評価がみられる。「正確投と投距離との関係ーソフトボールとハンドボールの場合」「野球の投球動作におけるボール速度に対する体幹および投球腕の貢献度に関する3次元的研究」「野球の投球動作とその指導」などである。

打に関するものは、地面反力や筋電図を用いたバッティングの分析、初心者への指導法やその習熟に関するもの、さらには、用具に関するものまで含めている。テーマとしては、「地面反力からみた異なる投球速度に対する野球の打撃動作の特性」「過重移動の観点から見た野球の打撃におけるステップ動作に関するー考察」「スポーツ用具のダイナミクスと実験モード解析ー野球用バットの振動解析」などである。

正課体育・授業に関するものは、授業としての展開や指導法である。「大学正課体育における男女混合授業に関する基礎的研究ー3ーソフトボールの授業から」「小学校[教科体育]におけるソフトボールの研究」などである。

これらを見てみると最近14年間で、野球やソフトボールに関する研究は、130件以上あるにもかかわらず、ソフトボールを扱った研究は、僅か全体の13%に過ぎない。投・捕・打については、野球もソフトボールもそれ程大きな違いがあるとは思えないが、ボールやバットの大きさや重量に違いがあり、パフォーマンスに微妙な違いが存在することは予測される。野球でやられている「投げ」や「打」に関する研究をソフトボールに置き換えて検証していくことも必要であろう。

1985年以前のものについては、全てを概観することは出来なかったが、投に

関しては投動作の発達や向上に関するもの、投球動作の3次元分析や筋電図を用いた動きの分析などが目につく。打に関しては、バッティング動作の分析やタイミングに関するものが多く、映像の分析や筋電図、床反力を用いた力の計測や体重移動の仕方などを取り上げている。

スポーツ方法学の立場で「研究」について考えると研究結果が指導現場で役立ったり、あるいは壁にぶつかった選手達がデータを見たとき「何かヒント」になるような研究成果が期待されていると思う。しかし、いろいろな研究分野があり、立場も違うので一概に言えないが、研究のための研究も少なくないように思える。

動きの発達や習熟過程、あるいは熟練者と未熟練者の比較、動きの分析や筋の作用機序、トレーニング効果とパフォーマンスの向上、練習効果の現れ方など多くの研究論文が発表されているが、実践研究の領域のものが少ないように感じられる。

現場で直接指導されてる方々は指導方法についていろいろなバリエーションを持ってるにもかかわらず、研究成果として発表されないのは、論文としての体裁が整っていないとか、被験者の数が少ないとか、あるいは客観性に欠けるとかの理由で研究誌への掲載を拒んでいることが最大の原因だろうと考えられる。

スポーツの実践研究領域は、医学会で考えれば臨床報告のようなもので、1例でも2例でもいいからどんどん活字にすべきであろう。例えば、「このような特徴を持った子にこんな指導をしたらこのように変わった」とか、「このような欠点を持った子にこんな指導をしたらこうなりました」とか、「こういう時には、こんな言葉を使うと分かりやすいらしい」とか、等々現場で指導している方々がもっともっと発表しやすいようにすることも必要であろう。毎年毎年強いチームを作り上げる高等学校の先生方は、こと指導に関してはプロ中のプロであり、沢山の財産を抱えているはずなので、その財産を個人のものとして埋もらせてしまうことは、ソフトボール界に限らずスポーツ界全体にとっても大きな損失になるだろう。多くの人達が利用出来るよう活字にして残すことは意義あることだと思う。

そういう意味でこの大学ソフトボール連盟の機関紙「ウィンドミル」が現場に埋もれている“ダイヤモンド”を掘り起こす作業をしてくれることを期待したいと思う。

大学院生の出場について

後藤 静夫（相模女子大学）

現在、大学連盟主催ゲームにおいて、大学院生のみが出場資格をもっていないのは、誠に残念に思います。もともと連盟規約に出場選手の在学年数制限があるのは、留年や転入学等による特別な選手に対する配慮から定められたものと理解しておりますが、それによってソフトボールに関り、参加を希望している大学院生の熱意を無視するのは、如何なものでありましょうか。

もっとも院生も、例えばクラブチーム等に登録することによって、日ソ協主催ゲームに出場出来ますが、学校教育の立場から申せば、満足すべき状態とは申せないような気がします。

そこで問題点を整理してみますと、

- (1)学部生と院生とは同じ教育組織のつながりとみるべきである。これは学部生と短大生とが同一チームに所属するのと同じ理由による。
- (2)院生の培ってきた技術、知識、経験は学部生の向上、進歩に大いにメリットがある。
- (3)院生だけの単独チームを編成することは難しい。研究生活の中で時間的にも一定人数を随時揃えて活動することは困難なので、学部生と合同チームにする必要がある。
- (4)院生がメンバーに入ることによって、チーム力の差がますます大きくなるのではないかという心配はやむを得ない。

色々ご意見もあろうかと思いますが、結論として暫定的にでも、1校1チームに何名まで院生の参加を認めるというような規約の改正を検討していただいで、一日も早く、学生スポーツの門を開いていただきたいと思います。

一塁ベースへのヘッドスライディングはやり方しだいで効果的になる

淵本隆文（大阪体育大学バイオメカニクス研究室）

一塁ベースへのヘッドスライディングは走り抜けるより遅い

ソフトボールや野球において、一塁ベースへのヘッドスライディングが時々見られるが、果たして効果的なのか。科学的な測定がアメリカで行われているが、走り抜ける方が間違いなく早いと断言している。国内の某テレビ局も測定を行い、同様の結果を報告している。しかし、プロ野球でも時々ヘッドスライディングが見られる。そこで、自分で確かめてみようと思い、大学選手で測定してみたところ、やはりヘッドスライディングの方が遅く、遅さの原因は、主にスライディングによる速度低下にあった。それならば、スライディング距離を短くすれば少しは早くなるはずだと考え、以下のような実験を行った。

ベースタッチ前にスライディングしなければ早くなる

大学の硬式野球部男子8名に、ホームベースから一塁ベースに向かって全力で走らせ、一塁ベースを走り抜ける試技（RUN）と一塁ベースへヘッドスライディングする試技（HS）を交互に3回ずつ行わせた。この時は、ヘッドスライディングについて特別なことは言わなかった。その後、全員に「ベースタッチ前のスライディング距離をできるだけ短くし、できれば、タッチ前にまったくスライディングしないこと。ベースの右側をスライディングすること。」のアドバイスをし、さらに3回のヘッドスライディングを行わせた。このヘッドスライディングをダイレクトタッチ（DT）と呼ぶことにする。各選手の走フォームを一秒間に200コマの高速度ビデオカメラで撮影し、その映像から、一塁ベースの8m手前から一塁ベースにタッチするまでの時間を計測した。その結果が図1の棒グラフである。走り抜け（RUN）と普通のヘッドスライディング（HS）を比較すると、被験者Fはほとんど変わらなかったが、それ以外の7名はHSの方が遅く、これまで言われていた通りの結果であった。一方ダイレクトタッチ（DT）の時間はほとんどの選手でHSより短くなった（8名中7名）。DTとRUNの比較においては、全体の平均値でDTの方が短かったが、統計的には短いとは言えなかった。しかし、B、C、D、F、Hの被験者に見られるように、RUNの3試技よりも早いDTの試技が見られたことが重要である。被験者Cの矢印を付した試技についてどれくらいDTの方がRUNより得をするかを計算したところ、時間にして0.05秒、距離にして40cm得をしていた。

ダイレクトタッチには多くの問題がある

この測定結果から次のようなことが言える。一般にヘッドスライディングの方が遅いといわれていることは正しかった。遅くなる理由は、ベースの手前でスライディングするからであった。ベースタッチ前には滑らず、タッチ後に滑るようなダイレクトタッチをすれば、走り抜けるよりも早い試技がいくつも見られた。しかし、ダイレクトタッチには、いろいろ問題があり、注意が必要である。

1. ソフトボールは、現在ダブルベースなので、あまり問題はないが、野球の場合は、一塁の野手にスパイクされる危険性がある。

2. ベースタッチをした後にスライディングするので、ベースにまっすぐ向かっていくと、タッチ後に顔や胸をベースで強く打ち、非常に危険である。必ず、ベースの右側に飛び込み、左手だけでタッチをし、そのままベースの右側を滑っていかなければならない。
3. ベースの手前横面にタッチすると、指や手首などを痛める危険性が非常に高いので、必ずベースの上の面をタッチしなければならない。
4. ダイレクトタッチは従来のヘッドスライディングの倒れこみと基本的には同じでよい。
5. ダイレクトタッチでヘッドスライディングを行うと、身体全体がベースを通り過ぎてしまう。従って、二塁や三塁では行うべきではない。また、タッチプレイの時には危険なので、ホームベースでも行うべきではない。
6. ダイレクトタッチで得をするのは 40cm 程度なので、言うまでもないが、きわどいタイミングの時だけ有効な方法である。

ダイレクトタッチが走り抜けるより早い理由

なぜ DTの方が早いかを説明しておこう。被験者 C を例にとると、倒れこむ動作によって前進する速度は減少し、約 20cm 損をした。しかし、倒れて手を伸ばすことによって約 60cm 得をするので差し引き 40cm 得をしたのである。細かいことを言うと、倒れこんだ時に全身が（手先から足先まで）真っ直ぐ伸びている場合に、手の位置がもっとも前へ伸び早くタッチできる。膝を屈曲させると 3～5cm 程度手の位置が手前に下がり、損をする。

筆者が恐れるのはケガの問題である。コーチや選手は、前述の危険性を十分考え、練習をした上で、実施するかどうかを判断すべきである。

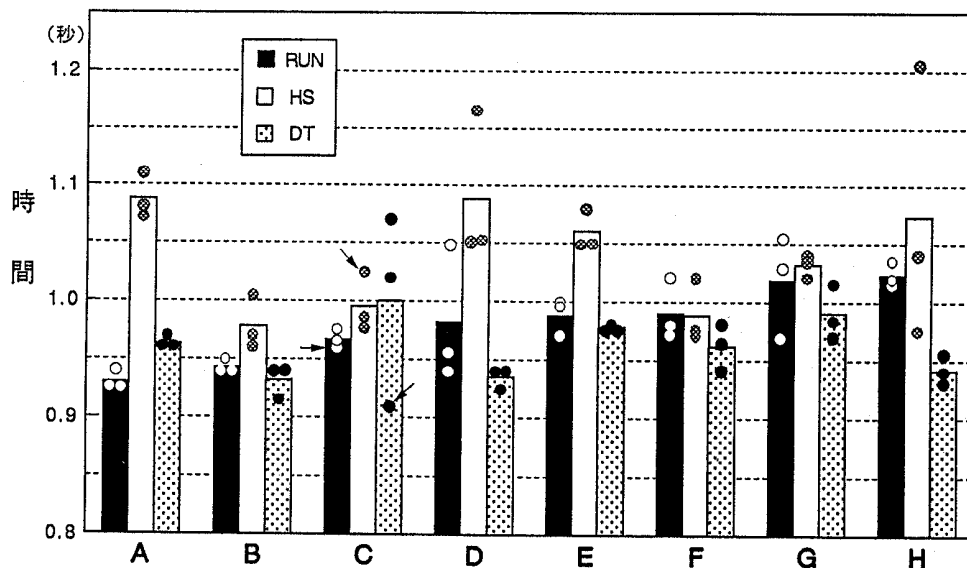


図 1.一塁ベースの 8m 手前から一塁ベースにタッチするまでの時間。RUN はベースを走り抜けた時、HS は通常のヘッドスライディング、DT はダイレクトタッチによるヘッドスライディング。棒グラフは3回の平均値、プロットは各試技の時間を示す。A～Hは被験者。

プロ野球選手のバットスイング速度と肩関節等速性筋力

The Relationship of Swing Velocity during Batting Motion and Isokinetic Strength of The Internal and External Shoulder Rotators in Professional Baseball Players.

児玉公正（大谷女子大），中山悌一（阪神タイガース）

Kosei Kodama (Ohtani Womens University) Teiichi Nakaya ma (HANSHIN Tigers)

【目的】

野球は競技人口の多さからみても国内において上位に位置する人気種目である。その指導体制は技術水準が向上するほど、医科学の専門家と野球技術の指導者とが連携しながらチームを運営し、スポーツ障害の予防やリハビリテーションなどに効果をあげている。一方、それら高水準の環境下で実践されている体力トレーニングは、プレー中の障害防止を目的とした基礎体力の向上に主眼がおかれており、野球のパフォーマンス向上に役立つ体力トレーニング種目が待たれている。

目的を達成するための予備調査³⁾（1994）として、頂点をきわめたプロ野球選手が体力トレーニングに対し、どのような意識を持って日頃取り組んでいるのか、また、そのトレーニング環境は野球をはじめてから現在に至るまでどのような軌跡をたどってきたのかを明らかにしてきた。さらに、プロ野球選手が投球および打撃動作中の諸局面時意識を集中させる身体部位はどこかについて調査⁴⁾（1995）したところ、各動作とも意識を集中させる身体部位の移り変わりは、下肢で生じさせた意識が最終局面の手首に刻々と移り変わるまでの様子が反映され、実際には測定をしていない運動エネルギーの経時変化をみるような結果となった。

そこで、まず野球の打撃動作に注目し、野球人口の底辺部分を担う少年野球選手の体力とバットスイング角速度との関係を比較した¹⁴⁾（1994）。その結果は握力、背筋力それに脚筋パワーの各体力項目とバットスイング角速度（素振りとティ打撃の2動作の各角速度）との間に強い相関関係が認められた。そして2動作のバットスイング角速度の速度比較はティ打撃に比べ素振りの方が速いことが明らかとなり、前述の体力項目との関係においても素振りのバットスイング角速度の方がより強い相関関係が認められた。

加えて、頂点をきわめたプロ野球選手を対象に素振り、ティ打撃、マシンを用いた実打撃時のバットスイング速度を測定し報告してきた¹¹⁾（1995）。

当該分野における野球の打撃動作に関する先行研究は、Race, D.E.¹³⁾（1961）が映画分析法を用いて、大リーグの選手を対象にしたバットスイング角速度を測定し、インパクトへ近づくほどバットの角速度が急増することを報告している。同様に、McIntyre, D.R. と E.W. Pfautsch⁶⁾（1982）は野球のバッティングを画像解析し、肩、肘、手首、手、バットの順に打球方向への最高速度が出現し、その速さの程度は身体の末端へいくほど大きくなることを報告している。

大島ら¹²⁾ (1983) はプロ野球選手を対象に身体重心の移動距離、バットの先端の速度や角速度の研究成果をあげている。小村ら⁵⁾ (1983) は東京大学の2名の野球部員を対象にして、投手の手からボールが離れホームプレート上を通過する経過を光刺激の点滅で表し、バットの素振り動作時のスイング速度を報告している。また、平野²⁾ (1984) は熟練者と未熟練者の肩、腰、バットの角速度を比較した結果を報告している。

一方、野球の運動生理学的な研究では、肩と膝の等速性筋力を扱ったものが多い。Brown, L.P. ら¹⁾ (1988) はメジャーリーグの選手を対象として、投球肢と非投球肢の肩関節の等速性筋力を投手と野手別に報告している。中山と児玉⁷⁾ (1991) は日本のプロ野球選手を対象に、肩関節と膝関節の等速性筋力、等速性筋力と故障・障害との関係⁸⁾ (1992)、形態と体力との関係⁹⁾ (1993)、プロ野球選手の筋持久力¹⁰⁾ (1994)などを報告してきた。

以上述べたように、先行研究は打撃を運動学的に、あるいは生理学的にのみ分析したものであり、体力項目とバットスイング速度との関係についてはいまだ明らかにされていない。このような先行研究の背景から、野球の打撃力向上に役立つコンディショニングの一指標を得ることを目的として、バットスイング速度と上肢の筋力に注目した。

なお、上肢の筋力に注目した点は、McIntyre, D. R. と E. W. Pfautsch⁶⁾ (1982) が報告していたように、上肢の各身体部位の効率的な速度の伝達が打撃動作に貢献していたからである。

この研究の目的は、野球種目の頂点をきわめたプロ野球選手の素振り、ティ打撃、実打撃のそれぞれのバットスイング速度と肩関節等速性筋力との関係を明らかにし、その特徴をみることにある。

【方法】

1) 調査対象者

被検者はプロ野球T球団の野手15名を対象とした。

2) バットスイング速度の測定

バットスイング速度の測定は、T球団の2軍練習場にある打撃マシン専用ゲージ（縦約25m、横約10m、高さ約7.5mの寸法で、数本の鉄の支柱と防球ネットでおおわれた施設）を用いて実施した。

被検者はその打撃マシン専用ゲージ内に位置し、へその高さのストライクゾーン中央ストレートボールを意識し、はじめは素振り動作、続いてティの上に置いたボールを打つティ打撃動作、そして最後にボールスピードがホームベース上で時速126キロを計測するマシンを用いた実打撃の順で、それぞれの動作を5回実施させた。

3種類の各打撃動作は、垂直上方7mの位置にVHSビデオカメラをセットし、被検者の真上から電子シャッタースピード1/500秒・フィルムコマ数1/60秒で撮影した。得られた映像はパーソナル・コンピュータ（NEC）に取り込み、ビデオ解析システム（Dynas 2D）を用い、サンプリング周波数60Hz・平滑化0回で分析し、5回のスイング施行中のヘッドスピード最大値を測定値とした。

3) 肩関節等速性筋力の測定

等速性筋力はサイベックス350システムを用い、角速度90度/秒（低速度）、180度/秒（中速度）、270度/秒（高速度）の3種類の運動速度条件で、最大筋力を発揮させながら肩関節をほぼ最大運動範囲まで内旋させ、続けて最大筋力を発揮して肩関節を外旋させる運動を休息なしに各々4回課した。

そして、各回ごとに発揮されたピークトルク値を350システムのコンピューターが計算し、それぞれのピークトルク値のうちの最大値を測定値とした。

【結果と考察】

1) 各測定項目の結果

各打撃動作から得られたバットスイング速度の平均値は、素振り動作が36.1m/s (130km/h)、ティ打撃動作が34.3m/s (123.5km/h)、そしてマシンを用いた実打撃動作では33.4m/s (120.2km/h)を記録した。

肩関節の等速性筋力は打撃時の利き腕（右打者の右腕）・非利き腕（右打者の左腕）別に区分し、さらに被検者に課した運動速度（90度/秒、180度/秒、270度/秒）別に表した。その結果、内旋動作の打撃時利き腕側では、90度/秒が69.5Nm、180度/秒が59.5Nm、そして270度/秒が53.9Nmとなり、運動速度が高速になるほど筋力が低下する傾向を示した。

2) 各バットスイング速度の比較

プロ野球選手のバットスイング速度は、3動作中に打撃の目標物がない素振り動作が最も高い値を示し、次に目標物のボールが静止しているティ打撃、そしてボールが高速移動している実打撃の順となった。

3) バットスイング速度と肩関節等速性筋力との関係

この測定で得られたすべての項目を対象に、等速性筋力とバットスイング速度との相関関係とその水準をみてみた。スイング速度の素振り動作と等速性筋力との関係は内旋動作の打撃時利き手側と外旋動作の打撃時非利き手側において、測定に用いた全ての関節角速度において5%水準の相関関係が認められた。この傾向はティ打撃動作との間でも同様であった。しかし、実打撃動作と等速性筋力との間には、いずれの項目間にも相関関係が認められなかった。

このようにプロ野球選手から得られた肩関節の等速性筋力は、打撃の目標物となるボールが高速移動する実打撃動作中のバットスイング速度とは無関係であった。この背景にはバットでボールを正確にとらえようとする調整力などが関与し、筋力以外の諸因子が働きかけられた点もその一因ではないかと推察した。しかし、調整力などの関与が比較的軽いティ打撃、そして、ほとんど関与しないと思われる素振り動作では肩関節の等速性筋力と強い関係が認められた。

特に、打撃動作中の肩関節の運動方向となる利き手側の内旋運動と非利き手側の外旋運動とに相関関係が得られた点は注目したい。

いずれにしても、打撃動作中にバットのヘッドスピードを高める一要因として、利き手側内旋動作と非利き手側外旋動作の各肩関節等速性筋力が関与しているものと推察した。

【まとめ】

野球種目の頂点をきわめたプロ野球選手の素振り・ティ打撃・実打撃のそれぞれのバットスイング速度と、肩関節等速性筋力との関係を比較した。

1) 素振り・ティ打撃のバットスイング速度と肩関節内旋・外旋動作から得られた等速性筋力との間には、強い相関関係が認められた。

2) その関係は、打撃動作中の肩関節の運動方向となる利き手側の内旋運動と非利き手側の外旋運動とに相関関係が強く、興味深い結果となった。

3) しかし、マシンを用いた実打撃では等速性筋力とに相関関係は認められなかった。

4) その一因はバットでボールを正確にとらえようとする調整力などが関与し、筋力以外の諸因子が働きかけられたものと推察した。

【文献】

- 1 : Brown, L.P., S.L. Niehues, A. Harrah, P. Yavorsky, and H.P. Hirschman. : Upper extremity range of motion and isokinetic strength of the internal and external shoulder rotators in major league baseball players. The American Journal of Sports Medicine., 16 (6) : 577-585, 1988.
- 2 : 平野裕一 : バットによる打の動作. Japanese Journal of Sports Sciences., 3 (3) : 199-208, 1984.
- 3 : 児玉公正 : プロ野球選手の体力トレーニングに対する意識調査. 大谷女子大学紀要, 29 (1) : 29-48, 1994.
- 4 : 児玉公正 : プロ野球選手が投球および打撃動作中の諸局面で意識を集中させる身体部位. 大谷女子大学紀要, 30 (1) : 172-185, 1995.
- 5 : 小村暁, 西園秀嗣, 鷹井祥夫, 宮下充正 : バッティングの分析. 日本バイオメカニクス学会編, 身体運動の科学IV「スポーツのバイオメカニクス」, 杏林書院, 157-170, 1983.
- 6 : McIntire, D.R. and E.W. Pfautsch, : A kinematic analysis of baseball batting swings involved in opposite-field and same-field hitting. Research Quarterly for Exercise and Sport., 53 (3) , 206-213, 1982.
- 7 : 中山悌一, 児玉公正 : プロ野球選手の等速性筋力について. 体力科学, 40 (6) : 700, 1991.
- 8 : 中山悌一, 児玉公正 : プロ野球選手の等速性筋力と故障・障害との関係について. 体力科学, 41 (6) : 867, 1992.
- 9 : 中山悌一, 児玉公正 : プロ野球選手の形態と体力との関係. 体力科学, 42 (6) : 601, 1993.
- 10 : 中山悌一, 児玉公正 : プロ野球選手の筋持久力. 日本体育学会第45回大会大会号 : 310, 1994.
- 11 : 中山悌一, 児玉公正, 磯 繁雄, 河幡一彦 : プロ野球選手のバットスイング速度. 体力科学, 44 (6) , 814, 1995.
- 12 : 大島義晴, 小林一敏, 菅原秀二 : 打撃動作の分析—1—. 日本バイオメカニクス学会編. 身体運動の科学IV「スポーツのバイオメカニクス」杏林書院, 191-203, 1983.
- 13 : Race, D.E. : A cinematographic and mechanical analysis of the external movements involved in hitting a baseball effectively, The Research Quarterly., 32 (3) : 394-404, 1961.
- 14 : 志水正俊, 児玉公正, 河合 悟, 田原武彦, 中山悌一 : 少年野球選手の体格・体力特性～第三報 体力とバットスイング角速度～. 日本体育学会第45回大会大会号 : 548, 1994.

※本稿は、「児玉公正, 中山悌一 : プロ野球選手のバットスイング速度と肩関節等速性筋力. 大谷女子大学・小川修三先生退職記念論文集 : 121-131. 1998.」へ掲載した論文からの抜粋であることをお断り申し上げます。

打撃動作はソフトボールも野球もほとんど違いはないと考えられ、紹介させていただいた。ここで示した肩関節等速性筋力以外の体力項目も検討しており、随時報告していきたい。

【研究報告】

打者はどのカウントから振っていけばよいか？

—カウントと仕事数・率の関係から—

熊坂康典（日本体育大学）

私が日本体育大学（以下、日体大と略す）男子ソフトボール部の監督を務めてから今年で3年になる。私はその間守備よりも攻撃に重点を置いて学生に指導してきた。指導したと言っても「ライズはこう打て」とか「もっと脇を絞れ」といった具体的な指導をしたわけではなく、投手の心理を踏まえた上でどのカウントで攻撃すれば効率よく得点出来るかに重点を置いて指導してきた。

ここでは、'97年度日体大男女ソフトボール部の公式戦データと'96年度のプロ野球のペナントレースのデータを基に、カウント別に安打の他に四死球、送りバント、犠牲フライ、進塁打を加えた「仕事数」「仕事率」を比較・検証してみたい。

次の表は、'96年度のプロ野球カウント別打撃ランキングである。今回は「初球を打ったとき」と「2ストライク後に打ったとき」の2種類のデータのみの比較であるが、両者に違いは歴然としている。「初球打ち」の方の選手を見てみると、比較的長距離ヒッターの色合いが濃い。それに対して「2ストライク後」の方の選手を見てみると、技巧派の色合いが濃い。

'96年度のプロ野球カウント別打撃ランキング

〔初球打ち〕

順位	名 前 (チーム)	打数	安打	本塁打	打点	打 率
1	金 本 (広)	3 6	2 2	6	1 4	. 611
2	大 豊 (中)	4 3	2 3	9	2 3	. 535
3	ブリトー (日)	2 5	1 2	5	1 6	. 480
4	イチロー (オ)	5 8	2 7	4	1 2	. 466
5	西 山 (広)	6 9	3 2	1	1 2	. 464

[2ストライク後]

順位	名 前 (チーム)	打数	安打	本塁打	打点	打 率
1	和 田 (阪)	275	8 2	2	3 0	. 298
2	辻 (ヤ)	222	6 6	2	2 6	. 297
3	田 中 (日)	269	7 2	1 2	5 2	. 268
4	村 松 (ダ)	195	5 2	0	1 2	. 267
5	片 岡 (日)	230	6 1	4	1 8	. 265

(対象は規定打席以上の選手、データ=IBM BIS)

これはどういうことなのか考察してみよう。

まず、ピッチャーの心理として初球はストライクが欲しいものである。そのため比較的あまいボールが多くなると思われる。また、2ストライクに追い込んでからはコーナーぎりぎりのボールや変化球が多いと思われる。難しいボールは何とかヒットにできるが、ホームランにするにはかなり困難である。逆に初球のあまいボールでは、ヒットはもちろんホームランにするのも、難しいボールに比べると比較的簡単であると思う。実際このデータを見てみると、初球打ちの上位5人の平均打率は、. 511で、2ストライク後の上位5人の平均打率は、. 279である。その差は. 232もある。積極的な打撃姿勢がいかに大切かがよく分かって頂けると思う。

そして、2ストライク後の不利なカウントでホームランを12本も打っているのが田中選手（日本ハム）である。「三振がいやだから、追い込まれたらミートに徹す。その方が、余分な力が入らず、ボールが遠くに飛ぶことがあるんですよ。」これは田中選手のコメントである。このコメントを見てみると、このような結果が残るのもうなずけるものである。

日本のベースボール型競技の最高峰であるプロ野球でさえこれほどの差が出るのだから、我々大学ソフトボールの世界でのその差は一層大きくなるものと思われる。

先の表ではプロ野球の初球と2ストライクからの安打数およびホームラン数を基に比較・検証してきたが、今度は' 97年度日体大男女ソフトボール部の公式戦でのデータを基に安打、四死球、送りバント、犠牲フライ、進塁打を加えた「仕事数」「仕事率」をカウント別に算出し、比較・検証してみたい。

・ 97年度日体大男子ソフトボール部カウント別仕事率（公式戦26試合）

カウント	0-0	0-1	0-2	0-3	1-0	1-1	1-2	1-3	2-0	2-1	2-2	2-3	合 計
仕 事 数	7 1	3 4	1 5	2 6	2 7	4 1	2 6	3 4	8	1 9	1 8	2 6	3 4 5
仕 事 率	20.5%	9.8%	4.3%	7.5%	7.8%	11.8%	7.5%	9.7%	2.3%	5.5%	5.2%	7.5%	99.4%

・ 97年度日体大女子ソフトボール部カウント別仕事率（公式戦29試合）

カウント	0-0	0-1	0-2	0-3	1-0	1-1	1-2	1-3	2-0	2-1	2-2	2-3	合 計
仕 事 数	7 2	5 2	1 8	1 0	6 8	6 6	2 3	3 0	1 4	2 9	2 3	2 2	4 2 7
仕 事 率	16.8%	12.1%	4.2%	2.3%	15.9%	15.4%	5.3%	7.0%	3.2%	6.8%	5.3%	5.1%	99.4%

男子総打席数 7 9 2

総打数 7 1 0

総塁上打席数 5 2 7

総打率 . 3 6 3

総仕事率 . 4 3 5

男子総得点 2 3 6 点

一試合平均得点 9 . 0 7 点

男子総打席数 9 0 3

総打数 8 4 1

総塁上打席数 5 0 4

総打率 . 2 9 4

総仕事率 . 4 6 1

男子総得点 1 8 2 点

一試合平均得点 6 . 2 7 点

・ 97年度日体大男子ソフトボール部カウント別仕事数（公式戦26試合）

カウント	0-0	0-1	0-2	0-3	1-0	1-1	1-2	1-3	2-0	2-1	2-2	2-3	合 計
安 打	63	31	13	1	23	35	24	9	8	19	17	15	258
四 死 球	2			25				24				11	62
送りバント	5		1		2	4		1					13
犠牲フライ	1		1		1	1	2				1		7
進 塁 打		3			1	1							5
合 計	71	34	15	26	27	41	26	34	8	19	18	26	345

・ 97年度日体大女子ソフトボール部カウント別仕事数（公式戦29試合）

カウント	0-0	0-1	0-2	0-3	1-0	1-1	1-2	1-3	2-0	2-1	2-2	2-3	合 計
安 打	46	36	11		39	43	15	10	9	16	17	6	248
四 死 球				10				16				13	39
送りバント	12	2	1			1							16
犠牲フライ		1			1		1			2	1	1	7
進 塁 打	14	13	6		18	22	7	4	5	11	5	2	107
合 計	72	52	18	10	68	66	23	30	14	29	23	22	417

前2ページの表は、'97年度日体大における男女すべての公式戦（男子26試合、女子29試合）のカウント別仕事数、カウント別仕事率をまとめたものである。これを見ると、仕事数の多いカウントは、男子は、0-0が71個（20.5%）、1-1が41個（11.8%）、0-1が34個（9.8%）である。女子は、0-0が72個（16.8%）、1-0が68個（15.9%）、1-1が66個（15.4%）の順になっている。

この結果を見ると、男女共に0-0の初球からの仕事数が断然に多いことがわかる。これは、プロ野球の結果と似たようなものになっている。先に述べたように、ピッチャーの心理として初球はストライクが欲しいものである。その初球を見逃さずに攻撃しているということは、一試合の平均得点の高さを裏付けるものになっていると考えられる。

逆に仕事数が少ないカウントは、男子は、2-0が8個（2.3%）、0-2が15個（4.3%）、2-2が18個（5.2%）である。女子は、2-0が14個（3.2%）、0-2が18個（4.2%）、2-3が22個（5.1%）の順になっている。この結果を見ると、ツーストライクに追い込まれてから「仕事」をするのがいかに難しいかがよくわかっていただけたと思う。

男子の場合、ツーストライクに追い込まれてからの仕事率は20.5%とかなり低い。同様に女子の場合も20.4%とやはり低い数字となっている。打者はツーストライクに追い込まれると、少々外れているボールにも手を出さなければならない。元々ストライクゾーンは、打者が自然に打撃を行うためのゾーンである。そのゾーンを外れているボールにも手を出さなければならないカウントは、やはり打者にとって非常に不利になるものである。この結果での改善策はやはり早いカウントで勝負することである。

次に目を引いたのが0-2からの仕事数が男女共にワースト2位に入っていることである。私は0-2からのカウントでは比較的打者にとって攻撃しやすいカウントであると思う。にも関わらず、このカウントでの仕事率は、男子が4.3%、女子が4.2%とかなり低い数字になっている。これはどういうことなのか考察してみる。スコアブックを見てみると、0-2からの3球目にはおよそ半分の割合でボール球が来ている。

私は0-2からでは積極的に攻撃するように指示している。もちろんそれは状況によって変化してくる。打者の調子、投手の調子、得点差、イニング、打順、試合の流れ、その他様々な状況によって、0-2から打つか、打たないか、変わってくるが、私の場合は打ての指示が多い。それはなぜかというとなると、投手の心理としては四球が頭をよぎって、大学の投手ではほとんど3球目には比較的あまいボールを投じる。その球を見逃さず攻撃していくと、自然に好結果に繋がると私は思う。以上のことを踏まえて考えてみると、打者の頭の中に少なからず四球が頭をよぎってなかなか0-2からでも積極的に攻撃しきれない部分があるのではないだろうか。この点は今後の課題にして、もっと積極的に攻撃を行うように指導していかなければならないと考えている。

〔参考文献・資料〕

- ・読売新聞1996年11月15日（夕刊），YOMIURI EVENING SPORTS
- ・日本体育大学 男・女ソフトボール部 公式戦記録（'97年度）

【提言2】男子捕手の装備について

後藤 静夫（相模女子大学）

捕手の危険防止のため、男子はヘルメット、スロートガード付マスク、レガースを競技中、必ず着用しなければならないことになっていますが、ボディプロテクターについてのみ「着用することが望ましい」と、幅をもたせてあります。そのため、男子チームの捕手は現在のところ、そのほとんどが着用しておりません。私はこれは着用を義務づけるべきだと思います。過日の関東大学選手権でも、決勝に進出した2チームのうち、一方はプロテクターを着用しておりませんでした。

着用しない選手に聞いてみますと、“動きづらい” “窮屈である” というのが主な理由で、特に不必要だという根拠は見当たりませんでした。昨今は投手の投球もスピードを増し、しかも変化球も多いので、身体前面を捕手が無防備のままにしているのは危険だと思います。そのうえ、ホームに突入してくる走者との接触の事を考えますと、「着用しなければならない」とルールに明記すべきではないでしょうか。

やがては野球と同じく、プロテクターをしない捕手はおかしい、というくらいに常識化されることを望みます。

「ウインドミル」発刊にあたっては、競技記録の掲載のみならずソフトボールに関する調査・研究等の掲載も企画されているが、創刊号(平成9年度版)では記録の掲載のみに留まった。しかし、今年度はその企画を実行するという本連盟の末井理事長先生の強いご意向もあり、若輩者ではあるが、私が過去に行った研究の一部を以下に紹介することとする。

ウインドミル投法の動作分析的研究

I. はじめに

投球動作に関する研究は数多くあるが、その多くは野球やハンドボールなどオーバーハンドスローについての研究^{1, 2, 3, 5, 6)}であり、サイドハンドスローやアンダーハンドスローの研究は数少ない。特に、アンダーハンドスローの一つであり、ソフトボールのピッチングで主流をなしているウインドミル投法についての研究⁸⁾は少ない。

そこで、本研究はウインドミル投法について動作分析的見地より熟練者と未熟練者の比較・検討、さらには未熟練者のトレーニング効果についても検討し指導法の一助とすることを目的とした。

II. 方 法

1. 被験者

熟練者として全日本大学ソフトボール選手権優勝投手2名。未熟練者としてウインドミル投法の指導を一度も受けたことがない体育学部の学生3名および教員2名の計5名であった。全被験者が右利きであった。

2. 測定項目

図1に示したように、フォームを分析するために被験者の側方と後方に16mm高速度カメラを設置し、投球動作を撮影した。同時に上肢と肩関節筋群の筋活動を見るために橈側手根屈筋、尺側手根伸筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋、三角筋前部、三角筋後部、僧帽筋そして大胸筋の計8ヶ所(全て右側)より筋電図を記録した。さらに、軸足(右足)の後方への蹴りの力を測定するために圧力盤による足圧の測定も行った。高速度カメラの映像と筋電図との同期は、被験者の指先につけたDC回路スイッチを用いてボールのリリース時点を検出することによって行った。また、正確性を観察するために投球されたボールが標的板のどこに当たったのかを全て記録した。

3. 実験方法

被験者に十分なウォーミングアップを行わせた後、図1に示された標的板のストライクゾーン(中央部に示した縦0.6m、横0.4mのエリア)をめがけて30投の全力投球を課し、コントロールを観察した。コントロールの測定は、験者がボールの当たった場所をできる限り正確に記録することによって行った。この投球の間に5投分の映像、筋電図および足圧のデータの収集を行った。また、未熟練者には標的板に向かって全力投球するトレーニングを3週間毎日行わせた。1日の投球数は30投であった。

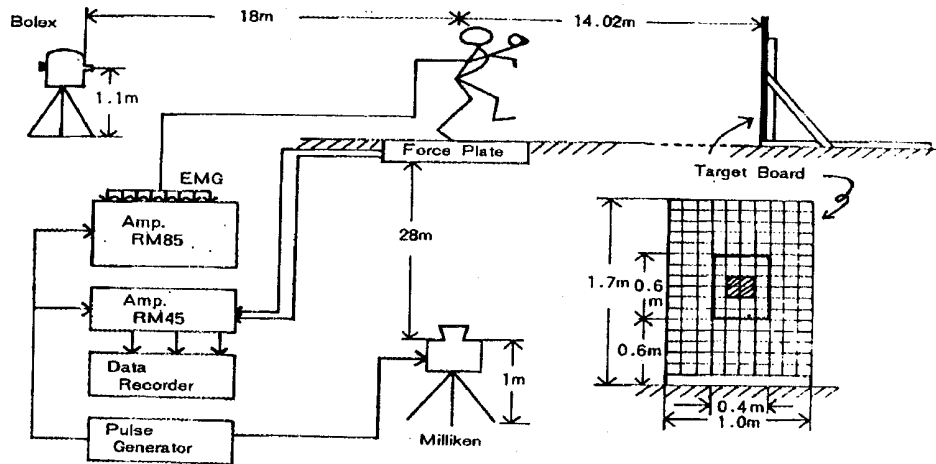


図1. 実験風景および装置の模式図

III. 結果と考察

1. ボールの軌跡から見た動作の再現性とコントロール

図2は熟練者(左)と未熟練者(右)の側方(上)と後方(下)から見たボールの軌跡を5投分重ね合わせた結果である。投球動作中のボールの軌跡を比較すると、熟練者が未熟練者に比較して再現性の高いことが分かった。未熟練者においてはセットアップの位置までもが定まっていないことも分かる。また、図中の矢印はボールのリリース時点を示しているが、やはり熟練者のリリースポイントの再現性が高く、未熟練者では低いことが分かった。特に、未熟練者ではリリースポイントのみならずボールのリリースされる方向にもばらつきがあることが分かった。他の未熟練者もこの図の未熟練者と同様な傾向であった。村瀬と宮下⁴⁾はボウリングの投球動作

を分析した結果から「動作の再現性の高い者ほど動作は習熟している」と報告している。本研究においても同様の結果であった。さらに、図2の後方(下)からのボールの軌跡に着目すると、熟練者は腕を一回転させる過程において、ボールが頭上近くを通過しているにもかかわらず、未熟練者では頭上から右側方に遠く離れたところを通過している。

これは、熟練者では投球時に左足をステップさせると同時に両肩を結んだ線が目標方向に向けられる。すなわち、

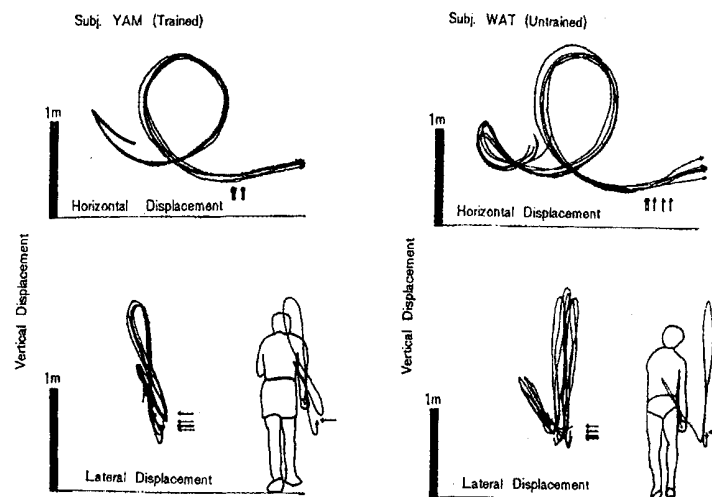


図2. ボールの軌跡から見た熟練者(左)と未熟練者(右)の動作の再現性
上段は側方、下段は後方から見た5投分重ね合わせ。矢印はリリース時点を示す。

腕の回転が前頭面(胸に平行な面)に沿って行われるため、肩関節の構造上ボールが頭頂の上方を通過するような動作が可能になると推測できる。その後、ボール位置が頭頂を過ぎたあたりから体幹を捻りながら胸を目標方向に向けリリースしている。これに対して、未熟練者では投球動作中、終始胸が目標方向に向いたままであるため腕の回転は矢状面(身体を前後に貫く面)に平行となる。このため肩関節の構造上ボールの軌跡が頭頂から離れたところを通過させざるを得ない投球動作となったと考えられる。このように熟練者ではオーバーハントスローでの投球動作と変わらない体幹の捻りを利用して投球していることが分かった。ちなみに、未熟練者のトレーニングにおいて、ボールの軌跡の再現性は高くなる傾向にあったが、体幹の捻りを使った投球フォームへの改善は認められなかった。未熟練者に対して正しいウインドミル投法、特に腕の回転と体幹の捻りを利用したより合目的な技術を身につけさせるには適切な指導者と長いトレーニング期間が必要であろう。

このようなボールの軌跡やリリースポイントの再現性の違いは、コントロールに影響してくることは言うまでもない。その結果を示したのが図3である。この図に示された標的板の中央には20cm四方の目標部分を、そして、この部分を中心に幅40cm高さ60cmの仮のストライクゾーンを設けた。黒丸はボールの当たった場所を示している。被験者への投球時の指示は、①正しい投球方法で、②目標部分をねらい、③全力投球する、という3点を与えた。図中左には熟練者を、右には未熟練者の代表的な結果を示した。熟練者は30投中、ストライクゾーンに16投が命中し、そのうち8投は目標部分に命中した。熟練者としてはコントロールがあまりよくないように思われるが、これは筋電図の電極やリード線によって普段の投球が思うようにできなかった可能性があると考えられる。一方、未熟練者ではストライクゾーンにわずか3投しか命中せず、しかも、目標部分には1投も命中させられなかった。未熟練者の特徴としては、目標から外れたボールが図中右下(右バッターの内角低め)と図中左上(右バッターの外角高め)に集中する傾向にあった。動作やリリースポイントの再現性の違いがこのような結果を生じさせたといえよう。未熟練者に行わせたトレーニングの結果、コントロールについて有意な改善は認められなかった。熟練者の正確なコントロールは長年のトレーニングによって培われた成果であり、わずか3週間で習得できるものではないことが分かった。

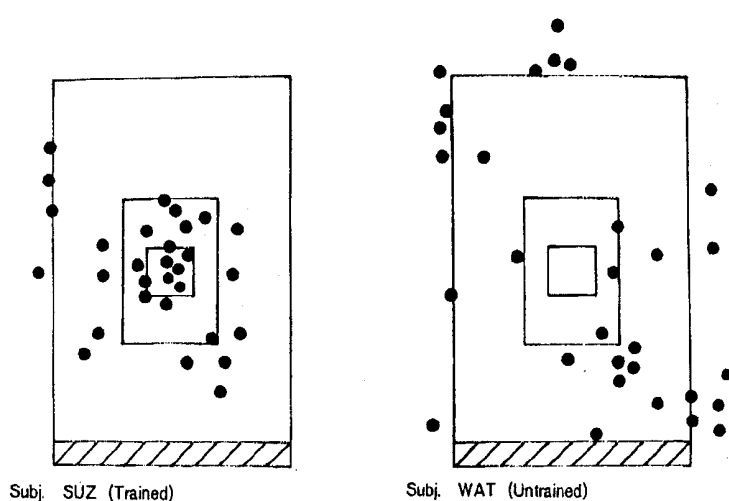


図3. 熟練者(左)と未熟練者(右)におけるコントロール

2. ボールの初速度について

ボール初速度は、熟練者2名の平均値が秒速26.4m(時速95.0km)であり、未熟練者の平均値が秒速16.7m(時速60.1km)であった。未熟練者のトレーニング後のボール初速度は、全被験者の平均値が秒速20m(時速72.0km)となりトレーニング前に比較して1%水準で有意に増加した。ところで、ボール速度は、①身体の前方へ移動速度、②腕の回転速度、③スナップ(手首の回転速度)の3つから成り立ってい

と考えられる。そこで、この3点からボール初速度について検討することとした。

1) 身体の前方への移動速度

図4は投球時の軸足(右足)によって発揮された後方への力(横軸)とボール初速度との関係を示す。この結果、軸足の後方への蹴りの力とボール初速度には有意な関係がないことが分かった。ではどのようにして熟練者が前方への推進力を得ているのであろうか？ 動作を観察すると、熟練者ではピッチングモーション開始と同時に体幹を深く前傾し、さらに踏み出し足(左足)を大きく前方に踏み出すことによって身体を前方に移動させていた。一方、未熟練者では踏み出す足の距離も小さく体幹の前傾角度も浅い投球フォームであった。すなわち、前方への推進力は軸足によってピッチャープレートを蹴るというより、むしろ体幹を前方に倒しながら踏み出し足を大きく踏み出すことによって獲得していると考えられる。さらに、このようにして得られた身体の前方向への移動速度に、体幹の捻りによる肩の前方向への移動速度もボール速度に貢献していると考えられる。熟練者は、まさに全身を効果的に使って投球していることが分かる。

ところで、本研究では被験者は圧力盤の上に示されたラインをピッチャープレートとして投球したため、実際のピッチャープレートのように軸足の裏がプレートを蹴るというような動作ができなかった。したがって、本研究では軸足の後方への蹴りの力を過小評価している可能性があることも考慮しなければならない。

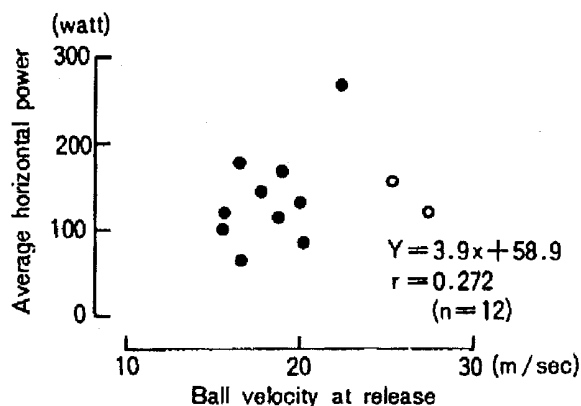


図4. ボール初速度と軸足の蹴りのパワーの関係

2) 腕の回転速度

図5は腕の回転速度とボール初速度の関係を示した図である。この結果、腕の回転速度とボール初速度には1%水準で有意な相関関係が認められた。未熟練者は熟練者と比較して腕の回転速度が遅いことも分かった。このことは、先にも述べたように、未熟練者の投球フォームが腕を回転させることが困難な状況(胸が投球方向に正対したままで投球)にあることから、当然の結果であろう。ちなみに、未熟練者のトレーニングの結果、腕の回転速度が増加し、ボール初速度も増加した。なお、未熟練者の指導では腕の回転を円滑に行うための効果的な体幹の使い方に重点を置いた指導をする必要があると考える。

3) スナップ

図6には手関節でのスナップ動作を評価するために、熟練者(左)と未熟練者(右)における右肩を基点とした際のボール(実線)と手首(破線)の角速度の変化を示した。熟練者ではリリース直前の手首の角速度が急激に減少し、ボールの角速度が急激に増加している。これは、ハンマーでくぎを打つ際に見られる手首の動き

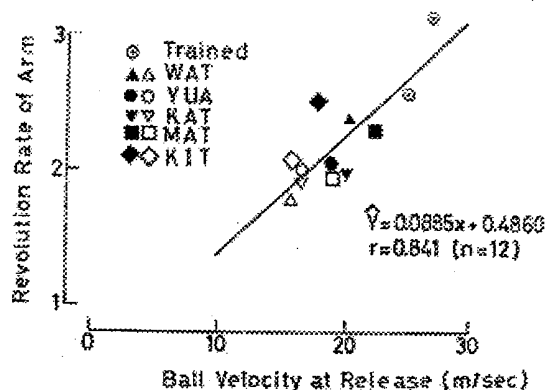


図5. ボール初速度と腕の回転速度の関係

白抜きは未熟練者のトレーニング前、黒抜きはトレーニング後を示す。

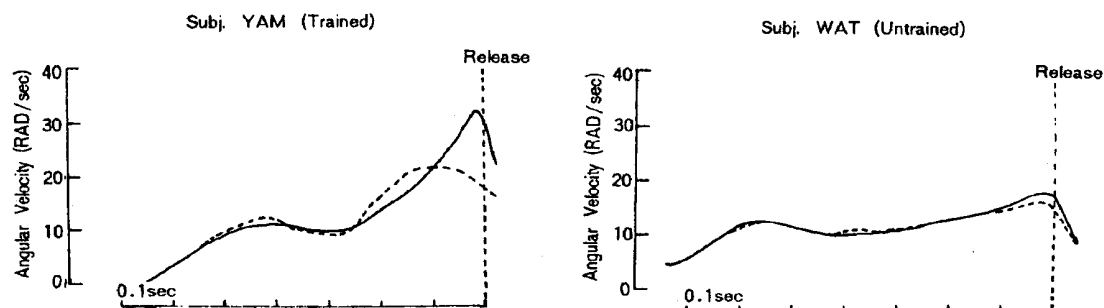


図6. 熟練者(左)と未熟練者(右)における右肩を基点とした際のボール(実線)と手首(破線)の角速度の変化

と同様なスナップを利かせている状態を示した結果といえる。一方、未熟練者ではボールの角速度はリリースまで手首の角速度とほぼ同様であり、スナップ動作が認められなかった。すなわち、熟練者ではリリース直前に手首が大腿部に接触することが引き金となって腕の回転にブレーキを与え、その時点から手首の屈曲が始まり、腕の回転によって得られたボール速度をさらに加速させていると考えられる。このことについては、図7に示したように手首のスナップに大きくかわらうと考えられる橈骨手根屈筋の筋放電の様子からも確認できた。図7のそれぞれの筋における縦軸はリリース時点を示す。熟練者ではリリース時点に大きな放電がタイミングよく出現しているが、未熟練者ではその放電量は決して大きくはなく、また、リリース時点にそのピークが一致しているわけでもない。

しかしながら、未熟練者 MAT は熟練者と同様な筋放電パターンを示した。これは、未熟練者 MAT が中学・高校時代に野球部の投手であったため、スナップの効果的な利用方法を習得していたと考えられる。ところで、豊島ら⁷⁾は「投法のいかに関わらず手関節は水平方向という目的条件を完成するためにボールの加速に直接関与する」と報告している。この被験者 MAT は、ソフトボールのピッチングについては未熟練者であるが、投球に必要なスナップの効果的な利用ということについては熟練者であったと考えられる。一方、Zollinger, R. L.⁸⁾は手関節のスナップはボールの初速度に直接影響するのではなく、ボールにスピンをかけることに貢献していると報告していることから、スナップについては今後さらに究明する必要があると考える。

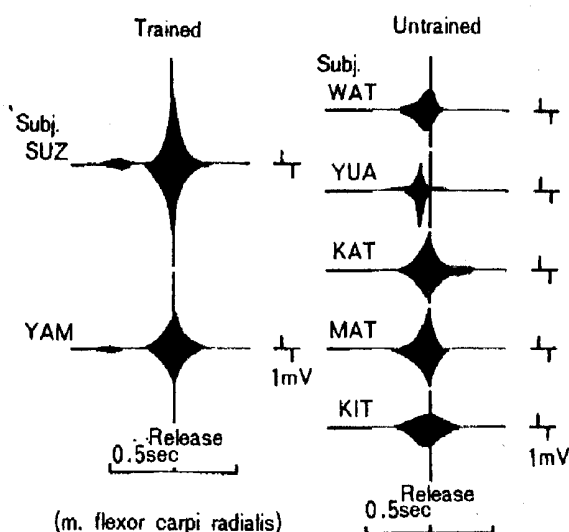


図7. 熟練者(左)と未熟練者(右)における橈側手根屈筋の筋放電パターンの比較
縦軸はリリース時点を示す。

IV. まとめ

ウインドミル投法について、筋電図、16mm 高速度カメラ、圧力盤そして標的板を用いて熟練者と未熟練者の比較を行った結果、次のようなことが明らかとなった。

- 1) 熟練者と未熟練者のコントロールの差は長いトレーニングによって培われた技術の差によるものと推

測できる。これについて本研究では、投球動作中のボールの軌跡の再現性や橈骨手根屈筋の放電のピークとリリース時点の一致、また、安定したリリース位置として観察された。

- 2) ボールの初速度は熟練者において平均値で秒速26.4m、未熟練者では平均値で秒速16.7mであった。この初速度の差は腕の回転速度、体幹の捻りそして手関節の効果的な利用によるものであり、軸足の後方への蹴りによるものではないことが示唆された。
- 3) 1日30投を3週間毎日投球するという未熟練者のトレーニングでは、ボール初速度の増加は認められたが、コントロールに効果は認められなかった。

引用文献

- 1) Anderson, M. B. : Comparison of muscle patterning in the overarm throw and tennis serve. Res. Quart. 50(4), pp. 541-553, 1979.
- 2) Broer, M. R. and Houtz, S. J. : Pattern of muscular activity in selected sport skills. Springfield, Charles C. Thomas, 1967.
- 3) 風井 弘, 熊本水頼, 岡本勉, 山下謙智, 後藤幸弘, 丸山宣武 : 野球の投動作(オーバーハンドスロー)における上肢・上肢帯筋群の作用機序. 体育学研究 21(3), pp. 137-144, 1976.
- 4) 村瀬豊, 宮下充正 : ボウリングのキネシオロジー. 体育の科学 23(10), pp. 654-659, 1973.
- 5) 正木健雄 : ハンドボール動作の分析. 体育学研究 3(1), p. 31, 1971.
- 6) 豊島進太郎, 渡辺融, 古谷嘉邦, 高嶋冽, 吉武敦磨, 山本隆久 : ハンドボールにおける投球動作の分析. 体育学研究 10(2), p. 446, 1965.
- 7) 豊島進太郎, 松井秀治, 宮下充正 : 投球動作における上肢筋群の筋電図学的研究. 体育学研究 15(2), pp. 103-109, 1971.
- 8) Zollinger, R. L. : Mechanical analysis of windmill fast pitch in women's softball. Res. Quart. 44(3), pp. 290-300, 1973.

<本報告は「修士論文(昭和 55 年度)」および「ウインドミル投法の動作分析的研究(中京体育学研究: 21(1), 114-121, 1981.)」をもとに執筆した。>

ソフトボールにおける打者の視覚情報についての研究

水田悦世（岡崎整形外科病院）

【研究目的】

スピードが勝負のスポーツの世界では、プレイ中に絶えず何をするべきか素早く意思決定し、その決定通りに実行に移せることが必要である。その過程で視機能の果たす役割は、特に重要であると考えられる。その意味で、野球型のスポーツであるソフトボールも競技という観点からは、視機能、特に、動体視力が重要なポイントであることは容易に推察できる。

ソフトボールは、野球と比べるとピッチャーズプレートとホームプレートの距離が6 mほど短くなるが、その至近距離でボールの球種を見極め、それに反応することは非常に困難であると思われる。

そこで、ソフトボールにおいてピッチャーのリリース地点からホームプレートまでの間に、どれほどの情報があればバッティングが可能になるのかを明らかにすることを試みた。

【研究方法】

（実験期間）平成9年11月

（実験対象）被験者は、C大学女子ソフトボール部のレギュラーレベルの右打者7名、左打者6名である。

なお、C大学ソフトボール部は毎年大学選手権に出場している。

（実験方法）投球は、ドラム型ピッチングマシンを利用し、89km/hのストレートとした。被験者は視覚遮蔽装置を装着した。この装置は、ピッチングマシンのボールがリリース地点の赤外線をカットしてから任意の delay 時間（msec 単位）をおいて、前額部の遮蔽プレートが落ち、視覚を遮蔽するものである。プレートが0から90になるための機械的タイムラグは40msecであるが、45になった時点で被験者の視覚を遮蔽することから、機械的タイムラグを20msecとして delay 時間をセットした。

被験者の遮蔽条件は、ピッチャーのリリースから1/5で遮蔽され以降の視覚情報がない条件、1/3で遮蔽される条件、1/2で遮蔽される

条件、遮蔽なし条件の4条件を設定した。遮蔽条件はすべてランダムで行い、被験者は遮蔽か否か予測できないようにした。被験者は、遮蔽条件ごとに5本、計20本のバッティングを行った。一打ごとのバッティングについて、ソフトボール経験者の判断により打球の方向を各ポジション、ファウル、空振り、投球の見誤り、の12分類にし、打球の内容をゴロ、ライナー、フライ、ファウル、空振り、の5つに分類し、視覚情報とバッティングの関係を考察した。

【結果・考察】

視覚遮蔽の実験では、ファウルと空振りをのぞく前方に飛んだ打球の方向では、セカンド方向への打球の割合が最も多かった。4条件の中では、 $1/5$ で遮蔽される条件は空振りやストライク、ボールの見逃しの数が多く、 $1/3$ で遮蔽される条件は、ファウルとフライがどの条件よりも多かった。また、 $1/2$ で遮蔽される条件と遮蔽なしの条件は、内容的に数値が近いことが明らかになった。

この結果から、打者は、ピッチャーのリリース地点からホームプレートまでの $1/2$ の視覚情報で意思決定し、バッティングをするか否かを予測していると考察できる。

【結論】

本実験の結果は、球種がストレートであり、速度も一定である。また、マシンボールを使用しているため、ほぼストライクが入るという条件下のもとで実験を行った。実際のバッティングは、球種や速度、またその試合の状況などによって条件は一球ごとに複雑なものである。バッターは、ピッチャーのリリース地点の情報、ピッチャー自身のもっている癖などを、試合前に研究しておく必要があると考えられる。逆に、ピッチャーは、今回の実験の結果でもあるように $1/2$ の条件で判断しているバッターが多いので、 $4/5$ の地点で変化する球種（ライズボール・ドロップ・カーブなど）を取得すれば試合に有利であると考えられる。今後、この実験を参考とし、眼（動体視力）を鍛えるメニューを練習に取り入れることが、バッティング技術の向上に有効であると考えられた。

※本稿は、平成9年度中京女子大学体育学部卒業論文の抄録である。なお、実験にあたっては、石垣尚男愛知工業大学教授のご指導をいただいた。記して感謝いたします。

編集を終えて

森田啓之（兵庫教育大学）

まず、機関誌「ウインドミル」での初めての研究的内容の募集に対して、多忙な中をご執筆いただいた方々にお礼を申し上げます。

第2号からこのような内容での中身の充実を図るにあたって、ウインドミルは「ソフトボール関係者への情報提供を主とするのか、それとも学術雑誌的なものをイメージして取り組んでいくのか」などについて、常任理事会でも論議されました。個人的な意見ですが、今回編集等の作業をしてみて感じたのは、当面手探りをしつつ、少しずつ方向が固まっていけばよいのではないかということです。投稿された内容を見ていただければ明らかですが、研究報告から提言にいたるまで多岐にわたっており、どれも興味深いものばかりです。

特に、松永氏の論文は、上述の「ウインドミルの内容」について“1つの”方向性を示唆してくれています。詳細については本論の結論部分を読んでいただければと思いますが、特質すべきは、「研究のための研究」ではなく、「スポーツの実践研究」の本来的課題を対象にする（私流の表現をさせてもらえば、実践から生じた問題を深めていく）ことを提案されている点です。また、スポーツ指導・実践に関わる研究というのを「医学領域の臨床報告」と類比させながら、従来のアプローチ（客観性に向けて共通項を数量的に把握していく）に加えて、スポーツ指導実践の臨床報告がたくさん提出されることを希望されています。このような考えは最近、「授業研究」領域においても盛んに語られています。つまり、至る所で、「実践」を対象とする研究とは？ということが問い直されているのだと思います。このイメージを具体化し、研究にしていく（＝共有財産化していく）方法論はさらに論議を要すると思いますが、松永氏の論文は、このようにソフトボールの指導・実践を研究することの大きな枠組みを示してくれた点で、第1回目のもので大変有意義な内容と思われます。

最後に、今回の掲載論文などを契機に、論議が深まることを願っています。

研究論文、実践報告並びに研究企画などの募集

来年度以降も内容を一層充実、発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画を！というようなものがあれば、併せて連絡を下さいますようお願いいたします（それを必ず全日本学連として取り組むという確約はできませんが、是非とも検討していきたいと思っています）。

研究・調査委員会 小川幸三・森田啓之

なお、当面は毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付していくつもりですので、下記までご連絡下さい。

森 田 啓 之

〒673-1415 兵庫県加東郡社町下久米942-1

兵庫教育大学 生活・健康系講座

TEL&FAX 0795-44-2227（ダイヤルイン）

E-mail: hmorita@life.hyogo-u.ac.jp

全日本大学男子選抜チーム ニュージーランド遠征

末井健作・全日本大学ソフトボール連盟理事長を団長とする、全国11大学から集められた男子選手25名によって編成された全日本大学選抜チームは、平成10年2月5日から12日間の日程で、世界トップレベルのソフトボール強国であるニュージーランドに遠征を行った。大学連盟としての海外への遠征は、平成4年のブラジルに次ぐ2回目の企画となるが、男子チームとしては初めての試みであった。

■遠征の意義・目的

今回のニュージーランド遠征では、前回のブラジル遠征が現地日系人との親善を主たる目的としたのに対して、ニュージーランド国内でも権威ある大会として認知されているトーナメントに参加してハイレベルのソフトボールに挑戦するという、その目的において競技性が強く求められたものであった。また今後、大学連盟がニュージーランド協会との交流をさらに深化させていくためにも、そこで展開されるゲームの内容が問われるものでもあった。

他方、遠征の実現にあたっては、日本オセアニア交流協会（本部：学校法人園田学園）からの支援をあおぐことができたことにより、単にソフトボールだけでなく、ニュージーランドの自然や文化、歴史等についても併せて見聞できる機会が得られ、広く教育的意義が付加された、学生にとってはより相応しい海外遠征の内容ともなった。

■波乱の幕開け

当初の予定では、遠征の最初にカージナルス・トーナメント、遠征の最後にディーン・シック・トーナメントに参戦することになっていた。ところが、主催側の事情によってカージナルス・トーナメントそのものが中止となっていたために、遠征初日からスケジュール変更を余儀なくされる幕開けとなってしまった。鼻息も荒く乗り込んできただけに、振りあげた拳の所在に困惑する心境であった。幸いに、主催チームであるカージナルスの計らいで急きょ練習試合を組むことができたが、このことを皮切りにそれ以降も「明日の予定は明日にならないと立たない」という不安と苛立ちの中に身を置くことが多くなっていた。しかしながら、我々チームにとっては日本社会の常識では測れない、まさしく国際感覚を涵養するのに絶好の条件に恵まれたと言ってよかった。実際に、選手たちは日を追うごとに落ち着きをみせ、海外での試合に臨むための気持ちの構え方を自然と身につけていくくれた。「怪我の功名」とはこういうことを言うのかも知れない。

■練習試合の結果

全日本大学選抜チームは、必ずしも十分なコンディションの状態にあったわけではなかった。2月といえば日本国内ではオフ・シーズンの真っ只中でもあり、さらに1月の関東地方を中心とした異常気象とも思える大雪は、参加選手の練習不足をいよいよ招いていた。

また、本来なら即席のチームということもあり、事前の合同練習などによって選手間の相互理解を促したり、あるいは監督とコーチが各選手の能力を正確に把握するという、チームとしてのパラダイムを確立する上で重要な手続きが必要であったわけであるが、大学連盟側の時間的・経済的都合から実施するまでには至らなかった。このことは、今後の海外遠征に反映させなければならない大きな反省材料となった。

そういった状況のチームであったために、トーナメントに臨むまでの4試合の練習試合では、勝敗は意識しつつも、各選手の能力とその組み合わせに探りを入れることに心を砕いた采配が中心となったといえる。

練習試合の結果は1勝3敗であった。ニュージーランドの各打者の力強いバッティングもさることながら、投手陣の調整不足は否めない感があった。また、不用意なエラーをきっかけに大量失点を誘う場面がたびたび見られるなどフィールディングにも精彩を欠いていた。

ニュージーランドの投手は評判どおりそのレベルは高く、かつ各チームとも安定した投手力を揃えていた。彼らのゆったりとしたモーションからスーッと伸びてくるスピードボールにはなかなかタイミングが取れないようであり、加えてライズやドロップの変化には目がついていけないほどの鋭さがあった。すべからく、日本チームは打球を前に飛ばすことさえ容易でなく、敗れた3試合では1試合平均10個を超える三振を喫してしまった。

かくして、ニュージーランドチームのパワーとスピードに圧倒されっぱなしの日本チームではあったが、最終の第4戦では西岡が相手打線から8三振を奪う好投をみせ、目が慣れてきた打者にも本来のスイングが蘇り始め、溝口の本塁打や足を絡めた集中打などによって初勝利を挙げることができた。この勝利はチーム全体の士気を大いに高めてくれた。そして、翌日から始まるトーナメント戦にその高まりをぶつけていったのだが……。

■トーナメント戦の結果

2月13日（金）よりディーン・シック・トーナメントが開催された。この大会では、参加8チームを4チームづつ2つのセクションに分けて総当たりを行わせ、その順位によって進めるトーナメントが決められるというものであった。したがって、セクション内で2位以上の成績を残さないと決勝トーナメントには進むことができない。日本チームはセクションAに組み入れられた。

○第1戦：Ramblers 戦

まだ十分に明るさのある午後7時、開会式もなければ始球式もない淡々とした試合開始である。事前の情報収集ではかなりの強豪と聞いていた。先発は八巻、2回までは両サイドに球を散らして的を絞らせない上々の立ち上がりだったが、3回に入ると徐々にミートされるようになり、2点本塁打で先制点を与えてからはその勢いを止めることができなかった。5回途中から登板した澤岬もその流れを断ち切ることができず、2本の本塁打に沈んだ。

一方打線は、3人の継投に手も足も出ず、10三振を奪われた上にノーヒットに抑えられるというパーフェクトな内容で5回コールドゲームとなった。

○第2戦：Dodgers 戦

日本チームは4回、原田の三塁打と川瀬の内野安打を足掛かりに2・3塁と攻め、岡村の2点タイムリーで先制するものの、その裏、それまで粘り強く投げていた西岡が先頭打者に四球を与えた直後の不用意な初球を本塁打され、日本チームに傾きかけていた流れをものにすることができなかった。日本チームにとっては、先制してなお1アウト3塁の好機に追加点をあげられなかったことが痛かった。合計で14三振を奪われるなど、その後は完全に沈黙させられた。

○第3戦：Cardinals 戦

この日連投となった西岡は、その立ち上がりの制球難に2本のタイムリーを集められてあっさりと先制を許す。すかさず、安打で出塁した原田をしぶとい巧打で岡村が還して追撃態勢に入るが、その後は要所を締められ、8安打を放ちながら2得点に抑え込まれた。結局5回までに7安打された西岡が5点を献上して、中盤までで試合を決められてしまった。

○第4戦：Northcote 戦

セクションAで全敗して4位となった日本チームは、セクションB3位の Northcoteと3-4位トーナメント進出をかけて対戦した。練習試合では勝った相手だけに、ここでトーナメント戦を終わらせたくないと考えていた。

初先発の柿葉は、制球の定まらない苦しい立ち上がりだったが、それでも苦心の投球でどうにか相手打線をはぐらかしていた。1点ビハインドの日本チームは3回、先頭三原の二塁打をきっかけとする1・3塁の好機にダブルスチールを敢行して同点に追いつき、5回には、南風と横川の執念ともいえる足を生かした出塁に西村と溝口がタイムリーで答えて逆転する。中盤までは、機動力に活路を求めた日本チームが完全にこのゲームを支配していた。しかし、たびたび塁を埋める制球難には復調の兆しが見られず、救援に登った澤岬とともに11四死球を与えてしまっはもはや逃げきれぬ道理もなく、守備の乱れも手伝って自滅していった。日本チームにとっては、勝ちゲームであっただけに非常に残念な敗戦であった。

素晴らしい体験をしたニュージーランド遠征
◆団長 末井 健作

男子チームとして初めての海外遠征は、ニュージーランド・ソフトボール協会および日本オセアニア交流協会の絶大なるご支援を得て成功裡に終えることができました。これもひとえに、関係各位や役員、および選手の皆さんのご協力のお陰と心よりお礼申し上げます。今回の遠征では、権威あるディーン・シック・トーナメントに参加いたしました。残念ながら芳しい成績ではありませんでしたが、世界最強といわしめるレベルの高いソフトボールを体験することができました。選手諸君にとっては、今後のレベルアップのための課題が明確になったことと思います。

また、ウェリントンとオークランドでは、全員ではありませんでしたがホームステイをお願いすることができました。短期間ではありましたが少しでも異文化を知るとともに、日本文化を逆に発信することもできたのではないかと思います。言葉に苦労しながらも、いろいろなことに適応しようとする柔軟性あふれる若さには改めて驚かされもしましたし、温かく迎えてくれたホストファミリーとの涙の別れには強い交情の芽生えを感じることができました。この交情がいつまでも続くことを願います。

さらに、各種の大会が多くボランティアによって運営されていることも知ることができました。私たちも大いに参考にしなければならないと思います。また、ニュージーランド・ソフトボールを根底で支えているクラブチームは、6才の子どもから各地域で編成されており、そのチームづくりや育成の仕方も大変勉強になりました。日本もこのようなシステムに早く近づきたいものです。

今後のソフトボール人生に生かしたい
◆主将 川久保 衛（日本体育大学）

「バットに当たるのか?」、これが遠征初日の名門カージナルス戦での感想であった。ニュージーランド・ソフトボールのパワーとスピードを目の当たりにして、正直いってこの遠征の先行きに不安を覚えました。しかも、初顔合わせで連繋もとれていない状態のチーム・キャプテンを任された私は、「チームとしてまとめていけるだろうか?」とも感じていました。しかし、そんな思いもゲームを経験するにつれ、またメンバーと寝食を共にしていくなかで徐々に積極的な気持ちへと変化していきました。

遠征を終えた今、多くのことを学んでいる自分に気づいています。それはまず、全国各地にソフトボールを熱く語り合える仲間ができたこと。そして、世界的レベルの投手の球筋を頭に焼きつけることができたこと。さらに、末井団長がよく言われてたことで、「どんなスケジュール、どんな食事、どんな状況になっても、それらに適応してゲームに臨んでいけなければ一流とはいえない」ということでした。私は卒業後も本田技研で競技を続けることになっていますので、今回の遠征は今後のソフトボール人生にとって大変貴重な体験となりました。

■終わりに

ニュージーランドのソフトボールは、走・攻・守どれをとってもその豪快さと果敢さに特徴があったが、その伸びやかなプレイぶりには身体能力の高さだけでは説明しようのない背景を感じざるを得なかった。それはスポーツへの姿勢と取り扱い、すなわちニュージーランドのスポーツ体制そのものではなかったか。我々が挑戦したトーナメント大会がそうであったように、子どもから大人まであらゆるレベルの試合がひとつの会場で展開されているさまは、まさに「生涯スポーツ」が具現されている光景であり、子どものスポーツと大人のスポーツが連動している光景でもあった。大人と同規格のボールで遊び、大人のプレイを身近に見ながら育っていく子どもたちには、その意識下に自然とソフトボール感覚が芽生えているに違いない。

くだんのとおり、日本チームは所期の目標を達成することができなかった。それはとりもなおさず、あらゆる面で非力であったということの例証にほかならないが、それ以上にソフトボール感覚の違いに負うところが大きかったのではないかと考えさせられる遠征であった。

(文責：総務 高 橋 伸 次)

日 程 表

日 時	行 動	宿泊先	移 動
2月5日(木)	関西国際空港内で結団式 関西国際空港発(17:45/NZ98)	機中泊	航空機
2月6日(金)	午前:Auckland到着後、空路 Wellingtonへ 午後:Cardinals と練習試合 2試合 ホストファミリーとマッチング(13名)	ホームステイ	航空機 専用バス
2月7日(土)	午前:自由行動 午後:Cardinals vs Ponake Kilbirnie の観戦	ホームステイ	
2月8日(日)	終日:Cardinals との混成チームで練習試合 2試合	ホームステイ	
2月9日(月)	午前:Rotorua に向けて出発 午後:Taupo 湖、Huka滝の観光	ホテル	専用バス
2月10日(火)	午前:Rainbow Farmを見学 午後:Rotorua 郊外で合同練習	ホテル	専用バス
2月11日(水)	午前:Aucklandに向けて出発 N.Z.MAORI Arts & Crafts Institute を見学 Waitomo 洞窟の観光 午後:到着後、ホストファミリーとマッチング(9名)	ホームステイ	専用バス
2月12日(木)	午前:Auckland市内の観光 午後:Eastcoast Bays、Northcote と練習試合 2試合	ホームステイ	
2月13日(金)	午前:Auckland郊外の観光 午後:Dean Schick Tournament 1試合	ホームステイ	
2月14日(土)	終日:Dean Schick Tournament 2試合	ホテル	
2月15日(日)	終日:Dean Schick Tournament 1試合	ホテル	
2月16日(月)	Auckland International Airport発(07:50/NZ93) 福岡国際空港到着後、解団		航空機

役員および選手

役 員				
団 総 監 コ	長 務 督 チ	末 高 吉 奥	井 橋 末 間	健 伸 和 忍 作 次 也 (姫路工業大学) (高崎経済大学) (関西大学) (福岡大学)
選 手				
位 置	背番号	氏 名	所 属 大 学	学 年
投 手	5	八 巻 大	福 岡 大 学	4
投 手	6	柿 葉 孝 浩	福 岡 大 学	3
投 手	7	澤 岷 慎 太 郎	福 岡 大 学	1
投 手	17	竹 下 雅 基	神 戸 学 院 大 学	1
投 手	20	西 岡 賢 二	関 西 大 学	4
捕 手	1	木 場 武 文	日 本 体 育 大 学	4
捕 手	8	溝 口 弘 一 郎	福 岡 大 学	2
捕 手	12	豊 谷 一	四 国 大 学	1
捕 手	16	渡 辺 昌 也	千 葉 大 学	3
捕 手	21	谷 脇 俊 宏	関 西 大 学	3
捕 手	24	岡 村 卓 典	中 京 大 学	1
一 塁 手	14	桜 井 竜 次	仙 台 大 学	3
一 塁 手	18	横 川 浩 二	中 央 大 学	3
二 塁 手	9	南 風 貢	福 岡 大 学	2
三 塁 手	22	川 口 慎 一	関 西 大 学	3
三 塁 手	25	小 岩 正 敏	中 京 大 学	1
遊 撃 手	10	川 久 保 衛	日 本 体 育 大 学	4
遊 撃 手	23	高 橋 長 太 郎	関 西 大 学	1
左 翼 手	26	西 村 洋 信	中 京 大 学	1
中 堅 手	11	柿 本 浩 二	第 一 経 済 大 学	2
中 堅 手	13	三 原 清 次	四 国 大 学	4
中 堅 手	15	川 瀬 圭 司	愛 知 学 院 大 学	3
中 堅 手	19	田 中 聡 史	中 央 大 学	1
右 翼 手	2	布 野 隆 文	日 本 体 育 大 学	4
右 翼 手	3	原 田 泰 光	日 本 体 育 大 学	2

練習試合の結果

第1戦 2月6日 (Fazer Park)

全日本大学選抜	0	0	0	0	4	0	0	4
Cardinals	0	3	2	0	3	0	×	8

投 手：八巻（4）、柿葉（2）

二塁打：柿本

三塁打：布野

第2戦 2月6日 (Fazer Park)

全日本大学選抜	0	0	0	0	0	0	0	0
Cardinals	1	0	0	0	4	2	×	7

投 手：西岡（4）、澤岷（1）、竹下（1）

第3戦 2月12日 (Rosedale Park)

全日本大学選抜	1	2	2	0	0	—	—	5
Eastcoast Bays	0	1	2	6	×	—	—	9

〈1時間40分時間切れゲームセット〉

投 手：八巻（3）、澤岷（1）

二塁打：柿本、川久保

第4戦 2月12日 (Rosedale Park)

全日本大学選抜	0	0	0	6	2	0	—	8
Northcote	0	0	1	0	1	0	—	2

〈1時間40分時間切れゲームセット〉

投 手：西岡（4）、竹下（2）

三塁打：布野

本塁打：溝口

トーナメント戦の結果

第1戦 2月13日 (Rosedale Park)

Ramblers	0	0	2	2	6	-	-	10
全日本大学選抜	0	0	0	0	0	-	-	0

〈5回コールドゲーム〉

[R] Steven (2)、○ Donid (2)、Steve - Lyndon

[全] ●八巻 (4)、澤岷 (1) - 溝口

▽本塁打 Clive、Kelven、Mike (R)

▽二塁打 Scott (R)

第2戦 2月14日 (Rosedale Park)

全日本大学選抜	0	0	0	2	0	0	0	2
Dodgers	0	0	0	2	1	2	×	5

[全] ●西岡 (5)、竹下 (1) - 溝口

[D] ○Thomas - Joseph

▽本塁打 Jarrad (D)

▽三塁打 原田 (全)、Thomas (D)

第3戦 2月14日 (Rosedale Park)

全日本大学選抜	0	1	0	0	0	0	1	2
Cardinals	2	0	0	2	1	0	×	5

[全] ●西岡 (5)、竹下 (1) - 溝口、畳谷

[C] ○Steve (5)、Michael (2) - Steven

▽二塁打 Steven、Gene、Stephan (C)

第4戦 2月15日 (Rosedale Park)

全日本大学選抜	0	0	1	0	3	0	0	4
Northcote	1	0	0	0	2	5	×	8

[全] 柿葉 (5)、●澤岷 (1) - 溝口

[N] ○Kyle - Mark

▽二塁打 三原 (全)

投手成績

氏名	項目 投 球 回 数	打者数	投球数	被安打	四死球	奪三振	自責点	防御率
八巻 大	11	56	204	18	5	8	8	5.09
柿葉 孝浩	7	38	116	4	13	1	6	5.99
澤岷 慎太郎	3	28	112	7	9	4	12	28.00
竹下 雅基	4	21	75	9	2	3	3	5.25
西岡 賢二	14	59	205	13	5	13	7	3.50

〈注：練習試合第2戦を除く、計7試合の集計〉

打撃成績

項目 氏名	打 席 数	打 数	安 打	得 点	打 点	犠 打	四 球	盗 塁	本 塁 打	三 塁 打	二 塁 打	打撃率
木場 武文	13	13	2	1	2	-	-	-	-	-	-	0.154
布野 隆文	13	12	4	2	2	-	1	1	-	2	-	0.333
原田 泰光	18	17	8	5	2	-	1	3	-	1	-	0.471
溝口弘一郎	21	20	6	2	6	-	1	4	1	-	-	0.300
南風 貢	20	18	5	2	2	-	2	3	-	-	-	0.278
川久保 衛	15	14	3	1	-	-	1	1	-	-	1	0.214
柿本 浩二	15	13	4	4	1	-	2	1	-	-	2	0.308
豊谷 一	2	2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	1.000
三原 清次	2	2	2	1	-	-	-	2	-	-	1	1.000
桜井 竜次	4	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	0.250
川瀬 圭司	9	9	2	1	-	-	-	2	-	-	-	0.222
渡辺 昌也	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.000
横川 浩二	3	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	0.333
田中 聡史	3	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	0.000
西岡 賢二	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.000
谷脇 俊宏	7	4	1	1	-	-	3	-	-	-	-	0.250
川口 慎一	15	13	2	2	1	-	-	1	-	-	-	0.154
高橋長太郎	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.000
岡村 卓典	8	7	3	-	3	1	-	1	-	-	-	0.429
小岩 正敏	5	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.000
西村 洋信	7	6	2	1	2	-	-	1	-	-	-	0.333

〈注：練習試合第2戦を除く、計7試合の集計〉

平成10年度の事業報告と今後の課題

全日本大学ソフトボール連盟
理事長 末井 健作

平成10年度の事業は、8月の文部大臣杯第33回全日本大学ソフトボール選手権大会（三重県、男子は伊勢市 倉田山野球場他、女子は磯部町 ふれあい運動公園他）、第4回全日本女子短期大学ソフトボール大会（東京都、日本体育大学グラウンド）及び11月の第25回東西対抗（滋賀県、長浜ドーム）と関係各位のご協力を賜り無事に終了することができました。また、後援いたしました東日本（東京都、八王子市）、西日本（鳥取県、米子市他）大学選手権大会も成功裡に終えております。大会運営にご尽力を賜りました多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

大会運営については、全日本大学選手権大会は試合会場が分散していたが、本連盟と（財）日本ソフトボール協会並びに主管していただいた三重県ソフトボール協会との連携が図られスムーズに運営された。しかし、今後さらに主管協会の関係者と十分な事前協議と連携の強化を図ることが重要であると考えます。

全日本女子短期大学大会は東京都学連、東西対抗は関西学連の学生委員を中心に運営されていますが、回を重ねる事に充実した運営は高く評価できると思います。しかし、東西対抗のあり方については、これでよいのか検討する必要があると思います。学生の皆さんは、東西対抗をどのように捉えていますか。今後、東西対抗のあり方やその存続について検討したいと考えています。

最近、男子の試合において選手諸君の品位に欠ける言動が見受けられます。今後の選手諸君の一層の自覚を促したいと思います。

大学連盟の運営面の問題としては、チーム及び選手登録者数を如何にして増やしていくか、また、大学チームのレベルを如何にして向上させるか、難問は多いが積極的に取り組まなければならないと考えています。

現在、チーム及び選手登録規定の改正を、また、平成11年度の国際交流事業として女子のオーストラリア遠征を予定しています。それらのことが、少しでも本学連の活性化に繋がることを期待しています。

平成11年度の事業がさらに充実した内容で実施出来ますよう、皆様の絶大なるご協力を切にお願い申し上げます。

熱いゲームが、
KENKOから
はじまる。



ケンコーソフトボール
(革製/3号球)

財日本ソフトボール協会検定球

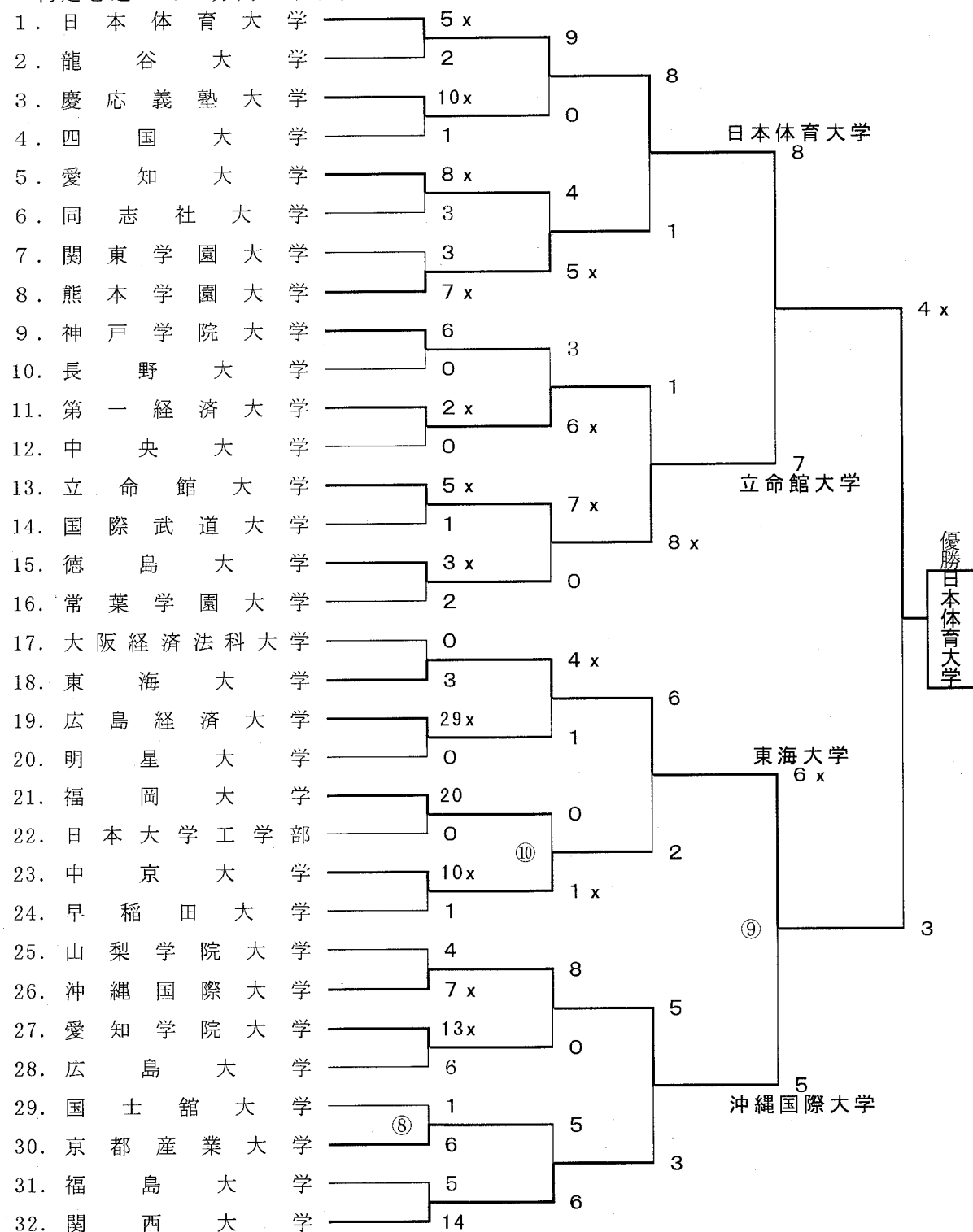


健康コミュニティを創造する

ナガセケンコー株式会社
NAGASE KENKO CORPORATION

会期：平成10年8月7日(金)～8月9日(日)

大会概要：1市1町4会場にわたる分散開催であったが、降雨のための会場変更もスムーズに行われた。決勝戦は日本体育大と3度目の優勝を狙う東海大との対戦になったが、日体大が劇的なサヨナラ勝ちで22回目、2連覇を成し遂げた。なお、準決勝戦で判定を巡って55分間の中断、大内会長の裁定による再開があったのは残念であった。



決勝戦の結果

東海大学：0 0 0 2 0 1 0 | 3 (東) ●加藤大樹－森康裕
日本体育大学：0 0 0 0 0 3 1x | 4 (日) ○濱口辰也－杉田剛

東海大学	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
(一) ①加藤大樹	投失		左前安	二内安		遊内安	
R古閑光太郎						P R	
(二) ⑧大石克了	三振		三犠バ	三振			
H中島扶						右飛	
(三) 6白井健	遊ゴロ		右邪飛		三振		一ゴロ
(四) ②森康裕	四球		死球		二ゴロ		四球
R三枝高範							P R
(五) 3渡辺周平	遊ゴロ		三ゴロ		右邪飛		二ゴロ
(六) ⑨河合康治		遊内安		右2B		中前安	(D P)
R中野貴祥						P R	
(七) D永井雅裕		三振					
HD沖出良平				三犠バ		三飛	
(八) 4田中健生		二ゴロ		左中本		遊ゴロ	
(九) 5井桁力		二ゴロ		投ゴロ		遊失	
DH守備 7三村大介							

日本体育大学	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
(一) 7堀部純弘	四球		二ゴロ		四球		一犠バ
(二) D田中徹浩	遊ゴロ			一失	遊ゴロ		左前安
(三) 6和佐野弘一	二飛(D P)			三ゴロ		四球	二強安
(四) 9原田泰光		二ゴロ		遊ゴロ		中前安	(サヨナラ)
(五) 8川口大		遊ゴロ		遊ゴロ		中2B	(三失)
(六) 3佐野悦久		一ゴロ			二内安	左飛	
(七) 2杉田剛			三ゴロ		四球	遊ゴロ	
(八) ①濱口辰也			一ゴロ		投ゴロ		
H花田和也						三振	
(九) 5森田秀章			四球		三振		三失
DH守備 4高田昌直							

戦評：6回、日本体育大は四球走者を置いて、4番原田の中前安打、5番川口が右中間を破る二塁打で一挙3点を挙げて同点に追いついた。さらに7回、3対3の同点で緊張感漂う中、先頭打者が三塁失策を誘い、犠打と安打で一死二三塁とし、3番和佐野が二塁強襲安打で劇的な逆転サヨナラ勝ちを納めた。東海大は田中の2点本塁打などで3点を先行しながら、あと一歩及ばなかった。(記録員 山下直樹)

大会打撃ベストテン(規定打席数12以上)

左打	位置	選手名	大学名	打席数	打点	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	打撃率	試合
	6	和佐野弘一	日本体育	18	14	8	4	8	3	1	・	・	・	5	1	571	5
	5	森田秀幸	日本体育	17	14	8	5	3	1	2	・	2	・	4	2	571	5
	7	真栄城校	沖縄国際	15	14	8	2	6	1	・	・	・	・	5	1	571	4
○	1	加藤大樹	東海	18	16	9	3	3	1	1	・	1	・	7	・	563	5
○	3	小島郊正	関西	13	13	7	4	6	・	・	・	・	・	3	3	538	3
	9	田原悟	沖縄国際	17	15	8	・	5	・	2	・	・	2	7	・	533	4
○	9	河合康治	東海	16	15	8	5	4	・	1	・	1	・	1	2	533	5
○	2	玉城国聡	沖縄国際	22	20	10	7	4	1	・	1	3	6	3	1	500	4
	3	谷本光司	立命館	13	10	5	3	4	1	2	・	2	・	5	1	500	4
○	DH	田中徹浩	日本体育	18	17	8	3	・	・	1	・	1	1	5	・	471	5

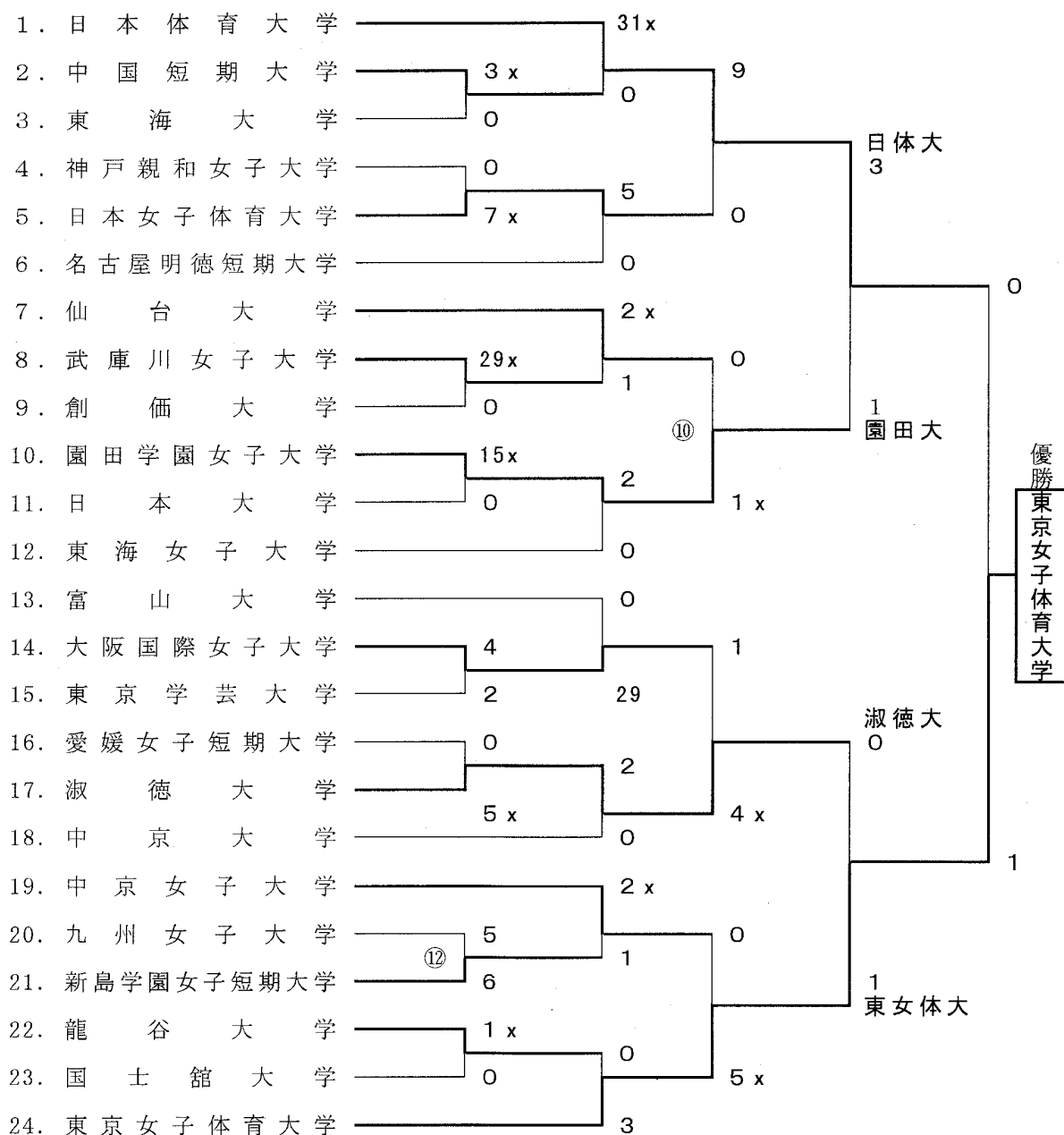
第33回文部大臣杯全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成10年 8 月 7 日(金)～8 月 9 日(日)

会場：三重県磯部町ふれあい運動公園・磯部中学校

大会概要

磯部町の小高い丘の上にある会場は、3日間好天に恵まれ、熱い戦いが展開された。決勝戦は、2年連続でこれまでの大学ソフトボールの名実ともに牽引車であった東京の2体育大学で争われた。日体大・高山樹里、東女体大・増淵まり子のともに7月の世界選手権で活躍した2人の投手を擁する名門同士の対決は、わずかのミスにつけ込んだ東女体大が3年ぶりの優勝を獲得した。東女体大は、3投手で今大会4試合を無失点・無失策で切り抜け、見事に守りきったと言えよう。3位は西の雄、園田学園女子大と初の準決勝戦進出で東女体大に1点差で涙を飲んだ淑徳大であった。なお、緊迫した好試合が多かった中で、大差の試合が散見されたのは誠に残念であった。(中京女子大 水谷博)



決勝戦の結果

東京女子体育大学	0	1	0	0	0	0	0	0	1	(東)	○増淵まり子	一	太田香
日本体育大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(西)	●高山樹里	一	吉澤美樹
東京女子体育大学	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回						
(一) 8所 祐未	左 飛	三 振			右 直			投バ安					
(二) ②太田 香	三 振		遊 飛					投 飛					
H見月 志保					三 振								
(三) 5平下 真弓	三 飛		二 飛		四 球								
(四) D岩渕亜矢子		二 飛	二ゴロ		遊 飛								
(五) ⑨霜田亜希子		中前安		一 飛		三 振							
R成沢美由紀		(塁上死)											
9仁木 景子													
(六) 7黒田 牧子		四 球		捕前バ		左前安 (盗塁死)							
(七) 1増淵まり子		中前安		一ゴロ		三 振							
(八) 6武井 裕美		二ゴロ			投強安		中 飛						
(九) 3若林 珠美		四 球			遊 失		三 直						
DH守備 4品川 典子													

日本体育大学			1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
(一)	2 吉澤 美樹	投前バ			右 飛			三 振	
(二)	6 萩田 有美	三 飛			三 振			投前バ	
(三)	8 長谷川 朋子	遊内安				三 振		遊内安	
(四)	5 新海 直子	遊 飛				中 飛		左前安	
(五)	7 畑下 純子		左前安			二 飛		三 振	
(六)	9 中村 香織		三犠バ				中前安		三 振
(七)	4 佐田 智美		三 飛				一犠バ		中 飛
(八)	3 小林 広美		一 飛				三 振		一 飛
(九)	D溝口 真智子				三邪飛		三 振		
DH守備 1 高山 樹里									

戦評：初回に東京女子体育大の一番打者の左前飛を日本体育大の畑下が好捕、その裏東京女子体育大の武井も遊越飛で好守を見せ、初回から好試合が期待された。しかし、2回に日本体育大の投手高山が突然乱れた。一死後、五番霜田が中前打で出塁すると、続く黒田の3球目の暴投で走者二進、黒田四球で一、二塁となり、7番増淵が中前安打で一死満塁と先制の絶好機を作る。八番武井の二塁ゴロで代走成沢が本塁封殺されたが、続く九番若林はストレートの四球で押し出しとなり、東京女子体育大が1点を先取した。日本体育大にも好機はあったが、増淵投手のライズ系の速球に要所を抑えられて得点に結び付けることができず、惜敗を喫した。(記録員 久保頼子)

大会打撃ベストテン (規定打席数9以上)

左打	位置	選手名	大学名	打席	打点	安打	得点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	打撃率	試合
○	2	武井 祥子	新島学園	9	7	5	1	3	1	1	・	・	2	・	7 1 4	2
	8	長谷川 朋子	日本体育	18	17	11	6	5	1	・	・	2	2	5	6 4 7	4
	5	新海 直子	日本体育	18	14	9	6	5	1	1	2	1	・	4	6 4 3	4
○	3	塩崎 恵子	大阪国際	9	9	5	3	5	・	・	・	1	・	1	5 5 6	3
○	9	西俣 郁香	大阪国際	11	8	4	4	3	・	3	・	・	3	4	5 0 0	3
○	6	萩田 有美	日本体育	17	17	8	5	3	・	・	・	3	・	4	4 7 1	4
○	8	本田 朋	大阪国際	14	11	5	5	2	・	2	1	・	5	2	4 5 5	3
○	DH	平川 香奈子	武庫川	11	11	5	3	5	・	・	・	1	1	2	4 5 5	2
○	8	浪方 康江	淑徳	12	9	4	2	・	・	2	1	1	5	3	4 4 4	4
○	DH	天野 幸世	新島学園	9	7	3	2	・	1	・	1	1	2	2	4 2 9	2

第25回全日本大学男子・女子ソフトボール東西対抗結果

主催：全日本大学ソフトボール連盟・滋賀県ソフトボール協会

主管：関西学生ソフトボール連盟

後援：日本ソフトボール協会・滋賀県・滋賀県教育委員会

期日：平成10年11月3日（祝）

会場：滋賀県立長浜ドーム競技場

男子試合結果

東軍：0 2 3 0 0 2 0 0 0 | 5 (東) ○横田・岩見・浜口・森
西軍：0 0 0 1 0 2 0 0 0 | 3 (西) ●古里・竹下・山本・久保・本多・岡村

東	軍	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
(一)	7堀部(日体)	二飛		死球	三振	三振			遊ゴロ	
(二)	DH田中(日体)	遊ゴロ		遊内安	遊ゴロ		遊ゴロ		中2B	
(三)	4池田(国士)	三振		中越本	四球					
	4田中(東海)						三振		三振	
(四)	9原田(日体)		右2B	遊ゴロ	左前安		中飛			一ゴロ
(五)	2森(東海)		捕ゴロ	三内安	二ゴロ			中前安		右前安
(六)	6和佐野(日体)		死球	中飛		四球		三振		二ゴロ
(七)	5森田(日体)		三ゴロ	遊内安		三振				(DP)
	H5井桁(東海)							三振		
(八)	8横川(中央)		三バ失	四球		遊ゴロ				
	7河合(東海)							三振		
(九)	③佐藤(日体)		左飛	左飛		四球				
	H高橋(日体)								三振	
DH守備 1横田(中央)・岩見(日体)・浜口(日体)										
西	軍	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
(一)	9牛嶋(立命)	一邪飛		中飛		二ゴ失	三振			三振
(二)	7鈴木(中京)	左飛		中飛						
	H7井ノ本(京産)					左前安		三振		右前安
(三)	2久保(立命)	捕前安								
	2本多(神学)				左越本	二ゴロ				
	2岡村(中京)					(DP)		三振		二ゴロ
(四)	8児玉(立命)	遊内安			左飛		中越本	三振		三振逃
(五)	3谷本(立命)	二ゴロ			二ゴロ					
	3平島(中京)						左2B		三振	三ゴロ
(六)	6森尾(福岡)		三振		中前安		(WP・PB)			
	6田中(関西)						三振		三振	
(七)	5水田(中京)		三振		三振		死球		右前安	
(八)	4岩佐(神学)		二ゴロ			遊ゴ失				
	4川村(立命)						左前安		中前安	
(九)	1古里(立命)			二内安						
	1竹下(神学)			(盗塁死)		二飛	三振			
	1山本(中京)								遊飛	

総評：数年ぶりの東軍の快勝の試合だった。なかでも強烈だったのは、3回に飛び出した池田選手（国士館大学）のバックスクリーンをライナーではるかに越える3点本塁打だった。ここ長浜ドームでの東西対抗は4年目になるが、過去に例を見ないほどの素晴らしい当たりであった。一方、西軍も本多選手（神戸学院大学）、児玉選手（立命館大学）が負けじと本塁打で対抗したが、勝敗を決定づけたのは先発投手であった。東軍の横田投手は無難な立ち上がりであったのに対し、西軍の先発古里投手（立命館大学）は本来の調子を出し切れていなかった。また、MVPは逃したものの、浜口投手（日本体育大学）の投球（3回2/3で9奪三振）は素晴らしい迫力だった。

女子試合結果

東軍：0 1 2 0 2 4 0 2 0 11 (東) ○高山・宇藤・増淵・吉澤										
西軍：0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 (西) ●松川・渡辺・福島・田中										
東	軍	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
(一)	②吉澤(日体)	捕バ安 (DP)		三強安		一直				二飛
	2吉村(日女)						左飛	中飛		
(二)	7黒田(東女)	一飛		三バ安		遊内安	三バ安		捕バ安	
(三)	8長谷川(日体)	投ゴロ		左前安		右前安	三遊安		投強安	
(四)	5平下(東女)		右越本	左犠飛		四球	中越本		中前安	
(五)	DH岩淵(東女)		遊ゴロ	遊内安		投強安	中前安		三振	
(六)	⑥萩田(日体)		遊ゴロ	三振		遊ゴロ	三飛			
	4鈴木(仙台)									死球
(七)	④霜田(東女)		右前安		三振	捕ゴロ				三ゴロ
	6南野(東学)							一飛		
(八)	3武井(東女)		遊飛		遊飛		投内安	右中安		右飛
(九)	9所(東女)			一バン	右飛					RR
	9平山(仙台)						二飛	三振		四球
DH守備 1 高山(日体)・宇藤(日女)・増淵(東女)										
西	軍	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
(一)	7新納(九女)	三振		遊ゴロ			三ゴロ			
	7佐藤(関外)							中飛		
(二)	3森(園田)	三ゴロ			三ゴロ		二ゴロ			中前安
(三)	9小坂(園田)	二ゴロ			三振			遊飛		遊ゴロ
(四)	6高(園田)	一ゴロ			中前安			投内安 (守妨)		一ゴロ
(五)	4大西(園田)	二ゴロ			左邪飛			一二安		三振
(六)	5芹澤(園田)	三振				遊飛		二内安		
(七)	DH中出(関外)			四球		三振		二飛		
(八)	②田中(園田)			捕犠バ					遊ゴロ	
	H南(関外)					一ゴロ				
	2末武(関外)									
(九)	8渡辺(九女)			遊ゴロ			三振			
	8朝木(大谷)								二ゴロ	
DH守備 1 松川(園田)・渡辺(関外)・福島(九女)・福井(大谷)										

総評：攻守ともに東軍が圧倒した内容だった。西軍の繰り出す4投手から19安打を放ったが、周囲を驚かせたのは平下選手（東京女子大学）の打撃であった。特に初回のライトへの本塁打は、ここまで引きつけないと打ってもファールというインコースを腰の回転ではじき返したものだ。理屈で分かっているでもそれを実行できるスキルの高さには、観戦していた指導者達も驚かされた。最終的にこの平下選手が11点中の8点をたたき出す大活躍となったが、見逃してならないのは、その前に位置する黒田選手（東京女子体育大学）と長谷川選手（日本体育大学）の高い出塁率である。それぞれ4安打（うち3安打はバントによる）、3安打と、平下選手の前にチャンスがいっつも用意されていたのである。一方、投手でも高山選手（日本体育大学）は実績通りの内容を見せたが、宇藤選手（日本女子体育大学）、増淵選手（東京女子体育大学）の投球も素晴らしかった。来年の西軍の頑張りに期待したい。

対戦成績 男子東軍の14勝（6年ぶり）11敗、女子東軍の20勝（4年連続）5敗

表彰選手

最優秀選手賞 男子：池田将人二塁手（東軍、国士舘大学）
 女子：平下真弓三塁手（東軍、東京女子体育大学）
敢闘賞 男子：児玉直人中堅手（西軍、立命館大学）
 女子：高祐紀子遊撃手（西軍、園田学園女子大学）

会場：日本体育大学深沢グラウンド

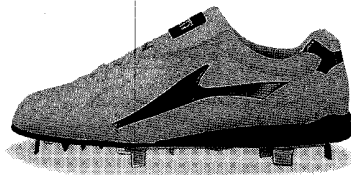
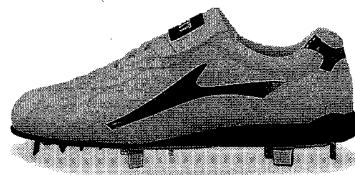
OLBIA-CS

底知れぬ力が開花した。



新構造ミッドソール搭載。

アッパー部まで巻き上げたミッドソールが、力カートのクッション性と安定感を高め、土踏まず部のフィット感を向上させた。
まさに、走りの底力を発揮するフットウェア。——オルビアCS



ウレタン金具スパイク

オルビアCS ¥7,500(税別)

■カラー/ホワイト×レッド、ホワイト×マリンブルー、ホワイト×ネイビー
■サイズ/23.0~28.5cm

ZETT



会場：東京都八王子市滝ガ原運動場

52

女子結果

1. 日本体育大学	3																			
2. 日本女子体育大学	20x	⑫	4x	6x																
3. 日本大学生産資源科学部	0	⑤	4x	5x																
4. 盛岡大学短期大学部	0	⑥	7x	1																
5. 相模女子大学	0	⑤	7x	2x																
6. 埼玉大学	8x	⑤	7x	0																
7. 東京学芸大学	0	⑤	7x	0																
8. 早稲田大学	4		1	1																
9. 筑波大学	5x		5x	1																
10. 文教大学	5		0	0																
11. 中央大学	15	⑤	15	0																
12. 宮城教育大学	11		⑤	0																
13. 千葉大学	2		4x	0																
14. 新島学園女子短期大学	3x		45	4																
15. 仙台大学	0		0	0																
16. 国士舘大学	0	⑥	9	6																
17. 学習院大学	2		1	8																
18. 順天堂大学	5		8x																	
19. 東海大学																				
20. 淑徳大学																				
21. 東京女子体育大学																				

優勝
東京女子体育大学

大会概要

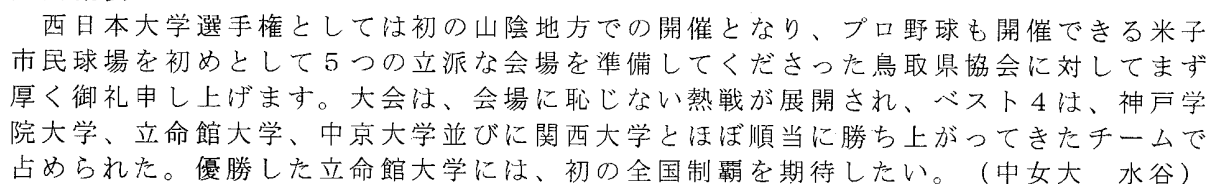
梅雨明けが待たれた今年であったが、本大会初日に無事梅雨明けとなり、心配された天候も初日の開始前に小雨がぱらつく程度であった。9年ぶりの東京大会となった八王子市では、八王子祭りと重なり地元役員には大変な負担を掛けたが、八王子駅周辺には露店が軒を連ね、神輿や踊りそして花火などこの大会を市民全員で応援しているような盛り上がった大会となった。

男子の試合結果は、梅雨明けの暑い中熱戦が繰り広げられ、ベスト4には東海大学・国際武道大学・中央大学・日本体育大学が残り、昨年の準優勝早稲田大学、3位の国士舘大学は、日本体育大学の前に破れてしまった。決勝は、三連覇を狙う東海大学とタイトル奪還に燃える日本体育大学の間で行われ、6x-2で日本体育大学が4年ぶり5回目の優勝を勝ち取った。

女子の試合結果は、三連勝中の日本体育大学が日本女子体育大学に2回戦で延長12回の末に破れ、ベスト4には日本女子体育大学・東京学芸大学・仙台大学・東京女子体育大学が残った。決勝は、昨年の優勝校を破った勢いに乗った日本女子体育大学と順当にコールドゲームで勝ち進んだ東京女子体育大学の間で行われ、4-1で東京女子体育大学が4年ぶり6回目の優勝を飾った。

最後に、印象に残った選手としては、清水健寛（国際武道大学）、杉田剛（日本体育大学）、所祐未（東京女子体育大学）、奈良祐子（仙台大学）などの各選手が挙げられる。（記録長 小山光弘）

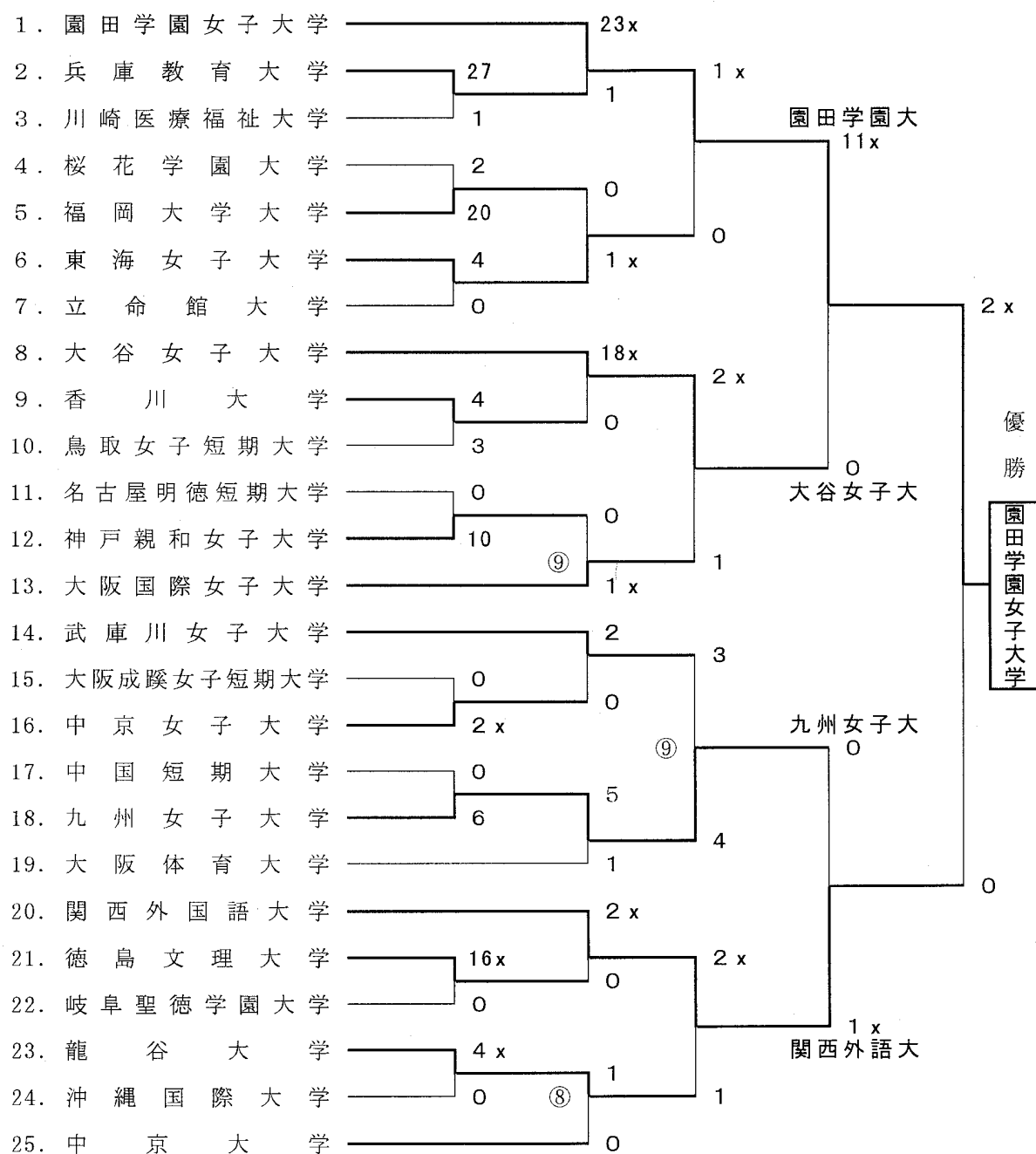
会場：鳥取県米子市米子市民球場・米子市営スポーツ広場・米子南商業高校



第30回西日本大学ソフトボール選手権大会（女子）

会期：平成10年8月1日(土)～8月3日(月)

会場：鳥取県大山町大山町民野球場・大山農村運動広場



大会概要

大会は、下界より5度は涼しいという霊峰大山の山麓で開催され、絶好のコンディションに恵まれて熱戦が展開された。特に、ベスト8が激突する準々決勝4試合は、すべて1点差というきわどい試合であった。そこから勝ち抜けたのは、園田学園女子大学、大谷女子大学、九州女子大学並びに関西外国語大学であり、この中に名門校・伝統校である武庫川女子大学・大阪成蹊女子短期大学・大阪体育大学・中京大学の名前がないのは、新旧交代の時期を迎えているのであろうか。優勝は、結局総合力に優る園田学園女子大学であったが、これは最近力を付けてきた神戸親和女子大学や龍谷大学を含めて、常に厳しい関西リーグ1部で戦っている成果であろう。（中女大 水谷）

第50回全日本総合女子ソフトボール選手権大会

会期：平成10年9月24日（木）～27日（日）

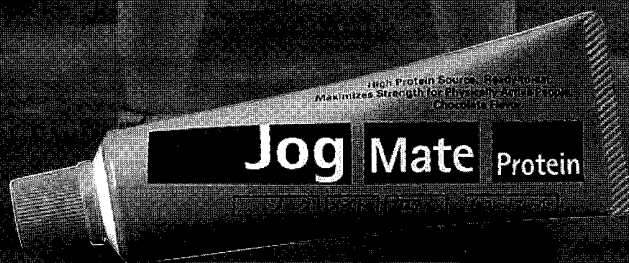
会場：熊本県水俣市水俣湾埋立地ソフトボール場

順位	チーム名	得点	失点	得失点差	勝	敗	引き分け	総得点	総失点
1	日立高崎(群馬)	7 x	4	3	3	0	0	21	12
2	宮下建設(石川)	0	0	0	1	1	0	0	0
3	岩手東芝(岩手)	0	0	0	1	1	0	0	0
4	浦島海苔(熊本)	1 x	1 x	0	1	1	0	1	1
5	太陽誘電(群馬)	1 x	3 x	-2	1	2	0	1	3
6	関病医院(静岡)	0	0	0	1	2	0	0	0
7	東京女子体育大学(東京)	3 x	0	3	1	1	0	3	0
8	シオノギ製薬(兵庫)	0	0	0	1	2	0	0	0
9	日立通工(神奈川)	2 x	2 x	0	1	2	0	2	2
10	東邦銀行(福島)	1	1	0	1	2	0	1	1
11	東芝北九州(福岡)	2	1	1	1	2	0	2	1
12	N E C山梨(山梨)	0	0	0	1	2	0	0	0
13	日立工機(茨城)	1 x	0	1	1	2	0	1	0
14	伊予銀行(愛媛)	0	0	0	1	2	0	0	0
15	戸田中央総合病院(埼玉)	0	3 x	-3	1	2	0	0	3
16	豊田自動織機製作所(愛知)	2 x	0	2	1	2	0	2	0
17	三洋島根(島根)	1	0	1	1	2	0	1	0
18	デンソー(愛知)	2 x	1	1	1	2	0	2	1
19	大徳(東京)	1 x	0	1	1	2	0	1	0
20	静甲(静岡)	0	0	0	1	2	0	0	0
21	日立ソフトウェア(神奈川)	8	11 x	-3	1	2	0	8	11
22	東芝ライテック(栃木)	0	2	-2	1	2	0	0	2
23	立命館大学(京都)	0	2	-2	1	2	0	0	2
24	山形屋(鹿児島)	3	0	3	1	2	0	3	0
25	松下電工(埼玉)	7	0	7	1	2	0	7	0
26	日立岐阜(岐阜)	0	0	0	1	2	0	0	0
27	日本生命保険(大阪)	0	1	-1	1	2	0	0	1
28	大和電機工業(長野)	1	1	0	1	2	0	1	1
29	ミキハウス(大阪)	2 x	1	1	1	2	0	2	1
30	Y K K 四国(香川)	0	1 x	-1	1	2	0	0	1
31	三菱化学(岡山)	0	2 x	-2	1	2	0	0	2
32	トヨタ自動車(愛知)	13 x	0	13	1	2	0	13	0

大塚製薬

中山雅史の
大腿二頭筋は、
プロテインを食べている。

一流のアスリートなら、筋肉が生まれるメカニズムを知っていてほしい。実は、激しい運動により負荷をかけられた筋肉は、一時的に壊れた状態になる。その上で、タンパク質(プロテイン)を材料にし、より強い筋肉がつくられるのだ。つまり、筋肉がつけられるタイミングに合わせ、運動後すみやかにプロテインを摂取することが重要なのである。ジョグメイト プロテインは、このメカニズムに従って開発された。運動後、その場で食べられる携帯チューブタイプ。水に溶かす手間のいらぬペースト状。1本で10gの高プロテインと、筋肉の合成に有利な糖質を配合。それは、中山雅史とあなたのチカラになるために生まれた。



携帯タンパク食品

ジョグメイト プロテイン

200円(希望小売価格・税別) ※開封後の保存ができませんので、1回で食べきってください。

ニュートラシューティカルズ

あなたをサポートする NUTRACEUTICALS の大塚製薬から。

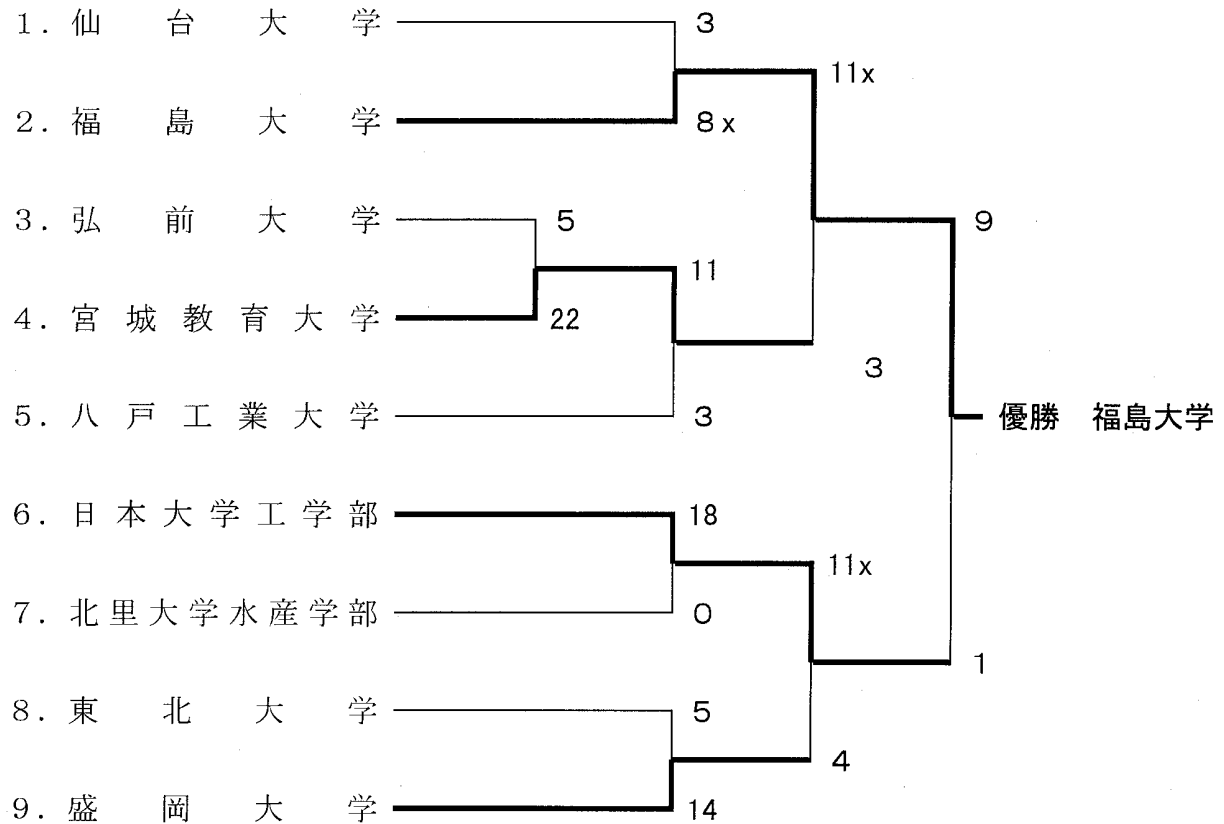
第19回東北・北海道地区大学ソフトボール選手権大会

－第33回全日本大学ソフトボール選手権大会東北・北海道地区予選会－

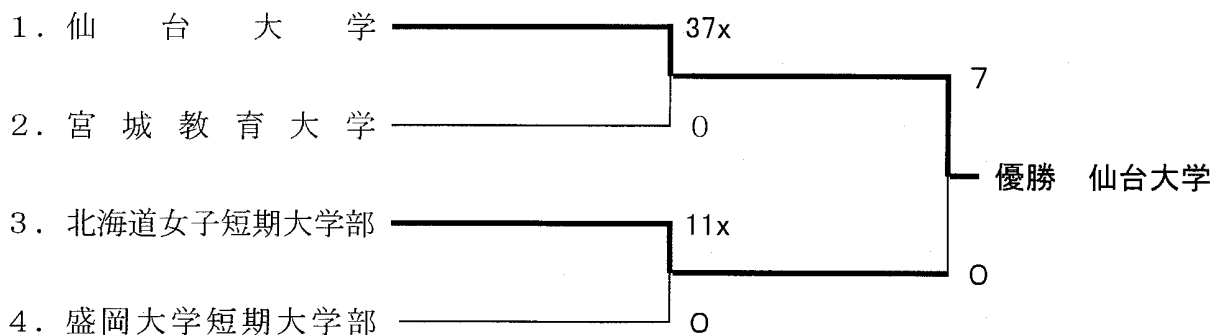
会期：平成10年5月23日（土）・24日（日）

会場：宮城県牡鹿郡女川町総合運動場

【男子の部】



【女子の部】



【大学選手権出場権獲得校】

男子：福島大学・日本大学工学部

女子：仙台大学

平成10年度東北地区大学ソフトボール秋季トーナメント大会

会期：平成10年11月7日（土）

会場：宮城県柴田町町営並松グラウンド仙台大学第2グラウンド（男子）

宮城県柴田町町営多目的グラウンド (女子)

【男子の部】

1. 日本大学工学部 10x
2. 宮城教育大学 4
3. 盛岡大学 2
4. 仙台大学 9
5. 八戸大学 5
6. 東北大学 7
7. 八戸工業大学 6
8. 福島大学 9x

2
4
23
0
7
5x

優勝 福島大学
3年連続3回目

【女子の部】

1. 宮 城 教 育 大 学 ————— O
2. 仙 台 大 学 ————— 23x 優勝 仙台大学(7年連続7回目)

【大会概要】

例年10月中旬に開催している大会であるが、当初の10月17・18日の予定が台風のため延期となり、その後国体等があいだに入ったこともあって、とうとう11月の開催となった。時期的にかなり寒くなることが懸念されたが、幸い好天に恵まれ無事終了した。ただ、日程の変更（延期）等によって、女子は2チーム（3チーム欠場）、男子8チーム（2チーム欠場）の計10チームの参加となったことは悔やまれる。特に女子の欠場が多く、辛うじて1ゲームが成立しただけであった。また延期によって、一日で全試合を行う強行日程で実施せざるを得なくなり、男子決勝は両チームとも3ゲームを戦うことになってしまった。しかもその決勝戦は、当初の約束であるが、日没4回コールドとなってしまった。福島大・仙台大の両チームには大変申し訳なかった。

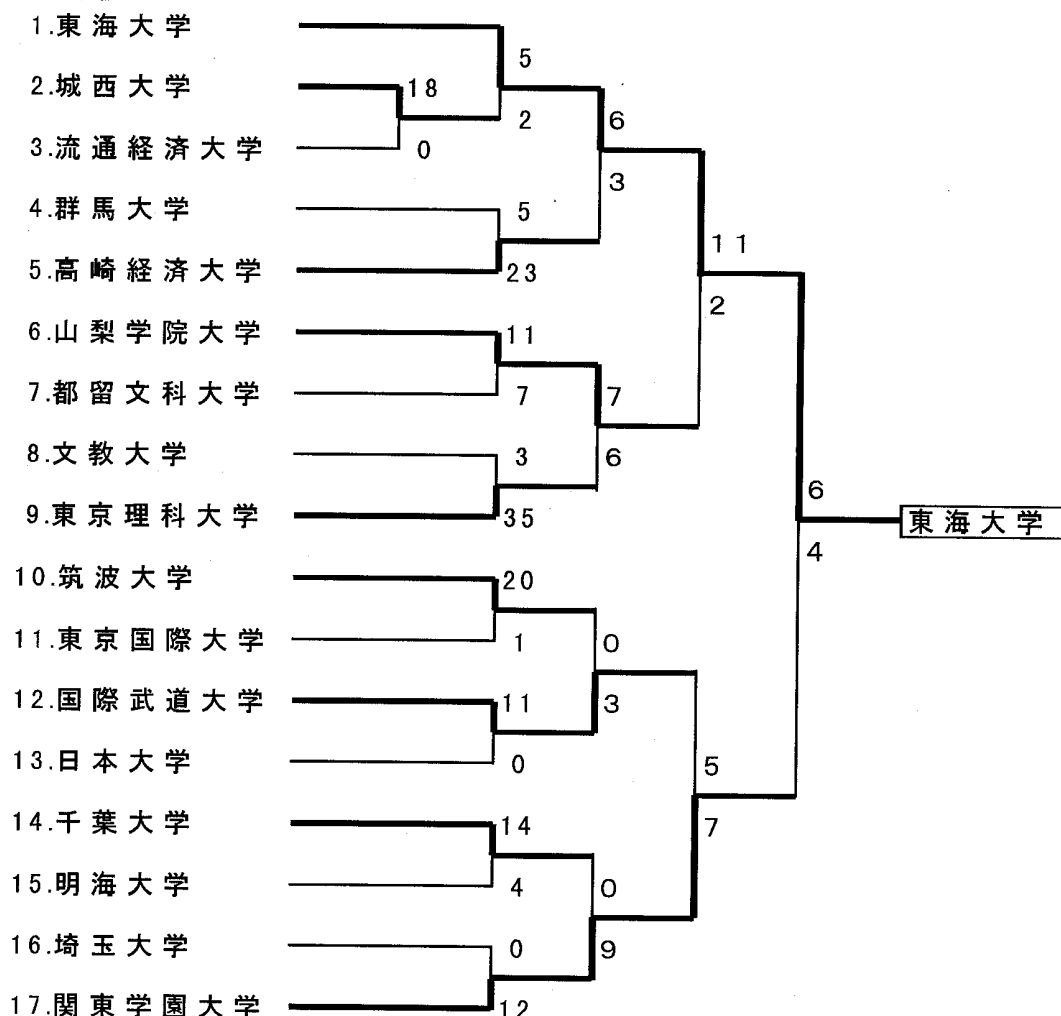
女子は仙台大が順当に3連勝を飾った。来年は宮城インカレである。地元代表として、各チームは出場を目指してオフに練習を積んで欲しいところである。(仙台大 大和田)

第6回関東学生ソフトボール選手権大会(男子)

会 期：平成10年5月23・24日

会 場：前橋市産業人スポーツセンター・前橋市立工科大学運動場

【試合結果】



【講評】

全体的に投手力が弱いこともあり、打撃戦のゲームが多かった大会であった。準決勝と決勝の3試合だけを取り上げても7本の本塁打が見られるなど、どちらかといえば大味な試合展開に終始した。その中で、加藤和樹・大樹の2枚を擁する東海大学と、大会屈指の左腕鈴木が攻守にわたって引っ張る関東学園大学が順当に抜けだし、昨年と同じ顔合わせとなる決勝戦で激突した。

東海大学は調子の上まらない序盤の鈴木を攻め、2ラン・3ランの2本塁打で先行する。粘る関東学園大学は、これもソロ・2ランの本塁打攻勢で中盤以降押し気味に攻めるも、主戦加藤和樹投手に逃げ切られた。両チーム合わせて10得点中8得点の本塁打という打撃という打撃の破壊力には見るべきものはあるが、小技や機動力を駆使した攻撃があまり見られないバランスの悪さは否めない。全国大会で好投手と対峙したときにはより多彩なアイデアが必要となるであろう。

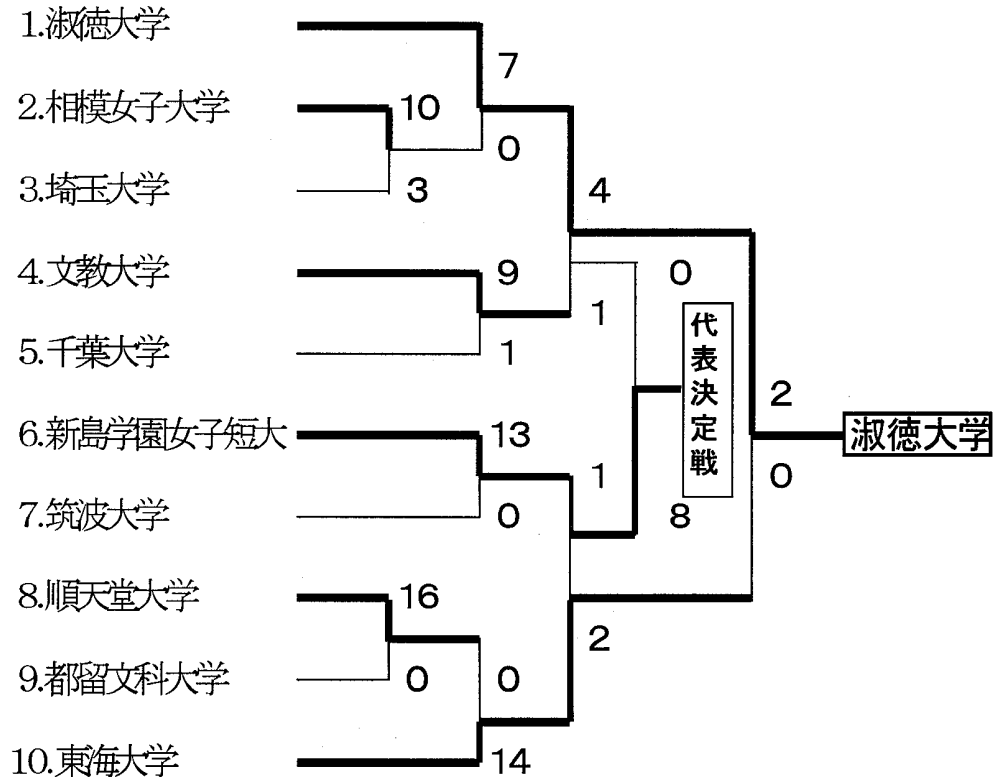
なお、他には国際武道大学と山梨学院大学が全国大会への代表権を獲得した。

第6回関東学生ソフトボール選手権大会(女子)

会 期: 平成10年5月23・24日

会 場: 前橋市産業人スポーツセンター・前橋市立工科大学運動場

【試合結果】



【講評】

昨年同様、全国大会への代表権は淑徳大学、東海大学、新島学園女子短期大学が獲得した。淑徳大学は、島田裕子投手(船橋学園女子)と勝又恭子捕手(向上)が攻守の要としてチームを引っ張り、本大会六連覇を達成した。東海大学は島田かおり投手(白鷗大足利)を、新島学園女子短期大学は山内千鶴投手(静岡女子商業)や長屋奈津子一塁手(とわの森三愛)などの新戦力を補強して淑徳の牙城に迫ったが、一步及ばなかった。

淑徳大学の六連覇は、もちろん偉業として称賛に値するが、打倒淑徳を果たさなければ関東地区全体のレベルアップは望むべくもない。ただし、今大会では代表権を得た3大学の差が縮まったように見える。ところが、その上位3大学と他の8大学に力の開きが出てきたようにも思われる。ことに古豪といわれる相模女子大学や文教大学、粘り強い試合運びを身上とする千葉大学などの今後の奮起が望まれる。

第4回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権試合

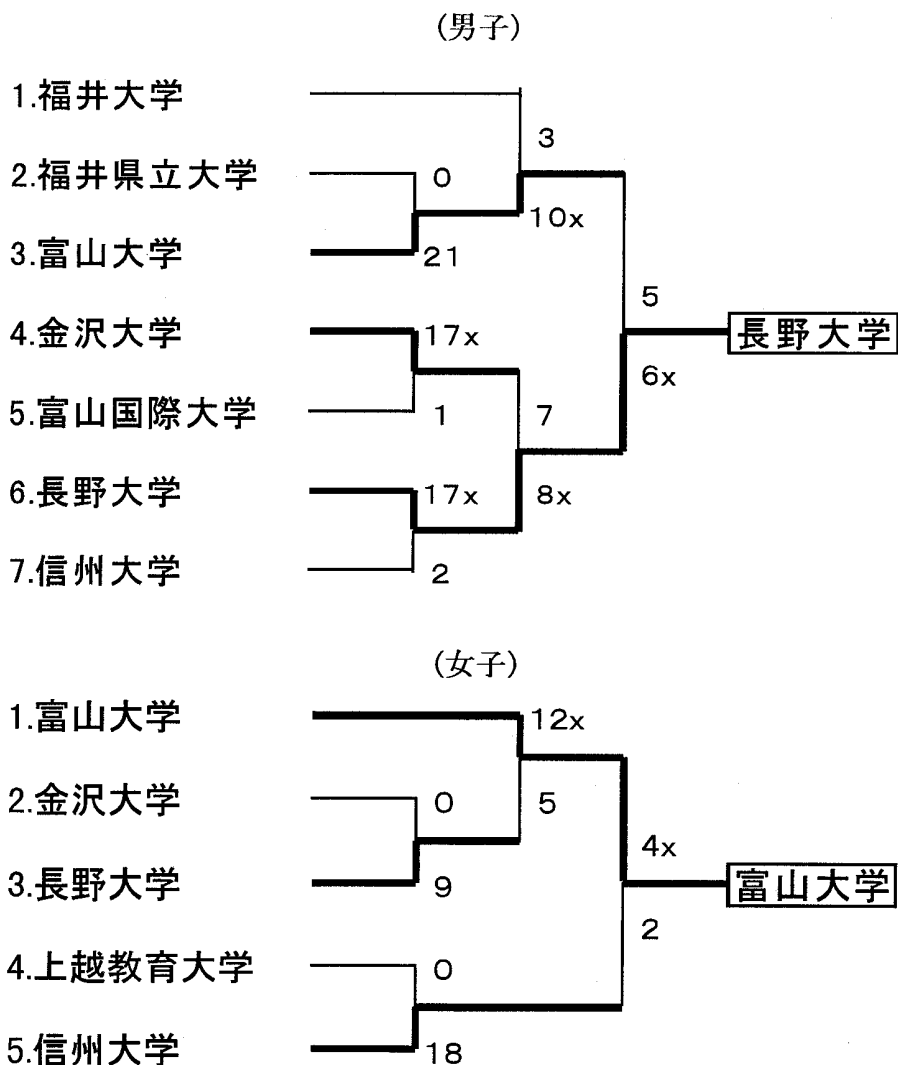
(インカレ予選会を兼ねる)

会 期: 平成9年5月30日(土)、31日(日)

会 場: 金沢市湊ソフトボール場(金沢市湊)

主 催: 北信越地区大学ソフトボール連盟、金沢市ソフトボール協会

【試合結果】



【講評】

男子の優勝戦は最後は押し出しのサヨナラゲームでしたが富山大学の善戦が目につきました。優勝チームの長野大学は昨年に引き続き2年連続全国大会へのキップを手に入れました。長野大学の投手の活躍が目につきました。

又、女子の優勝戦は息詰まる接戦でしたが富山大学が僅かな隙を就いて逆転勝ちを修めました。優勝チームの富山大学は3年連続北信越地区選手権大会で優勝となります。今年は各大学とも力は接近しておりましたが富山大学が総合力で勝ったものと思われます。

第5回北信越地区男子・女子ソフトボール新人戦

会 期：平成10年10月10・11日

会場:

【試合結果】

(男子)

1.富山大学

2.福井県立大学

3.富山国際大学

4.信州大学

5.金沢大学

6.長野大学

7.福井大学

8

1

0

23

5

0

9

17

0

1

富山大学

(女子)

1.信州大学 14
2.富山大学 5
3.金沢大学 11
4.上越教育大学 1

2

金沢大学

【大会総評】

北信越地区ソフトボール新人戦は北信越地区の来年度に向けてのチーム作りの指針と成る物です。既に5回目を迎えて富山県ソフトボール場で行いました。

2日とも晴天の絶好のソフト日和となり、北信越地区の加盟大学11大学が参加し熱戦を繰り広げました。トーナメント表には記載してありませんがトーナメント試合の他に敗者戦を設けて5試合ほど行いました。各大学ともチーム作りの途中と言うところで実力的には男子では富山大学が安定した力を発揮して優勝しました。特にピッチャーの出来が良かった。女子では金沢大学が今年の優勝者信州大学を破り優勝しました。金沢大学のチームはピッチャーが新たに加わり非常に良く投げていました。また打撃も他チームを上回り、実力を出して見事初優勝しました。

各大学ともそれぞれ課題をもって試合に臨んでおり、来年度のインカレ予選には充実した力を発揮してくれると期待しております。

東京都ソフトボール協会創立50周年記念大会

平成10年度第30回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦(男女)

会 期:

会 場:

【試合結果】

【男子】

1 部	日体大	国士館	早稲田	中 央	明 治	慶 応	勝	負	分	順 位
日体大		○ 4-3	○ 7-0	○ 8-1	○ 17-4	○ 7-0	5	0	0	1
国士館	● 3-4		○ 6-0	● 0-2	○ 15-3	○ 11-0	3	2	0	2
早稲田	● 0-7	● 0-6		○ 5-4	○ 9-1	○ 10-3	3	2	0	4
中 央	● 1-8	○ 2-0	● 4-5		○ 18-2	○ 12-7	3	2	0	3
明 治	● 4-17	● 3-15	● 1-9	● 2-18		● 1-9	0	5	0	6
慶 応	● 0-7	● 0-11	● 3-10	● 7-12	○ 9-1		1	4	0	5

入れ替え戦 明治 6-9 学習院 学習院大学が1部昇格

2 部	学習院	日 大	東京大	杏 林	武蔵工	成蹊大	勝	負	分	順 位
学習院		● 2-12	○ 9-4	○ 6-2	○ 21-3	○ 4-10	4	1	0	1
日 大	○ 12-2		● 4-11	● 2-4	○ 10-5	○ 17-8	3	2	0	3
東京大	● 4-9	○ 11-4		● 4-11	○ 9-3	○ 10-5	3	2	0	4
杏 林	● 2-6	○ 4-2	○ 11-4		○ 13-2	○ 8-6	4	1	0	2
武蔵工	● 3-21	● 5-10	● 3-9	● 2-13		● 3-8	0	5	0	6
成蹊大	● 10-14	● 8-17	● 5-10	● 6-8	○ 8-3		1	4	0	5

入れ替え戦 武蔵工業 1-18 東京学芸 (90分ルール) 東京学芸大学が2部昇格

3 部	学芸大	桜美林	東農大	専 修	一 橋	明 星	勝	負	分	順 位
学芸大		○ 4-3	○ 9-5	○ 7-4	● 4-11	○ 6-2	4	1	0	1
桜美林	● 3-4		○ 15-0	● 7-12	○ 10-7	○ 9-2	3	2	0	2
東農大	● 5-9	● 0-15		○ 7-6	○ 3-0	○ 4-3	3	2	0	4
専 修	● 4-7	○ 12-7	● 6-7		○ 2-0	○ 10-5	3	2	0	3
一 橋	○ 11-4	● 7-10	● 0-3	● 0-2		● 1-3	1	4	0	6
明 星	● 2-6	● 2-9	● 3-4	● 5-10	○ 3-1		1	4	0	5

入れ替え戦 一橋 14-6 文教 (5回コールド) 一橋大学が3部残留

4 部	東 経	ICU	文 教	東 洋	立 教	日 歯	帝 京	勝	負	分	順 位
東 経	●	○ 10-5	● 4-15	● 0-15		○ 20-4	○ 10-3	3	2	0	3
ICU	● 5-10	●	● 0-22	● 2-19		● 2-18	○ 17-9	1	4	0	5
文 教	○ 15-4	○ 22-0	●	○ 4-3		● 7-9	○ 17-16	4	1	0	1
東 洋	○ 15-0	○ 19-2	● 3-4	●		○ 11-1	○ 22-1	4	1	0	2
立 教					●						
日 歯	● 4-20	○ 18-2	○ 9-7	● 1-11		●	● 8-9	2	3	0	4
帝 京	● 3-10	● 9-17	● 16-17	● 1-22		○ 9-8	●	1	4	0	6

【女子】

1 部	日 体 大	東 女 体	国 士 館	学 芸 大	日 女 体	早 稲 田	勝	負	分	順 位
日 体 大	●	○ 0-2	○ 4-0	○ 20-0	○ 2-1	○ 9-0	4	1	0	2
東 女 体	○ 2-0	●	○ 10-0	○ 7-0	○ 1-0	○ 13-0	5	0	0	1
国 士 館	● 0-4	● 0-10	●	○ 2-1	● 0-3	○ 3-2	2	3	0	4
学 芸 大	● 0-20	● 0-7	● 1-2	●	○ 4-1	● 1-4	1	4	0	6
日 女 体	● 1-2	● 0-1	○ 3-0	● 1-4	●	○ 4-0	2	3	0	3
早 稲 田	● 0-9	● 0-13	● 2-3	○ 4-1	● 0-4	●	1	4	0	5

入れ替え戦 学芸 10-0 創価 (3回コールド) 学芸大学が1部残留

2 部	日 大	学 習 院	中 大	創 価 大	専 大	明 星 大	勝	負	分	順 位
日 大	●	○ 5-6	○ 8-1	● 1-8	○ 9-0	○ 9-2	3	2	0	3
学 習 院	○ 6-5	●	○ 8-0	● 1-2	○ 9-1	○ 11-7	4	1	0	2
中 大	● 1-8	● 0-8	●	○ 7-5	● 7-13	○ 12-10	2	3	0	4
創 価 大	○ 8-1	○ 2-1	● 5-7	●	○ 9-1	○ 13-3	4	1	0	1
専 大	● 0-9	● 1-9	○ 13-7	● 1-9	●	○ 12-5	2	3	0	5
明 星 大	● 2-9	● 7-11	● 10-12	● 3-13	● 5-12	●	0	5	0	6

入れ替え戦 明星 2-1 日本女子 明星大学が2部残留

3 部	日 女 大	桜 美 林	創 短	勝	負	分	順 位
日 女 大	○ 10-6	○ 5-2	○ 8-6	3	0	0	1
桜 美 林	● 6-10	● 2-5	○ 13-1	1	2	0	2
創 短	● 6-8	● 1-13	●	0	2	0	3

平成10年度第31回東京都大学ソフトボール

秋季リーグ戦(男女)

会 期: 平成10年9月12日～10月10日

会 場:

【試合結果】

【男子】

1 部	日体大	国士館	中 央	早稲田	慶 応	学習院	勝	負	分	順位
日体大		△ 5-5	○ 3-2	○ 8-2	○ 7-1	○ 8-1	4	0	1	1
国士館	△ 5-5		○ 3-1	○ 3-2	○ 7-0	○ 7-0	4	0	1	2
中 央	● 2-3	● 1-3		● 2-3	○ 8-0	○ 14-10	2	3	0	4
早稲田	● 2-8	● 2-3	○ 3-2		○ 4-2	○ 8-1	3	2	0	3
慶 応	● 1-7	● 0-7	● 0-8	● 2-4		○ 5-4	1	4	0	6
学習院	● 1-8	● 0-7	● 10-14	● 1-8	● 4-5		0	5	0	5

規定により得失点差で日本体育大学が優勝、国士館大学が準優勝
入れ替え戦 成蹊 9-6 慶応 成蹊大学が1部昇格

2 部	明 治	杏 林	東京大	日 大	成蹊大	学 芸	勝	負	分	順位
明 治		● 7-17	○ 7-3	● 0-9	● 4-14	● 0-7	1	4	0	6
杏 林	○ 17-7		○ 4-3	● 0-3	● 1-9	○ 4-3	3	2	0	3
東京大	● 3-7	● 3-4		○ 4-3	● 4-7	○ 11-1	2	3	0	5
日 大	○ 9-0	○ 3-0	● 3-4		△ 9-9	○ 11-5	3	1	1	2
成蹊大	○ 14-4	○ 9-1	○ 7-4	△ 9-9		○ 9-2	4	0	1	1
学 芸	○ 7-0	● 3-4	● 1-11	● 5-11	● 2-9		1	4	0	4

入れ替え戦 明治 21-16 専修 明治大学が2部残留

3 部	武蔵工	桜美林	専 修	東農大	明 星	一 橋	勝	負	分	順位
武蔵工		● 3-16	● 3-28	○ 18-13	● 6-16	● 0-10	1	4	0	6
桜美林	○ 16-3		● 8-9	● 11-10	○ 8-6	○ 7-6	3	2	0	2
専 修	○ 28-3	○ 9-8		● 0-9	○ 11-3	○ 17-7	4	1	0	1
東農大	● 13-18	○ 10-11	○ 9-0		● 11-13	● 5-6	2	3	0	5
明 星	○ 16-6	● 6-8	● 3-11	○ 13-11		○ 7-4	3	2	0	3
一 橋	○ 10-0	● 6-7	● 7-17	○ 6-5	● 4-7		2	3	0	4

入れ替え戦 武蔵工 7-9 文教 文教大学が3部昇格

4 部	東 経	ICU	文 教	東 洋	立 教	日 歯	帝 京	勝	負	分	順 位
文 教	●	○ 10-4	○ 17-4	○ 5-4	○ 11-6	○ 10-0		5	0	0	1
東 洋	● 4-10		● 15-16	○ 17-0	○ 15-10	○ 11-7		3	2	0	3
東 経	● 4-17	○ 16-15		○ 10-9	○ 12-7	○ 11-8		4	1	0	2
日 歯	● 4-5	● 0-17	● 9-10		○ 17-0	○ 8-7		2	3	0	4
ICU	● 6-11	● 10-15	● 7-12	● 0-17		○ 15-4		1	5	0	5
帝 京	● 0-10	● 7-11	● 8-11	● 7-8	● 4-15			1	5	0	6
立 教											

【女子】

1 部	東 女 体	日 体 大	日 女 体	国 士 館	早 稲 田	学 芸 大	勝	負	分	順 位
東 女 体		○ 2-0	○ 10-0	○ 11-0	○ 19-0	○ 7-0	5	0	0	1
日 体 大	● 0-2		○ 7-0	○ 9-0	○ 9-2	○ 7-1	4	1	0	2
日 女 体	● 0-10	● 0-7		● 1-2	○ 11-2	○ 2-0	2	3	0	3
国 士 館	● 0-11	● 0-9	○ 2-1		○ 15-0	● 4-5	2	3	0	5
早 稲 田	● 0-19	● 2-9	● 2-11	○ 0-15		● 3-9	1	4	0	6
学 芸 大	● 0-7	● 1-7	● 0-2	○ 5-4	○ 9-3		2	3	0	4

入れ替え戦 学習院 2-0 早稲田 学習院大学が1部昇格

2 部	日 大	学 習 院	中 大	創 価 大	専 大	明 星 大	勝	負	分	順 位
日 大		● 5-6	○ 8-1	● 1-8	○ 9-0	○ 9-2	3	2	0	3
学 習 院	○ 6-5		○ 8-0	● 1-2	○ 9-1	○ 11-7	4	1	0	2
中 大	● 1-8	● 0-8		○ 7-5	● 7-13	○ 12-10	2	3	0	4
創 価 大	○ 8-1	○ 2-1	● 5-7		○ 9-1	○ 13-3	4	1	0	1
専 大	● 0-9	● 1-9	○ 13-7	● 1-9		○ 12-5	2	3	0	5
明 星 大	● 2-9	● 7-11	● 10-12	● 3-13	● 5-12		0	5	0	6

入れ替え戦 桜美林 9-8 創価 桜美林大学が2部昇格

3 部	桜 美 林	日 女 大	創 価 短	勝	負	分	順 位
桜 美 林		○ 10-4	○ 17-2	2	0	0	1
日 女 大	● 4-10		○ 7-5	1	1	0	2
創 価 短	● 2-17	● 5-7		0	2	0	3

1998年度春季東海地区大学男子ソフトボールリーグ戦

1. 主 催：東海地区大学ソフトボール連盟
2. 主 管：愛知県ソフトボール協会・豊田市ソフトボール協会・愛知大学
3. 開催日：5月16日（土）・17日（日）・23日（土）
4. 会 場：愛知県豊田市千石公園ソフトボール場

1998年度の春季東海地区男子ソフトボールリーグ戦は上記日程の3日間で1部から2部まで30試合、2部優勝決定戦・大学選手権第4代表決定戦各1試合の合計32試合が展開された。

今年は例年になく雨の多い5月であり日程の消化も危ぶまれたが、2日目の試合開始が1時間遅れた以外は順調に消化された。各部の結果は以下の通り。[表中 Cはコールド、Tはタイブレーク] (文責：愛知大学 紅林和博)

【1部】

チーム	常葉大	中京大	愛知大	愛学院	静岡大	勝	負	分	勝点	順位
常葉大		○ 6-5	○ 5-4	○ 15-8	○ 11-6	4	0	0	+8	1
中京大	● 5-6		● 2-7	C○ 14-0	○ 4-1	2	2	0	+1	2
愛知大	● 4-5	○ 7-2		● 6-7	○ 7-1	2	2	0	±0	3
愛学院	● 8-15	C● 0-14	○ 7-6		○ 18-12	2	2	0	-1	4
静岡大	● 6-11	● 1-4	● 1-7	● 12-18		0	4	0	-8	5

常葉学園大学が4戦全勝で久しぶりの優勝を飾った。

常葉学園大学は投手伊藤（4年・愛知：豊川高出）の粘りのピッチングと4番良知（3年・静岡：三島南高出）を中心とした強力な打線により、1部最終戦での中京大戦を制し優勝を決めた。同大学はベンチ内での雰囲気も非常に活気あふれ大学選手権でも飛躍が十分期待できる。

今季2位に甘んじた中京大はリーグ戦発足以来初の2敗を喫した。主戦山本（3年・高知：岡豊高出）の故障もあったとはいえ、常に全国でもトップレベルを維持しているチームだけに大学選手権までにはチームの立て直しを期待したい。

3・4位の愛知大・愛学院も大学選手権の出場権を得ることができた。技術・力ともレベルアップを目指し大学選手権での上位進出を狙ってほしい。

今季より1部昇格の静岡大学は投手林（3年：長野：長野高出）を中心に守備力は強化されてきたが4戦4敗と最下位に終わった。1部の他チームに比べて打撃力に差が出た感がある。秋季リーグ戦からは2部となるが好成績をおさめ、春季リーグ戦には1部での活躍を期待したい。

【2部 Aグループ】

チーム	聖徳大	南山大	日福大	朝日大	みずほ	勝	負	分	点	順位
聖徳大		○ 12-9	CO 11-1	○ 9-5	CO 32-1	4	0	0	+10	1
南山大	● 9-12		CO 15-2	TO 7-6	CO 15-3	3	1	0	+5	2
日福大	C● 1-11	C● 2-15		○ 8-7	CO 19-3	2	2	0	-1	3
朝日大	● 5-9	T● 6-7	● 7-8		CO 24-8	1	3	0	-2	4
みずほ	C● 1-32	C● 3-15	C● 3-19	C● 8-24		0	4	0	-12	5

【2部 Bグループ】

チーム	名城大	愛教大	岐経大	名大	学泉大	勝	負	分	点	順位
名城大		CO 12-2	CO 9-1	CO 13-6	CO 36-2	4	0	0	+12	1
愛教大	C● 2-12		CO 8-0	● 2-3	CO 8-1	2	2	0	+1	2
岐経大	C● 1-9	C● 0-		○ 9-5	CO 12-3	2	2	0	-1	3
名大	C● 6-13	○ 3-2	● 5-9		CO 28-3	2	2	0	±0	4
学泉大	C● 2-36	C● 1-8	C● 3-12	C● 3-28		0	4	0	-12	5

【2部優勝決定戦】

岐阜聖徳学園大学 5-3 名城大学 岐阜聖徳学園大学は秋季リーグ戦から1部昇格

【全日本大学選手権大会地元代表決定戦】

愛知学院大学 8-7 岐阜聖徳学園大学 愛知学院大学は全日本大学選手権の出場権を獲得

【表彰選手一覧】

最優秀選手賞：良知宏一外野手（常葉大） 敢闘選手賞：鈴木洋平外野手（中京大）

優秀選手賞：浅田恵吾投手（聖徳大）

1部首位打者賞：良知宏一外野手（常葉大）.643 2部首位打者賞早川祐治（名城大）.706

ベストナイン：伊藤朋宏投手（常葉大） 武田剛史捕手（愛知大） 三輪将道一塁手（愛知大）

阪 雅之三塁手（愛学大） 木村功二遊撃手（中京大） 良知宏一外野手（常葉大）

鈴木洋平外野手（中京大） 川瀬圭司外野手（愛学大）

平成10年度春季第31回東海地区大学（女子）ソフトボールリーグ戦

- 主 催：東海地区大学ソフトボール連盟
- 主 管：愛知県ソフトボール協会・幸田町ソフトボール協会・中京女子大学
- 開催日：5月4・5・16日
- 会 場：愛知県幸田町とぼね運動場
- 一部リーグ戦結果

チーム	中 京	東 海	明 徳	中 女	桜 花	静 岡	勝	分	敗	勝点	順位
中 京		○ 1-0	◎ 11-2	○ 1-0	◎ 5-0	◎ 33-0	5	0	0	+13	優勝
東海女子	● 0-1		○ 3-2	○ 2-0	◎ 9-1	◎ 20-0	4	0	1	+8	2位
明 徳	◆ 2-11	● 2-3		● 2-5	○ 3-2	◎ 33-0	2	0	3	-2	4位
中京女子	● 0-1	● 0-2	○ 5-2		◎ 14-0	◎ 17-0	3	0	2	+4	3位
桜花学園	● 0-5	◆ 1-9	● 2-3	◆ 0-14		◎ 14-0	1	0	4	-7	5位
静 岡	◆ 0-33	◆ 0-20	◆ 0-33	◆ 0-17	◆ 0-14		0	0	5	-15	6位

6. 二部リーグ戦結果

チーム	常 葉	愛 教	学 泉	聖 徳	南 山	名 大	勝	分	敗	勝点	順位
常葉学園		◆ 0-15	○ 6-2	● 1-8	■ 5-6	○ 4-3	2	0	3	-2	4位
愛知教育	◎ 15-0		○ 3-2	◎ 7-0	◎ 8-1	◎ 8-0	5	0	0	+14	優勝
愛知学泉	● 2-6	● 2-3		◆ 3-13	■ 3-4	○ 10-9	1	0	3	-6	5位
岐阜聖徳	○ 8-1	◆ 0-7	◎ 13-3		● 1-7	○ 8-1	3	0	2	+2	3位
南 山	□ 6-5	◆ 1-8	□ 4-3	○ 7-1		◎ 11-4	4	0	1	+4	2位
名 古 屋	● 3-4	◆ 0-8	● 9-10	● 1-8	◆ 4-11		0	0	5	-12	6位

◎：コールド勝ち(+3) ○：勝ち(+2) □：タイブレイク勝ち(+1) △：引き分け(±0)

■：タイブレイク負け(-1) ●：負け(-2) ◆：コールド負け(-3) ()内は勝点

7. インカレ地元代表決定戦結果

名古屋明德短期大学(1部4位)：0022005 | 9
愛知教育大学(2部優勝)：0002000 | 2

8. 女子1部リーグ戦最終成績

優勝：中京大学（5戦全勝 7季連続18回目）

4位：名古屋明德短期大学（2勝3敗）

2位：東海女子大学（4勝1敗）

5位：桜花学園大学（1勝4敗）

3位：中京女子大学（3勝2敗）

6位：静岡大学（5戦全敗）

9. 女子1部個人表彰

最優秀選手賞：森本恵奈内野手（中京大学）

敢闘選手賞：田中晶子投手（東海女子大学）

首位打者賞：高橋裕子捕手（中京大学 打率5割3分8厘）

ベストナイン 投手：柚原雅美（中京大学）

遊撃手：杉林佳代子（中京女子大学）

捕手：高橋裕子（東海女子大学）

外野手：石川道代（中京大学）

一塁手：萩村友美（中京大学）

外野手：大瀧百合香（東海女子大学）

二塁手：森本恵奈（中京大学）

外野手：倉橋佑季（名古屋明德短期大学）

三塁手：奥野珠美（中京大学）

指名打者：板垣麻美（東海女子大学）

10. 女子2部最終成績

優勝：愛知教育大学（3季ぶり2回目）

2位：南山大学

3位：岐阜聖徳学園大学

4位：常葉学園大学

5位：愛知学泉大学

6位：名古屋大学

11. 2部個人表彰

優秀選手賞：舟橋いづみ捕手（愛知教育大学）

首位打者賞：押山郁子外野手（岐阜聖徳学園大学 打率7割6分5厘）

12. リーグ戦総評

生憎の天候にたたられ、2日間は朝9時から夜9時まで1面6試合、各チーム1日2試合を消化しなければならぬという強行日程になってしまった。地元役員のグラウンド整備やナイター設備の利用など献身的なご努力に対して、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、リーグ戦は終わってみれば1部2部とも例年と同じような結果になったが、大学選手権を地元で開催する年には若干の物足りなさを感じさせられた。1部優勝の中京大学には、昨年のような圧倒的な破壊力がなく、2位の東海女子大学にしても打撃の単調さが目に付いた。しかし、両校の対戦は、1本の本塁打で試合が決まったが、内容的にはどちらが勝ってもおかしくないものであった。特に、両投手の投げ合いは迫力さえ感じさせた。投球術のうまさでは中京大の柚原投手であるが、真つ向勝負の思い切りのよさは東海女子大の田中投手であった。さらに、2校とともに大学選手権への出場権を獲得した中京女子大学には攻撃力の強化を、大学選手権初出場となる名古屋明德短大には投手力を含めた守備力の強化を強く望みたい。印象に残った選手としては、柚原投手（中京大）・田中投手（東海女子大）・高橋捕手（東海女子大）・杉林遊撃手（中京女子大）などであるが、それぞれにもう一段の技術向上がないと大学選手権では苦しい戦いになるであろう。また、静岡大学は1部昇格の原動力になった選手が卒業したために大敗が続いたが、最後までそのさわやかな戦いぶりは印象に残った。今後は力をじっくり付けてもらいたい。

一方、2部では愛知教育大学の元気が特に印象深かった。是非1部で戦ってもらいたいチームである。特に、優秀選手賞を獲得した舟橋捕手から、強肩功打の出納中堅手をつなぐセンターラインは強力であった。また、これまで下位に低迷していたが、初の2位を確保した南山大学は、2試合をタイブレイクで制するという粘り強さを見せた。今後の努力次第では、1部昇格も夢ではないであろう。3位の岐阜聖徳学園大学は、まともにはあるものの、西日本大学選手権に向けて、いっそうの技術向上を望みたい。逆に、常に上位にあった愛知学泉大学の5位は残念でならない。来季の奮起を期待する。（中京女子大学 水谷）

1998年度秋季東海地区大学男子ソフトボールリーグ戦

○主 催:東海地区大学ソフトボール連盟

○主 管:愛知県ソフトボール協会・碧南市ソフトボール連盟・愛知大学

○開催日:10月10日(土)・11日(日)・25日(日)

○会 場:愛知県碧南市玉津浦グラウンド

1998年度の秋季東海地区男子ソフトボールリーグ戦は上記3日間の日程により、参加14校による1部10試合・2部16試合、2部順位決定戦4試合の合計30試合が展開された。

雨による1日の順延と1試合の日没コールドゲームがあった以外は順調に消化された。

結果は以下の通り。[表中(コ)はコールド、(タ)はタイブレーク]

(文責:愛知大学 紅林和博)

【1部】

チーム	中京大	愛知大	常葉大	愛学院	聖徳大	勝	負	分	点	順位
中京大		○ 6-2	● 3-7	○ 5-1	○ 6-2	3	1	0	4	1位
愛知大	● 2-6		△ 9-9	○ 13-7	◎(コ) 11-0	2	1	1	3	2位
常葉大	○ 7-3	△ 9-9		● 2-6	○ 8-5	2	1	1	2	3位
愛学院	● 1-5	● 7-13	○ 6-2		○ 10-6	2	2	0	0	4位
聖徳大	● 2-6	● 0-11	◆(コ) 5-8	● 6-10		0	4	0	-9	5位

中京大学が3戦1敗の成績で昨年の秋以来の優勝を飾った。

中京大学は投手小野川(2年・高知:高知商高出)を軸に全体的にそつのない試合内容で順当に勝ち進んだ。

唯一の敗戦となった常葉学園大の投手の緩いボールに対する対処が今後の課題か。

愛知大学は春より順位をひとつあげて2位となったが試合内容はまだまだ雑。特に終盤に追いつかれるというパターンを克服しなければ優勝への道のりはきびしい。

常葉学園大の攻撃力は1部の中でも最上級であろう。守備力に関してもひけをとらないだけに投手力の増強が、またれる。中京大戦で見たようなピッチングが常時展開されれば春は面白い。

愛知学院大は例年の元気がなく4位となった。

岐阜聖徳大は初の1部昇格の試合となったが4戦全敗となった。主戦投手の河村投手(石川:尾山台高出)はまだ1年生。春は2部での再スタートとなるがぜひ勝ち上がって再度1部での活躍に期待したい。

【2部 Aグループ】

チーム	静岡大	愛教大	名大	みずほ	日福大	勝	負	分	点	順位
静岡大		◎(コ) 10-0	○ 6-2	◎(コ) 40-0	—	3	0	0	8	1位
愛教大	◆(コ) 0-10		○ 7-4	◎(コ) 8-1	—	2	1	0	2	2位
名大	● 2-6	● 4-7		◎(コ) 19-1	—	1	2	0	-1	3位
みずほ	◆(コ) 0-40	◆(コ) 1-8	◆(コ) 1-19		—	0	3	0	-9	4位
日福大	—	—	—	—		—	—	—	—	—

※日福大は棄権。

【2部 Bグループ】

チーム	朝日大	岐経大	南山大	名城大	学泉大	勝	負	分	点	順位
朝日大		○ 8-6	◎(コ) 7-0	● 5-8	◎(コ) 23-4	3	1	0	6	1位
岐経大	● 6-8		○ 12-9	○ 4-3	◎(コ) 49-3	3	1	0	5	2位
南山大	◆(コ) 0-7	● 9-12		○ 3-1	◎(コ) 20-0	2	2	0	0	3位
名城大	○ 8-5	● 3-4	● 1-3		◎(コ) 25-0	2	2	0	1	4位
学泉大	◆(コ) 4-23	◆(コ) 3-49	◆(コ) 0-20	◆(コ) 0-25		0	4	0	-12	5位

【2部順位決定戦】

1・2位決定戦

静岡大学

9

—

1

朝日大学

※静岡大学は春季リーグ戦から1部昇格。

3・4位決定戦

愛知教育大学

3

—

2

岐阜経済大学

5・6位決定戦

南山大学

7

—

0

名古屋大学

7・8位決定戦

名城大学

25

—

5

愛知みずほ大学

○表彰選手一覧

最優秀選手 小野川 直人(中京大 2年)

優秀選手 林 健太郎(静岡大 3年)

敢闘選手 根本 弘一(愛知大 2年)

1部首位打者 西山 忠義(常葉学園大 2年)

2部首位打者 原井 淳治(静岡大 2年)

《ベストナイン》

投手 小野川 直人(中京大 2年)

捕手 武田 剛史(愛知大 3年)

一塁手 西山 忠義(常葉学園大 2年)

二塁手 吉村 啓(中京大 2年)

三塁手 大山 勲(常葉学園大 3年)

遊撃手 篠塚 大輔(愛知学院大 2年)

左翼手 牧 重信(愛知大 3年)

中堅手 良知 宏一(常葉学園大 3年)

右翼手 浅田 恵吾(岐阜聖徳大 3年)

平成10年度秋季第32回東海地区大学ソフトボールリーグ戦（女子）結果

1. 主催：東海地区大学ソフトボール連盟
2. 主管：愛知県ソフトボール協会・同協会西三河支部・刈谷市ソフトボール連盟・中京女子大学
3. 後援：刈谷市教育委員会・刈谷市体育協会
4. 期日：平成10年10月25・31日・11月1・3日
5. 会場：刈谷市刈谷駅南運動広場
6. 1部対戦成績：

チーム	中 京	東 海	中 女	明 徳	桜 花	愛 教	勝	分	敗	勝点	順位
中 京		● 3-1	◎ 9-0	◎ 9-0	◎ 8-0	◎ 11-0	4	0	1	+10	2位
東海女子	○ 3-1		○ 5-2	● 2-3	◎ 7-0	◎ 13-0	4	0	1	+8	優勝
中京女子	◆ 0-9	● 2-5		○ 2-0	○ 3-0	○ 6-0	3	0	2	+1	3位
明 徳	◆ 0-9	○ 3-2	● 0-2		■ 1-2	○ 3-0	2	0	3	±0	5位
桜花学園	◆ 0-8	◆ 0-7	● 0-3	□ 2-1		○ 2-1	2	0	3	-5	4位
愛知教育	◆ 0-11	◆ 0-13	● 0-6	● 0-3	● 1-2		0	0	5	-12	6位

◎：コールド勝ち(+3) ○：勝ち(+2) □：タイブレイク勝ち(+1) △：引き分け(±0)
 ■：タイブレイク負け(-1) ●：負け(-2) ◆：コールド負け(-3) ()内は勝点

7. 2部対戦成績：

チーム	静 岡	南 山	聖 徳	常 葉	学 泉	名古屋	勝	分	敗	勝点	順位
静 岡		○ 17-15	◎ 17-7	○ 11-9	● 6-12	◆ 2-9	3	0	2	+2	3位
南 山	● 15-17		◎ 8-1	◎ 7-0	○ 5-2	○ 10-7	4	0	1	+8	優勝
岐阜聖徳	◆ 7-17	◆ 1-8		● 6-11	◆ 3-11	○ 7-4	1	0	4	-9	6位
常葉学園	● 9-11	◆ 0-7	○ 11-6		◆ 6-13	△ 10-10	1	1	5	-6	5位
愛知学泉	○ 12-6	● 2-5	◎ 11-3	◎ 13-6		● 2-4	3	0	2	+4	2位
名 古 屋	◎ 9-2	● 7-10	● 4-7	△ 10-10	○ 4-2		2	1	2	+1	4位

◎：コールド勝ち(+3) ○：勝ち(+2) □：タイブレイク勝ち(+1) △：引き分け(±0)
 ■：タイブレイク負け(-1) ●：負け(-2) ◆：コールド負け(-3) ()内は勝点

8. 入れ替え戦：

名古屋明德短期大学（1部残留）7-0愛知学泉大学（棄権）

9. 一部最終順位

優勝：東海女子大学（8季ぶり8回目）

2位：中京大学

3位：中京女子大学

4位：桜花学園大学

5位：名古屋明德短期大学

6位：愛知教育大学

10. 二部最終順位

優勝：南山大学（初優勝）

2位：愛知学泉大学

3位：静岡大学

4位：名古屋大学

5位：常葉学園大学

6位：岐阜聖徳学園大学

11. 個人表彰

最優秀選手賞：青山 祥子 右翼手（東海女子大学）

優秀選手賞：日紫喜美加 投手（南山大学）

敢闘選手賞：小出 梨愛 投手（中京大学）

1部首位打者賞：安田真富果 左翼手（中京大学 7割0分0厘）

2部首位打者賞：加藤美紗子 投手（岐阜聖徳学園大学 6割9分2厘）

ベストナイン：投手 田中 晶子（東女大）

遊撃手 加藤 淳子（東女大）

捕手 山本由香梨（東女大）

左翼手 安田真富果（中京大）

一塁手 萩村 友美（中京大）

中堅手 出納 綾子（愛教大）

二塁手 西川 愛（東女大）

右翼手 塩川 愛（中京大）

三塁手 横田 知依（中京大）

指針者 ト部 智美（中京大）

12. 総評

本リーグ戦は、多くのチームが新チームに切り替わっての最初の大会となる。その意味で、リーグ戦の展開は予想しがたい。1部では、7季連続優勝の中京大がエースピッチャーをはじめとして先発メンバーが大幅に入れ替ったのに対し、他の大学はそれほどの変化がなかったもので、その戦いぶりは特に注目された。

1部リーグ戦は、初日から波乱の幕開けとなった。春季準優勝の東海女子大が、同4位の名古屋明德短大に2-3xでサヨナラ負けを喫したのであった。この明德短大も第3日に桜花学園大にタイブレークで破れ、結局5位に甘んじてしまった。注目された中京大は、打線の爆発で4試合にすべてコールド勝ちを納めて、優勝を決すべく最終日に東海女子大と対戦した。しかし、初回到1点を先制したものの、結局3点を失って逆転負けとなってしまった。この結果、東海女子大が8季ぶり8回目の優勝を納めてリーグ戦は終了した。印象に残ったのは、安田左翼手（中京大）の長打力である。また、惜しくも最下位で2部転落となった愛教大の出納中堅手の肩とシャープな打撃は、目を見張らせた。投手では、短大大会準優勝の田中投手の速球は威力十分であったが、全般的には、今ひとつの印象を免れない。

一方、2部リーグ戦は南山大の健闘が光り、静岡大に接戦で敗れたものの涙涙の初優勝を飾った。その原動力となった優秀選手賞の日紫喜投手等、3年生の努力を称えたい。また、毎季順位の変動が大きいのは、投手力を中心とした守備力の差であり、特に送球技術の向上を今後の大きな課題としてもらいたい。（中女大 水谷）

平成10年度第30回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）結果

主 催： 関西学生ソフトボール連盟男子事務局
後 援： 大阪ソフトボール協会、ラジオ大阪
協 賛： (株) MIZUNO、(株) ツツキ
期 日： 平成10年4月4、5、12、19、26、29、5月3、4日
会 場： 万博公園スポーツ広場

[1部総評]

戦前の予想では、優勝候補の筆頭は昨年度の春・秋を制した京都産業大学と目され、他の5チームがどれだけ京産大に善戦するかというのが大方の予想であった。

大会初日、京産大はいきなり打線が爆発し、立命館大学に快勝した。一方、今季より1部に返り咲いた大阪経済法科大学は1部常連校である関西大学を相手に目を見張る投手戦の末、2—1と接戦をものにした。大会2日目、京産大はダブルヘッダーときついスケジュールであった。1試合目の相手は関西大。先制されるものの、持ち前の打撃力を発揮し快勝した。2試合目は大阪経法大。先制点は大阪経法大があげた。京産大も何度かチャンスを作るが決定打が出ず、0—3と完封負けを喫した。この一戦を機に、大阪経法大はがぜん注目を浴びるようになった。波にのる大阪経法大は、3日目に立命館大に敗戦するものの、最終日のダブルヘッダーを制して、全日程を終了した。その結果、大阪経法大と京産大の2チームが4勝1敗の戦績だったが、直接対決を制した大阪経法大が「初優勝」を飾った。今回の大阪経法大は、個々人の能力が高く、ここぞというときの集中打もあり、大変まとまった強いチームだと感じられた。「初優勝おめでとう」と賛辞を送りたい。

1部リーグ全体を見ての感想だが、大量点の入る試合が多かった。打撃力がアップしたのか、投手力がダウンしたのか一概には言えないが、僅差の試合や最少失点試合が多いというのが、リーグ全体の盛り上がりには欠かせない。打線は各チームとも強力だが、それを最少失点に抑える投手を育ててくれることを期待したい。

[2部総評]

A、B、Dブロックは予想通り、大阪体育大学、神戸学院大学、四天王寺国際仏教大学が勝ち抜き、決勝トーナメントへコマを進めた。一方、Cブロックは過去に1部にいた同志社大学、神戸大学の争いとなったが、直接対決を制した神戸大がブロック優勝を果たした。

ブロックトーナメントの1回戦では、好投手竹下を擁する神戸学院大と、かつての1部常連校である大阪体育大学がぶつかった。結果は神戸学院大が勝利した。同じく1回戦、神戸大と四仏大の対戦では四仏大が勝利し、決勝戦は神戸学院大と四仏大の対戦になった。その結果、投手力で勝った神戸学院大が接戦をものにし、一部返り咲きを果たした。また、決勝戦で破れはしたものの、四仏大は1部5位の龍谷大との入れ替え戦において、逆転につぐ逆転で見事勝利をおさめ、一部昇格を手にした。

2部全体の感想だが、まず、神戸学院大の竹下投手の球の速さ、安定感は強く印象に残った。ニュージランド遠征に参加して、大きく成長した一人である。また反面、20—10というような競技ソフトとは思えない魅力のない試合も何試合かあった。さらに、チーム間の力の差がかなりあるとも感じた。2部の裾野を広げているためやむを得ないとはいえ、現在全国のチームから注目されている関西リーグに所属するチームとして、各チームの頑張りに期待したい。

文責：学生委員長 川口慎一（関西大学）

1部リーグ	龍谷大	大阪大	立命館	京産大	大経法	関西大	勝	負	分	勝点	順位
龍谷大学		○ 6-1	× 2-9	× 1-9	× 3-5	× 2-8	1	4	0	3	5
大阪大学	× 1-6		× 0-9	× 1-8	× 4-8	× 3-6	0	5	0	0	6
立命館大学	○ 9-2	○ 9-0		× 0-8	○ 7-4	△ 5-5	3	1	1	10	3
京都産業大学	○ 9-1	○ 8-1	○ 8-0		× 0-3	○ 6-2	4	1	0	12	2
大阪経済法科大学	○ 5-3	○ 8-4	× 4-7	○ 3-0		○ 2-1	4	1	0	12	1
関西大学	○ 8-2	○ 6-3	△ 5-5	× 2-6	× 1-2		2	2	1	7	4

5位の龍谷大学は入れ替え戦へ

6位の大阪大学は自動的に2部に降格

2部Aブロック	大体大	近畿大	姫独大	京都大	和 大	勝	負	分	勝点	順位
大阪体育大学		○ 6-4	○ 16-7	○ 3-2	○ 8-2	4	0	0	12	1
近畿大学	× 4-6		× 4-8	△ 5-5	○ 13-3	1	2	1	4	3
姫路独協大学	× 7-16	○ 8-4		× 2-7	× 2-11	1	3	0	3	5
京都大学	× 2-3	△ 5-5	○ 7-2		○ 9-2	2	1	1	7	2
和歌山大学	× 2-8	× 3-13	○ 11-2	× 2-9		1	3	0	3	4

2部Bブロック	奈教大	京園大	神院大	兵教大	大工大	勝	負	分	勝点	順位
奈良教育大学		△ 12-12	× 0-12	○ 24-9	○ 11-6	2	1	1	7	2
京都学園大学	△ 12-12		× 1-13	○ 8-5	○ 8-6	2	1	1	7	3
神戸学院大学	○ 12-0	○ 13-1		○ 11-0	○ 9-0	4	0	0	12	1
兵庫教育大学	× 9-24	× 5-8	× 0-11		○ 9-1	1	3	0	3	4
大阪工業大学	× 6-11	× 6-8	× 0-9	× 1-9		0	4	0	0	5

2部Cブロック	仏教大	同 大	関学大	神戸大	大府大	勝	負	分	勝点	順位
仏教大学		× 4-8	○ 13-0	△ 6-6	× 1-3	1	2	1	4	4
同志社大学	○ 8-4		○ 7-0	× 2-4	○ 8-3	3	1	0	9	2
関西学院大学	× 0-13	× 0-7		× 0-7	× 4-6	0	4	0	0	5
神戸大学	△ 6-6	○ 4-2	○ 7-0		○ 12-7	3	0	1	13	1
大阪府立大学	○ 3-1	× 3-8	× 6-4	× 7-12		2	2	0	6	3

2部Dブロック	甲南大	桃山大	大市大	四仏大	勝	負	分	勝点	順位
甲南大学		× 3-5	× 4-9	× 0-6	0	3	0	0	4
桃山学院大学	○ 5-3		× 0-6	× 2-12	1	2	0	3	3
大阪市立大学	○ 9-4	○ 6-0		× 1-12	2	1	0	6	2
四天王寺国際仏大	○ 6-0	○ 12-2	○ 12-1		3	0	0	9	1

2部ブロック戦

準決勝第一試合 大阪体育大学 V S 神戸学院大学は、神戸学院大学が勝利

準決勝第二試合 神戸大学 V S 四天王寺国際仏教大学は、四天王寺国際仏教大学が勝利

決勝戦 神戸学院大学 V S 四天王寺国際仏教大学は、4-2で神戸学院大学が勝利し、1部昇格

入れ替え戦

龍谷大学 V S 四天王寺国際仏教大学は、四天王寺国際仏教大学が勝利し、1部昇格。龍谷大学は2部降格。

第30回春季関西学生ソフトボールリーグ戦(女子)

会 期: 平成10年4月26日・29日・5月3日・4日・5日

会 場: 園田学園女子大学・大谷女子大学・京都女子大学

主 催: 関西学生ソフトボール連盟

主 管: 関西学生ソフトボール連盟

【試合結果】

<1 部>

	国	際	園	田	武庫川	龍	谷	立	命	親	和	勝	負	分	順位
国	際		● 0-1	● 2-3	○ 1-0	○ 2-1	● 0-7	2	3	0	5				
園	田	○ 1-0		○ 6-0	○ 3-0	○ 4x-0	● 0-3	4	1	0	1				
武庫川	○ 3-2	● 0-6x		○ 2-1	○ 4x-0	○ 3x-1	4	1	0	2					
龍	谷	● 0-1	● 0-3x	● 1-2		○ 2-1	○ 5x-0	2	3	0	4				
立	命	● 1-2	● 0-4x	● 0-4x	● 1-2		○ 2x-1	1	4	0	6				
親	和	○ 7-0	○ 3-0	● 1-3x	● 0-5x	● 1-2x		2	3	0	3				

入れ替え戦 関西外国語大学 vs 立命館大学 関西外国語大学が1部昇格

【1部総評】

平成10年度第30回春季関西学生ソフトボールリーグ戦は4月26・29日、5月4・5日の4日間にわたって園田学園女子大学グラウンドにおいて開催された。雨の為、1日延期となったが、兵庫県・大阪府・京都府のソフトボール協会の全面的な御支援のもとに大幅な遅れもなく、白熱したゲームが繰り広げられた。関係者各位に厚く御礼申し上げます。

1部リーグ戦は、5季連続優勝の園田学園女子大学をはじめ大阪国際女子大学、武庫川女子大学、龍谷大学、立命館大学、昨年1部昇格を勝ち取った神戸親和女子大学の6チームで争われた。リーグ初日、2日目に大阪国際女子大学、園田学園女子大学が1部に昇格したばかりの神戸親和女子大学に敗れ、波乱の幕開けとなった。結果は、園田学園女子大学が1敗をまもり優勝を決めた。武庫川女子大学も安定した強さをみせ、準優勝となった。3位の神戸親和女子大学は、2部から昇格してきたばかりだが健闘し、この結果は2部の実力が上がってきていると感じさせられた。

＜2部A＞

	外 大	大 谷	体 大	成 蹊	兵 教	IBV	勝	負	分	順位
外 大		○ 6x-0	○ 3-0	● 1-2	○ 2x-0	○ 13-0	4	1	0	1
大 谷	● 0-6x		● 0-5x	○ 6-2	○ 12-0	○ 22x-0	3	2	0	3
体 大	● 0-3	○ 5x-0		○ 2x-1	○ 10-1	○ 10x-0	4	1	0	2
成 蹊	○ 2-1	● 2-6	● 1-2x		○ 10-0	○ 15-0	3	2	0	4
兵 教	● 0-2x	● 0-12	● 1-10	● 0-10		○ 12x-5	1	4	0	5
IBV	● 0-13	● 0-22x	● 0-10x	● 0-15	● 5-12x		0	5	0	6

入れ替え戦 奈良教育大学はPL学園女子大学が棄権のため2部Aに昇格

＜2部B＞

	奈 教	同志社	神 戸	佛 教	京 女	府 大	勝	負	分	順位
奈 教		○ 10x-6	○ 11-0	○ 11-3	○ 11-1	○ 13-1	5	0	0	1
同志社	● 6-10x		○ 12-11	○ 7-3	● 13-15	○ 2x-0	3	2	0	2
神 戸	● 0-11	● 11-12		○ 8-6	○ 9-0	● 7-15	2	3	0	3
佛 教	● 3-11	● 3-7	● 6-8		○ 6x-5	○ 10x-6	2	3	0	4
京 女	● 1-11	○ 15-13	● 0-9	● 5-6x		○ 5x-4	2	3	0	5
府 大	● 1-13	● 0-2x	○ 15-7	● 6-10x	● 4-5x		1	4	0	6

平成 10 年度第 30 回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦(男子)

主 催： 関西学生ソフトボール連盟男子事務局
後 援： 大阪ソフトボール協会、ラジオ大阪
協 賛： (株)MIZUNO、(株)ツツキ
期 日： 平成 10 年 10 月 4・11・25 日、11 月 1・3 日
会 場： 万博公園スポーツ広場

[1部総評]

今回ほど雨に悩まされたリーグ戦は過去の歴史においてもあまりないのではなかろうか。9/27の初日を筆頭に計3回の雨天順延により、リーグ後に予定されていた新人戦を十分行うこともできなかった。秋季リーグは例年、各大学とも4年生が抜け、新チームでのスタートとなる。春に初優勝を遂げた大阪経済法科大学がまた走るのか、それとも京都産業大学、立命館大学、関西大学といった1部常連校が巻き返しを図るのか、あるいは2部から再昇格を果たした神戸学院大学と四天王寺国際仏教大学が新たな風となるのかといった興味深い開幕となった。大会第1日目は、京産大、立命館大が予想通りの力を発揮して初戦を飾った。注目されたは、いきなり昇格組同士の対戦となった第2試合目の神院大 V 四仏大だった。最終的には 6-6 のドローとなったが、終始、四仏大優勢でゲームが進んだといっても過言ではなく、四仏大の元気のよさが目立った試合であった。また、神院大の後半の粘りも特筆すべきものがあった。リーグ戦は最終的には、一貫して攻守のバランスがとれた立命館大が全勝での優勝(6季3年ぶり)を果たすという結果に終わったが、この初日の戦いぶりがその後を象徴した形となり、2位、3位には昇格組の四仏大、神院大がそれぞれ食い込む形で全日程を終了した。全体を総括すると、得点をみれば分かるように「打高投低」の感は否めない。ソフトボールにおいても男子らしく豪快な打撃戦は勿論面白いのだが、「息詰まる投手戦」というのも「1部同士のゲーム」では見せてほしいものである。どの投手も今回は不調や怪我で十分でなかったようだが、素材的には素晴らしいものがあるので、春に向けて各チームのエースの頑張りに期待したい。

文責：副理事長 森田啓之(兵庫教育大学)

[2部総評]

今回の2部リーグ戦は全体的に大学間の実力差が感じられず、ほとんどのブロックにおいて最後まで優勝の行方が分からない白熱した展開となった。しかし、そのような中、Cブロックはシード校の龍谷大学が攻守とも圧倒的な強さを見せ、順調に決勝トーナメントにコマを進めた。それに対して最も混乱していた2フが、大阪体育大学が急遽出場辞退したBブロックである。京都大学が大阪府立大学、仏教大学をなんとか得失点差で振り切ったという感じであり、最終日までもつれにもつれた末の優勝であった。守備力、投手力で失点を最小限に食い止めてきたのが勝因であろう。また、Aブロックでは、最終日に全勝の兵庫教育大学が、シード校であるが既に一敗の大阪大学と対戦した。兵教大はそれまでの3試合は打撃好調であったが、阪大のエースを打ち崩すことができず、また阪大の効率良い攻めが目立った試合であった。阪大の底力を見せつけられる結果だった。Dブロックは前評判通り、同志社大学とシード校神戸大学の対決が事実上の優勝決定戦となった。緊迫感あふれる投手戦の末、同志社大学の一発攻勢が粘る神戸大学を破り、春の雪辱を果たした。[2部決勝トーナメント、入れ替え戦総評] 準決勝第1試合は、国立大学同士の試合となった。阪大、京大ともどのリーグ戦においても安定した結果を残しており興味深い対戦であったが、結果は1部降格の大阪大学を京都大学が勢いよく寄り切る形となった。第2試合は、ブロック戦とともに全勝でクリアしてきた龍谷大と同志社大であったが、龍谷大が終始優勢でゲームを進め、勝利した。決勝は京大 VS 龍谷大の対戦となった。後半まで京大はリードしていたが、肝心なところで龍谷大に一発攻勢を浴び、2-5で涙をのんだ。その結果、2部優勝は龍谷大となり、無条件で1部昇格となった。2位となった京大は、1部5位の関西大と入れ替え戦を迎えた。日程の関係でその日に3試合目となる京大は体力的にも大変であったが、加えて1部常連校の試合運びのうまさにより2-4と敗退し、昇格のチャンスを逃してしまった。関西大学は入れ替え戦が決定して以来、2部校のゲームをチェックした成果が実り、伝統校として1部に踏みとどまることができた。

文責：記録部長 永田真吾(神戸大学)

1 部 リーグ	大経法大	京産大	神院大	四天王大	立命館大	関西大	勝	敗	分	勝点	順位
大阪経済法科大学	*	● 2-8	● 1-3	● 3-8	● 0-4	● 5-7	0	5	0	0	6
京都産業大学	○ 8-2	*	● 3-5	● 0-3	● 3-4	○ 9-0	2	3	0	6	4
神戸学院大学	○ 3-1	○ 5-3	*	△ 6-6	● 0-3	△ 2-2	2	1	2	8	3
四天王寺国仏大	○ 8-3	○ 3-0	△ 6-6	*	● 5-6	○ 11-3	3	1	1	10	2
立命館大学	○ 4-0	○ 4-3	○ 3-0	○ 6-5	*	○ 8-5	5	0	0	15	1
関西大学	○ 7-5	● 0-9	△ 2-2	● 3-11	● 5-8	*	1	3	1	4	5

*5位の関西大学は入れ替え戦へ、6位の大阪経済法科大学は自動的に2部に降格

2 部 A ブロック	甲南大	大市大	桃学大	兵教大	大阪大	勝	敗	分	勝点	順位
甲南大学	*	● 3-5	○ 7-6	● 0-20	● 0-9	1	3	0	3	4
大阪市立大学	○ 5-3	*	● 5-6	● 4-9	○ 2-0	2	2	0	6	3
桃山学院大学	● 6-7	○ 6-5	*	● 2-12	● 1-8	1	3	0	3	5
兵庫教育大学	○ 20-0	○ 9-4	○ 12-2	*	● 1-4	3	1	0	9	2
大阪大学	○ 9-0	● 0-2	○ 8-1	○ 4-1	*	3	1	0	9	1

*1位と2位は直接対決の結果により決定

2 部 B ブロック	大府大	仏教大	和歌山大	大体大	京都大	勝	敗	分	勝点	順位
大阪府立大学	*	● 0-14	○ 16-0	—	○ 6-3	2	1	0	6	3
仏教大学	○ 14-0	*	○ 8-4	—	● 1-12	2	1	0	6	2
和歌山大学	● 0-16	● 4-8	*	—	● 0-6	0	3	0	0	4
大阪体育大学	棄権	棄権	棄権	*	棄権					
京都大学	● 3-6	○ 12-1	○ 6-0	—	*	2	1	0	6	1

*1位～3位は得失点差により決定

2 部 C ブロック	関学大	姫独大	奈教大	龍谷大	大工大	勝	敗	分	勝点	順位
関西学院大学	*	● 6-11	● 0-6	● 0-10	○ 11-1	1	3	0	3	4
姫路独協大学	○ 11-6	*	○ 5-1	● 0-4	● 4-5	2	2	0	6	2
奈良教育大学	○ 6-0	● 1-5	*	● 4-8	○ 8-5	2	2	0	6	3
龍谷大学	○ 10-0	○ 4-0	○ 8-4	*	○ 7-0	4	0	0	12	1
大阪工業大学	● 1-11	○ 5-4	● 5-8	● 0-7	*	1	3	0	3	5

*2位と3位、並びに4位と5位はそれぞれ直接対決の結果により決定

2 部 D ブロック	同志社大	近畿大	京園大	神戸大	勝	敗	分	勝点	順位
同志社大学	*	○ 8-2	○ 9-1	○ 4-2	3	0	0	9	1
近畿大学	● 2-8	*	● 2-5	● 1-5	0	3	0	0	4
京都学園大学	● 1-9	○ 5-2	*	● 1-7	1	2	0	3	3
神戸大学	● 2-4	○ 5-1	○ 7-1	*	2	1	0	6	2

2部ブロックトーナメント

準決勝第1試合 大阪大学 VS 京都大学 2-6で京都大学の勝利

準決勝第2試合 龍谷大学 VS 同志社大学 4-1で龍谷大学の勝利

決勝戦 京都大学 VS 龍谷大学 5-2で龍谷大学の勝利

*優勝した龍谷大学は1部昇格、準優勝の京都大学は入れ替え戦

入れ替え戦 関西大学 VS 京都大学 4-2で関西大学が勝利し、1部残留

平成10年度第30回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦(女子)

会 期: 平成 10 年 10 月 4・10・11・18・25 日

会 場: 園田学園女子大学・大谷女子大学・京都女子大学

主 催: 関西学生ソフトボール連盟

主 管: 関西学生ソフトボール連盟女子事務局, 兵庫県大学ソフトボール連盟

後 援: 兵庫県ソフトボール協会, 大阪府ソフトボール協会, 京都府ソフトボール協会

【試合結果】

<1 部>

	園田	武庫川	親和	龍谷	国際	関外	勝	負	勝点	順位
園田学園女子大学		○ 1-0	○ 4×-1	○ 4×-2	○ 5×-0	○ 3×-0	5	0	5	優勝
武庫川女子大学	● 0-1		○ 1×-0	○ 7×-0	● 0-6	○ 3-0	3	2	3	2
神戸親和女子大学	● 1-4×	● 0-1×		○ 3-0	○ 4×-2	● 2-3×	2	3	2	3
龍谷大学	● 2-4×	● 0-7×	● 0-3		○ 1×-0	○ 1-0	2	3	2	5
大阪国際女子大学	● 0-5	○ 6-0	● 2-4×	● 0-1×		● 0-1×	1	4	1	6
関西外国語大学	● 0-3×	● 0-3	○ 3×-2	● 0-1	○ 1×-0		2	3	2	4

入れ替え戦 大阪国際女子大学(1部6位)VS大谷女子大学(2部A優勝)

4-0で大阪国際女子大学が勝利し、1部残留

【1部総評】

1部リーグ戦は、春・秋の連覇をねらう園田学園女子大学をはじめ、武庫川女子大学、神戸親和女子大学、龍谷大学、大阪国際女子大学、関西外国語大学の計6チームで行われた。

戦前の予想では春季リーグで再昇格してきた関西外国語大学が1部リーグに波乱を起こすのではないかとされていたが、やはり1部の壁はなかなか厚かったようである。最終結果は、園田学園女子大学が危なげない試合内容で、全勝優勝を決めた。また、武庫川女子大学は順調に勝ち進んで2位となった。一方で、もう一つの焦点はどのチームが最下位、すなわち入れ替え戦にまわるのかであった。それは最終日までもつれにもつれた。特に、大阪国際女子大学はエース恒元の不調を攻守でカバーすることができずに苦戦続きで、結局1勝4敗で最下位となった。神戸親和女子大学は1部に昇格して2季目であるが、結果としては苦戦しつつも安定した成績を連続して残した。来春以降、かなり上位をねらえるだろう。

最後に全体的に強く感じたのは、チームというのは一度歯車が狂うと信じられないエラーも起こるもので、さらになかなかその修正はできにくく、そのままリーグが終わってしまうといった怖さである。来季は新チームで新たな戦いが展開されることになるであろうが、全体的レベルアップを期待したい。

< 2部A >

	立命館	大谷	大体大	成蹊	兵教大	四仏大	勝	敗	勝点	順位
立命館大学		● 0-1	○ 1-0	○ 1-0	○ 11-4	○ 20-0	4	1	4	2
大谷女子大学	○ 1-0		○ 2-1	○ 3-0	○ 8-1	○ 21-0	5	0	5	優勝
大阪体育大学	● 0-1	● 1-2		● 1-2	○ 10-0	○ 9-0	2	3	2	4
大阪成蹊女子短大	● 0-1	● 0-3	○ 2-1		○ 3-1	○ 19-0	3	2	3	3
兵庫教育大学	● 4-11	● 1-8	● 0-10	● 1-3		○ 8-0	1	4	1	5
四天王寺国仏大学	● 0-20	● 0-21	● 0-9	● 0-19	● 0-8		0	5	0	6

入れ替え戦 PL学園短期大学が2部Aを棄権したため、2部B優勝の大阪府立大学が自動
PL短大は2部Bに降格

< 2部B >

	同志社	神戸	仏教	京女	大府	京薬	勝	敗	勝点	順位
同志社大学		● 1-9	● 7-11	● 2-4	● 11-15	○ 14×-2	1	4	1	5
神戸大学	○ 9-1		● 9-10	● 1-7	● 7-8	○ 14×-2	2	3	2	4
仏教大学	○ 11-7	○ 10-9		○ 9-6	● 7-14	○ 10×-0	4	1	4	3
京都女子大学	○ 4-2	○ 7-1	● 6-9		○ 5×-2	○ 10×-0	4	1	4	2
大阪府立大学	○ 15-11	○ 8-7	○ 14-7	● 2-5×		○ 11-0 (4回)	4	1	4	優勝
京都薬科大学	● 2-14	● 2-14	● 0-10×	● 0-10×	● 0-11		0	5	0	6

【2部総評】

2部Aはここ数年、1部からの降格チームを含めた上位チームが激しい優勝争いを演じている。今リーグも上位チーム同士の対決はどれも接戦で、延長戦にもつれこむ展開も多かった。その僅差の勝負を決定するのは、大阪成蹊女子短大と大阪体育大学の一戦がその典型であったように、数少ない好機を生かしたか否かという点であろう。なお、優勝を決定する試合となったのは、立命館大学と大谷女子大学の対戦であった。ランナーは出すものの、両エースの踏ん張りで延長戦に入って1点を争う好ゲームとなったが、大谷女子大学が待望の先取点を取り、最終日を残して初優勝(全勝)を飾った。1部との入れ替え戦では、惜しくも大阪国際女子大学に敗れはしたものの、エース福井を中心として1・2年生が多いだけに来季も目が離せない。また、攻撃において著しい進歩を見せたのが兵庫教育大学である。順位こそ上げられなかったものの、どのチームも1点を奪うのに四苦八苦した立命館大学から4点をもぎ取ったほか、大谷女子大学に1点を先制するなど今春に比べ、特色が色濃く表れたチームになっており、その打線には誰もが目を見張った。来季は全チームが特徴的で、それが活かされた好ゲームを期待したい。

一方、AのPL学園短大の棄権によって、2部Bでは、優勝すれば自動的に無条件で2部Aに昇格できることになった。全試合を終了して、仏教大学、京都女子大学、大阪府立大学が4勝1敗で並んだが、最終的に「総得失点差」が適用され、大阪府立大学が初の2部A入りを果たした。来

第 33 回全日本大学ソフトボール選手権中国地区予選

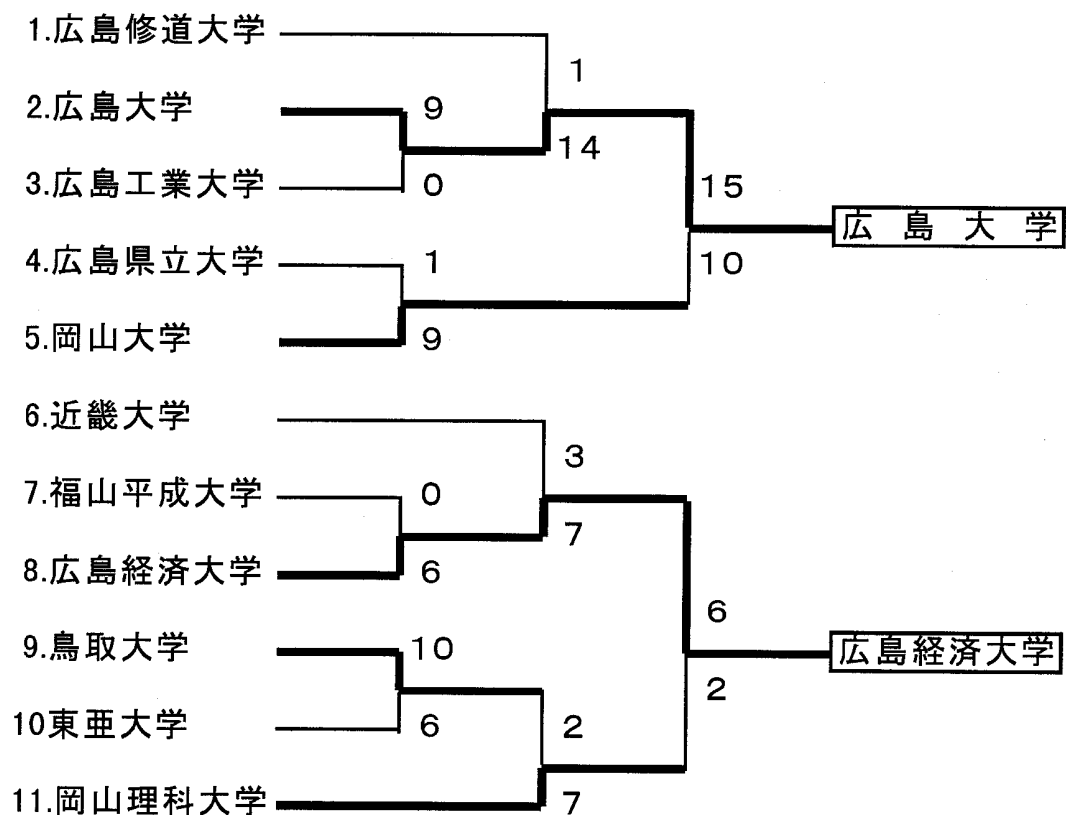
(男女)

会 期: 平成10年 月 日

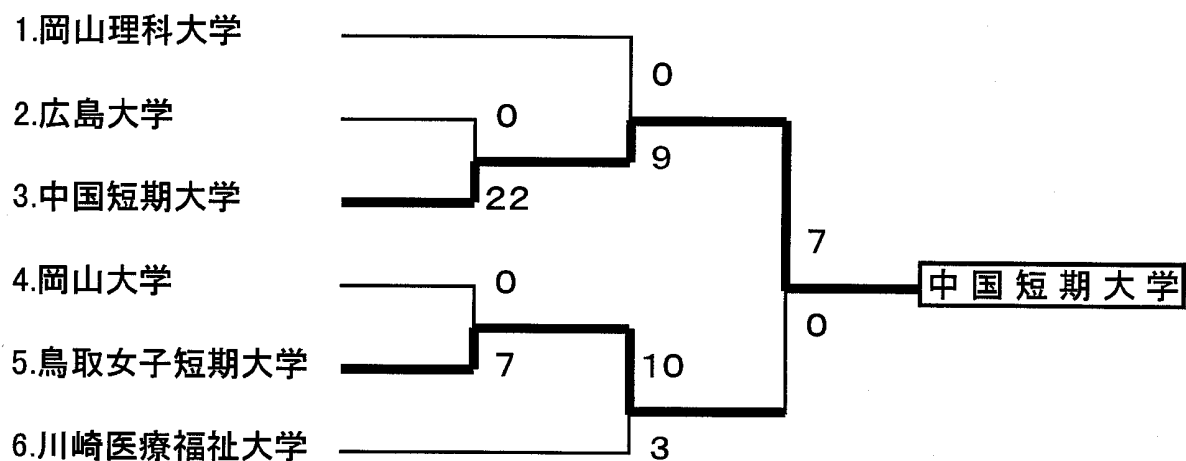
会 場:

【試合結果】

<男子>



<女子>



平成10年度四国地区男子ソフトボール春季大会

会 期：平成10年5月 4・5 日

会 場：高知県春野総合運動公園

【結果】 5月4日 予選リーグ戦

Aグループ	高知大学	徳島文理	松山大学	勝	負	分	順位
高知大学		○ 18-1	○ 14-3	2	0	0	1
徳島文理	● 1-18		● 3-10	0	2	0	3
松山大学	● 3-14	○ 10-3		1	1	0	2

Bグループ	徳島大学	高松大学	愛媛大学	勝	負	分	順位
徳島大学		● 6-10	○ 9-2	1	1	0	1
高松大学	○ 10-6		● 1-8	1	1	0	3
愛媛大学	● 2-9	○ 8-1		1	1	0	2

Cグループ	四国学院	香川大学	四国大学	勝	負	分	順位
四国学院		○ 7-1	● 3-5	1	1	0	2
香川大学	● 1-7		△ 2-2	0	1	1	3
四国大学	○ 5-3	△ 2-2		1	0	1	1

5月5日 順位決定リーグ

1位グループ 高知大学 1 vs 0 徳島大学

2位グループ 松山大学 10 vs 4 愛媛大学

3位グループ 高松大学 9 vs 5 徳島文理大学

***順位決定リーグ戦第2試合以降は降雨のため中止した。**

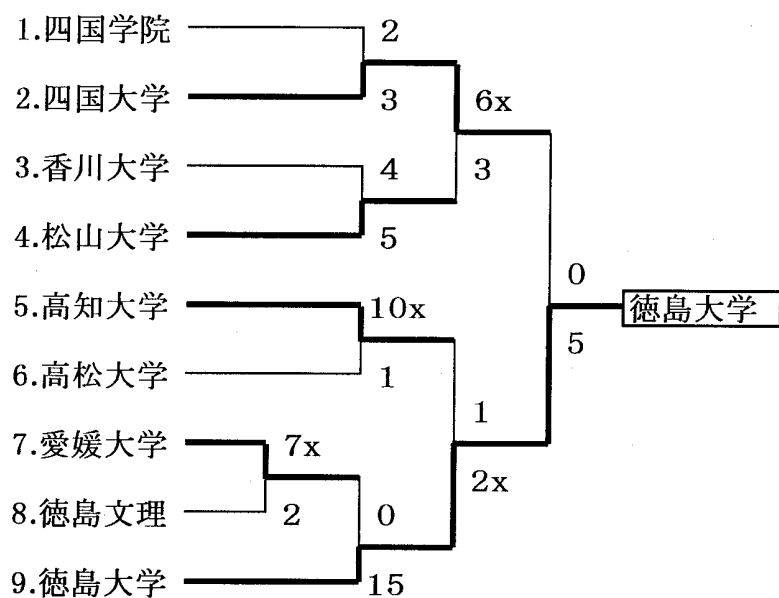
第33回全日本大学ソフトボール選手権大会四国予選兼 第30回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会 (男女)

会 期：平成10年5月16日(土)、17日(日)

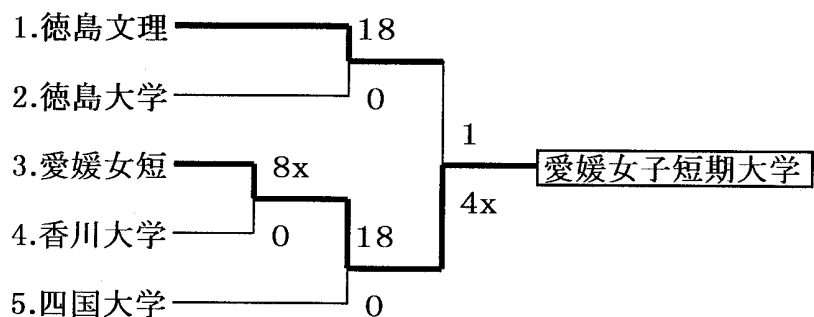
会 場：高知県春野総合運動公園

【試合結果】

<男子>



<女子>



<コメント>

当初は5月16・17日の両日で、男子は予選リーグ戦並びに順位決定リーグ戦、女子は総当たりリーグ戦を行うことにしていたが、初日の16日が豪雨のため試合を中止し、17日にトーナメント戦を行うことにする。その結果、第33回全日本大学ソフトボール選手権大会に、男子は、徳島大学と四国大学・女子は愛媛女子短期大学が四国代表に決定する。また、第30回西日本大学ソフトボール選手権大会には、男子が四国大学・高知大学・松山大学・四国学院大学の4チーム（徳島大学が出場辞退のため四国学院大学を繰り上げ出場）、女子は愛媛女子短期大学・徳島文理大学・香川大学の3チーム（第3代表決定戦に四国大学棄権のため）に決定する。各チームの全日本大会並びに西日本大会での健闘を祈る。ただ、女子の四国学院大学・高知大学・松山東雲女子大学の3チームが大学連盟にチーム登録をしながら部員が揃わず出場できなかったのは残念である。早く部員を揃えて一緒に試合ができる日を楽しみに待ちたい。

<選評>

男子決勝戦は徳島県勢同士の対決になったが、試合運びに一日の長のある徳島大学は2回裏2本の安打と押し出しの四球、内野ゴロの間に2点を先取し、3・4・6回到四球と安打と犠飛などで1点ずつ加えて優勝する。対する四国大学は1・3回の無死一・二塁、一死一・三塁のチャンスをつかみながら後続が凡退して涙を飲む。準決勝戦の高知大学対徳島大学は、両チームの投手の好投で投手戦となったが7回裏の二死満塁のピンチに高知大学の二塁手のエラーで徳島大学がサヨナラ勝ち。その他、四国大学対四国学院大学戦と松山大学対香川大学戦は接戦を演じたが試合運びの巧拙が勝敗を分けた。

一方、女子決勝戦は徳島文理大学と愛媛女子短期大学の対戦となり、1点を先行された愛媛女子短大が1回の裏二死一塁から3本の短長打で3点を奪い逆転し、2回にも1点を追加して須磨投手の好投で初優勝する。対する徳島文理大学は、1回表一死後2番岡田ライト線を破る本塁打で幸先よく1点を先取し、3番釜野の二塁打でチャンスを広げたが4番竹内のセカンドの左を襲うライナーを二塁手大城が好捕し、遊撃手に送ってダブルプレーが成立。これが最後まで響いて9年連続出場の夢を絶たれた。

平成10年度四国地区大学男子ソフトボール秋季大会

会 期：平成10年11月14日

会 場：香川大学

【試合結果】



【講評】

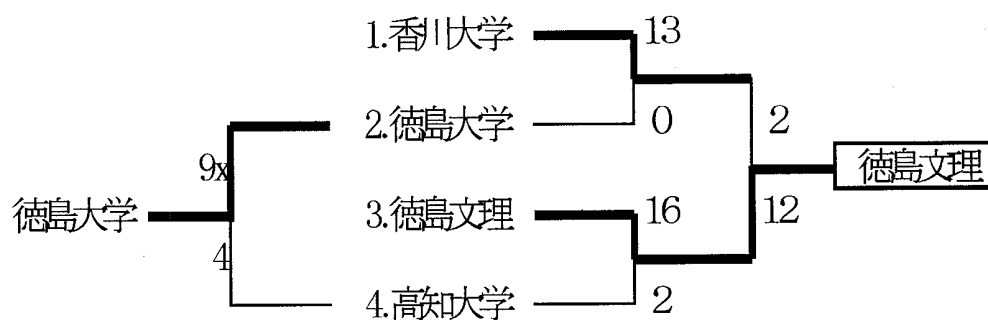
1点を先取された四国大学は3回表、1番西地・2番末包の連打で無死一・二塁とし、一死後4番豊谷のセンターオーバーの本塁打で逆転に成功。4～6回にも敵失や連打で追加点を奪い、豊谷投手の力投で快勝する。対する高知大学は1回裏四球・敵失で得た二死一・二塁のチャンスに5番岩河の安打で幸先よく1点を先取したがその後は豊谷投手に押さえられる。

平成10年度四国地区大学女子ソフトボール秋季大会

会 期：平成10年11月7日

会 場：徳島文理大学(香川校)

【試合結果】



【講評】

4年生の引退による部員不足や学校行事などで、登録の半数の4チームのみの参加でさみしい大会となった。しかし、好天に恵まれて各選手とも元気一杯ハツラツとしたプレーで本年度最後の試合を満喫した。

決勝戦は1回表1番打者が敵失で出塁し、2・3番の短長打で先制。一死後5～7番の連打と8番の犠打で5点を先取して試合を優位にする。その後も攻撃の手を緩めず2番前原の本塁打などで着々と追加点を加えて快勝する。対する香川大学は6回に2本の安打と敵失で2点を返したが及ばなかった。惜しまれるのは2回裏4番5番の連打で無死一・二塁のチャンスを迎えたが後続が竹内投手に連続三振に打ち取られてチャンスを逸したことである。

第18回九州地区男子ソフトボール大会

会 期：平成10年5月16・17日

会 場： 智覽町平和公園多目的球場

【結果】 福岡大学2年ぶりの優勝

順位	大学名	対戦大学	勝	敗	引き分け	合計
1	熊本学園大学	福岡大学	7	0	0	7
2	大分医科大学	福岡大学	4	0	0	4
3	福岡工業大学	福岡大学	3	0	0	3
4	琉球大学	福岡大学	1	0	0	1
5	九州産業大学	福岡大学	0	0	0	0
6	第一工業大学	福岡大学	2	0	0	2
7	九州東海大学	福岡大学	1	1	0	0
8	産業医科大学	福岡大学	1	0	0	1
9	長崎県立大学	福岡大学	1	0	0	1
10	久留米工業大学	福岡大学	0	0	0	0
11	名桜大学	福岡大学	0	0	0	0
12	福岡大学	福岡大学	0	0	0	0
13	沖縄国際大学	福岡大学	0	0	0	0
14	西南学院大学	福岡大学	0	0	0	0
15	日本文理大学	福岡大学	0	0	0	0
16	西日本工業大学	福岡大学	0	0	0	0
17	熊本大学	福岡大学	0	0	0	0
18	鹿児島経済大学	福岡大学	0	0	0	0
19	宮崎産業経営大学	福岡大学	0	0	0	0
20	長崎大学	福岡大学	0	0	0	0
21	九州大学	福岡大学	0	0	0	0
22	佐賀大学	福岡大学	0	0	0	0
23	第一経済大学	福岡大学	0	0	0	0

【決勝戦戦評】

初戦の名桜大学を0－6から逆転勝ちして以来波にのる福岡大学は、沖縄国際大学の伊芸、平良両投手に14安打をあびせ9点を奪った。守っては澤岨投手が9安打されながらも要所を閉め快勝した。両チームとも連戦の疲れがみえ失策や目に見えないエラーも多く緊張感に欠ける試合であった。

第18回九州地区女子ソフトボール大会

会 期：平成10年5月17日

会 場：智覧町平和公園多目的球場

【結果】 九州女子大学2年連続3回目の優勝

	九 州 女 子	沖 縄 国 際	福 岡 大 学	勝	負	分	順 位
九 州 女 子		○ 5 - 1	● 1 - 2	1	1	0	1
沖 縄 国 際	● 1 - 5		○ 2 - 0	1	1	0	2
福 岡 大 学	○ 2 - 1	● 0 - 2		1	1	0	3

勝敗が同率のため大会規定により得点の多い順で順位決定。

1位：九州女子大学（全国大会へ）

2位：沖縄国際大学

3位：福岡大学

【戦評】

(福岡大学 vs 沖縄国際大学)

1回福岡大学の二番打者長尾の長打(二塁打)に続き先取点を取るかと思われたが、沖縄国際大学のピッチャー大城の好投にはばまれ得点できない。沖縄国際大学は1回のわずかなチャンスをものにし、4回にも調子の崩れた福岡大学のピッチャー浦底を攻め追加点を得る。福岡大学はピッチャーを佐藤に代えるも、好調の佐藤を助ける打撃ができず、沖縄国際大学の前に敗れた。

(九州女子大学 vs 福岡大学)

九州女子大学は2回内野出塁の走者を犠打で送り、チャンスかと思われたが走者が暴走しアウトになり機会を失ったと思われたが敵失により1点を先取した福岡大学は4回安打出塁の走者を五番宮本の安打で同点とし六回には敵失、捕逸等で1点をとり勝越し七回は浦底を送り7回をしめくくって、試合をもとにした。

(沖縄国際大学 vs 九州女子大学)

九州女子大学は二回、相手エラーで先制すると三回には六番中島の三塁打で2点を追加。その裏、沖縄国際大学も二番町田のツーベースで1点を返すものの、五回には五番鶴の本塁打で5-1と突き放して快勝した。沖縄国際大学もランナーは再三送るものの好機にあと1本が出ず涙をのんだ。この結果、3チームが1勝1敗で並んだが総得点で九州女子大学が他の2チームを上廻り2年連続で3回目の優勝に輝いた。

全日本大学ソフトボール連盟役員名簿
平成8・9・10年度

	氏 名	(上)自宅住所 (下)勤務先	電 話	FAX
会 長	大内 敬哉	〔自〕〒471-0066豊田市栄町4-5-17 〔勤〕中京大学	0565-33-1701 0565-45-0971	0565-46-1297
副 会 長	一谷 宣宏	〔自〕〒651-2113神戸市西区伊川谷有瀬77-3 〔勤〕学校法人園田学園理事長・園田学園女子大学学長	078-974-6212 06-427-7848	06-427-7250
副 会 長	水野 信義	〔自〕〒963-8846郡山市久留米1-58-4 〔勤〕日本大学	0249-45-3455 0249-56-8600	0249-56-8864
副 会 長	斎藤 滋雄	〔自〕〒171-0031東京都豊島区目白1-2-8-305 〔勤〕学習院大学	03-3983-4042 03-3971-8989	
顧 問	坂井 正郎	〔自〕〒214-0037川崎市多摩区西生田5-14-21 〔勤〕国土館大学名誉教授・評議員	044-966-7340 03-5996-3611	
顧 問	角田真一郎	〔自〕〒154-0021東京都世田谷区豪徳寺2-19-16 〔勤〕	03-3428-0150	
理 事 長	末井 健作	〔自〕〒678-0175赤穂市北野中472-106 〔勤〕姫路工業大学	07914-8-8706 0792-66-1661	0792-66-8868
副理事長 常任理事	小川 幸三	〔自〕〒216-0031川崎市宮前区神木本町3-1-13 〔勤〕日本体育大学	044-865-7217 03-5706-0925	03-5706-0912
常任理事	大和田 寛	〔自〕〒980-0853仙台市青葉区川内大町35 〔勤〕仙台大学	022-265-8778 0224-55-1121	0224-57-2769
常任理事	高橋 伸次	〔自〕〒370-1201高崎市倉賀野町1274-13 〔勤〕高崎経済大学	0273-46-1219 0273-44-7517	0273-43-4830
常任理事	黒田 重靖	〔自〕〒930-0200中新川郡立山町下米沢25 〔勤〕富山大学	0764-63-1822 0764-41-1271	0764-45-6703
常任理事	水谷 博	〔自〕〒461-0004名古屋市中区東区葵3丁目7-20~1201 〔勤〕中京女子大学	052-933-1154 0562-46-1291	052-933-1154 0562-44-0310
常任理事	乾 多慶士	〔自〕〒669-1412三田市木器1475 〔勤〕園田学園女子大学	0795-69-0057 06-429-1201	06-422-8523
常任理事	森田 啓之	〔自〕〒675-1324小野市育ヶ丘1480-344 〔勤〕兵庫教育大学	0794-62-4962 0795-44-1101	0795-44-2189
常任理事	萩尾 健甫	〔自〕〒731-5135広島市佐伯区海老園2-19-18 〔勤〕広島修道大学	0829-23-6899 082-848-2121	082-848-2765
常任理事	川田 健司	〔自〕〒761-8064高松市上之町2丁目7-5 〔勤〕徳島文理大学	0878-65-5974 0878-94-5111	
常任理事	原口 和之	〔自〕〒811-3213宗像郡福間町2642-1-502 〔勤〕九州女子大学	0940-42-1038 093-693-3349	093-693-3349
事務局 長 理 事	中野 紀明	〔自〕〒229-1101相模原市相原3-1-14 〔勤〕国土館大学	0427-73-9023 0427-36-2324	0427-36-5481
理 事	小嶋 高良	〔自〕〒031-0071八戸市沼館1-7-19 〔勤〕八戸工業大学	0178-45-7268 0178-25-3111	0178-25-2008

	氏 名	(上)自宅住所 (下)勤務先	電 話	FAX
理 事	飯島 隆	〔自〕〒020盛岡市上田1丁目16-3 〔勤〕盛岡大学	0196-23-7527 0196-88-5555	
理 事	松永 尚久	〔自〕〒257秦野市鶴巻南5-8-4-111 〔勤〕東海大学	0463-78-6323 0463-58-1211	0463-59-6180
理 事	武藤 幸政	〔自〕〒354埼玉県入間郡三芳町藤久保541-11 ハイホームみずほ台613号 〔勤〕城西大学	0492-59-6994 0492-86-2233	0492-71-7985
理 事	岡田 万嗣	〔自〕〒400甲府市塩郡3-9-7 〔勤〕山梨学院大学	0552-52-8132 0552-24-1200	0552-24-1387
理 事	後藤 静夫	〔自〕〒229相模原市西大沼5-19-9 〔勤〕相模女子大学	0427-44-2304 0427-42-1411	0427-42-1441
理 事	青木 真	〔自〕〒943上越市南新町1-10-404 〔勤〕上越教育大学	0255-22-3624 0255-22-2411	
理 事	吉野みね子	〔自〕〒270-01流山市加867-1ハ゜-クサイトコート709 〔勤〕東京女子体育大学	0471-58-7766 0425-72-4131	0425-76-2397
理 事	馬場 哲雄	〔自〕〒154東京都世田谷区駒沢5-7-20 〔勤〕日本女子大学	03-3705-1217 03-3943-3131	
理 事	矢澤 久史	〔自〕〒504各務原市尾崎北町3丁目118-1 〔勤〕東海女子大学	0583-83-0485 0583-89-2200	0583-89-2205
理 事	山本 英弘	〔自〕〒481西春日井郡師崎町大字鹿田字神明附114-1 〔勤〕朝日大学	0568-21-2859 058-326-6131	058-329-1096
理 事	青井 誠	〔自〕〒463名古屋市中区城上355-1マンション城上501 〔勤〕名古屋明德短期大学	052-793-8879 052-601-6000	052-601-6010
理 事	久保田豊司	〔自〕〒534大阪市都島区中野町4-17-23 〔勤〕大阪国際女子大学	06 -351-4828 06 -902-0791	06 -902-8894
理 事	中村 哲士	〔自〕〒658神戸市東灘区深江南町4-12-6-601 〔勤〕武庫川女子大学	078-413-1587 0798-47-1212	
理 事	但尾 哲哉	〔自〕〒572寝屋川市寿町44-3 〔勤〕神戸親和女子大学	0720-34-4545 078-591-1651	078-591-3113
理 事	逢坂 秀樹	〔自〕〒689-32西伯郡名和町豊成162-2 〔勤〕鳥取女子短期大学	0859-54-2473 0858-26-1811	
理 事	宮林 達也	〔自〕〒862熊本市長嶺町3058-28 〔勤〕熊本学園大学	096-381-7880 096-364-5161	
事務局 次長 理事	吉末 和也	〔自〕〒547大阪市平野区瓜破東3-1-6-203 〔勤〕学校法人・園田学園	06 -700-7151 06 -427-7848	06 -427-7250
評 議 員	浜野 茂	〔自〕〒193八王子市めじろ台2-2-B-102 〔大〕中央大学	0426-65-1725 0426-74-3469	0426-74-3471
評 議 員	笠見 敏広	〔自〕〒191日野市三沢362-1-C-105 〔大〕中央大学	0425-91-5340 0426-74-3469	0426-74-3471
評 議 員	河野 道弥	〔自〕〒191日野市三沢362-1-C-105 〔大〕淑徳短期大学		0492-59-1311 0492-59-1319

	氏 名	(上)自宅住所 (下)勤務先	電 話	FAX
評 議 員	中村 靖	〔自〕〒573-01枚方市尊延寺5-46-9 〔大〕関西外国語大学	0721-35-5428 0720-58-0021	
評 議 員	中村 浩	〔自〕〒584富田林市竜泉888 〔大〕大谷女子大学	06-351-4828 0721-24-0381	
評 議 員	松川 周二	〔自〕〒606京都市左京区高野竹屋町50-1ハ°レス洛北709号 〔大〕立命館大学	075-722-3110 075-461-9179	
評 議 員	市川 貢	〔自〕〒520大津市比叡平3-50-5 〔大〕京都産業大学	0775-29-0439 075-701-2151	
評 議 員	土倉 完爾	〔自〕〒565吹田市山田西2-8-A-3-204 〔大〕関西大学	06-876-6302 06-388-1121	
評 議 員	真来 省二	〔自〕〒662西宮市桜町1-40 〔大〕大阪府立大学	0798-71-5681 0722-52-1161	
評 議 員	西村 卓	〔自〕〒615京都市西京区桂芝ノ下町19-9 〔大〕同志社大学	075-381-0551 07746-5-7911	
評 議 員	平野 義明	〔自〕〒617長岡京市今里4-10-4 〔大〕大阪工業大学	075-951-2608 06-954-4274	
評 議 員	福光 賢祐	〔自〕〒779-32徳島県名西郡石井町石井1123-5 〔大〕徳島文理大学	0886-74-3196 0878-94-5111	
監 事	加藤 茂夫	〔自〕〒214川崎市多摩区南生田2-14-8 〔勤〕専修大学	044-954-7006 044-911-1225	044-911-1231
監 事	中村 恒雄	〔自〕〒581八尾市神田4-41-3クレ-ルパトレ-201 〔勤〕PL学園女子短期大学	0729-95-1377 0721-24-5131	0721-25-9541

事 務 局	〒671-22 姫路市書写2167 姫路工業大学内	TEL 0792-66-1661 FAX 0792-66-8868 E-mail suei@gen.himeji-tech.ac.jp
-------	---------------------------	--

全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿

平成10年度

地 区	氏 名	(上) 連絡先 (下) 大学名	電 話	F A X
委 員 長 東 京	稲益 三穂	〒193-0813東京都八王子市四谷町1917-12-316 創価大学	0426-28-2457 0426-91-0806	0426-91-0804
副委員長 東 京	関 裕也	〒121-0052東京都足立区六本4-6-7 専修大学	03-3606-3810 044-911-1225	03-3606-3810 044-911-1231
副委員長 近 畿	松永 健	〒567-0009大阪府茨木市山手台4-5-199 立命館大学	0726-49-1367 075-461-9179	
副委員長 近 畿	樋下 美和	〒661-0012兵庫県尼崎市南塚口町7-23-17春帆楼 関田学園女子大学	06-426-7187 06-429-1201	06-422-8523
東 京	遠藤 宏文	〒168-0082東京都杉並区九我山3-12-20-207 明治大学	03-3331-5240 03-3296-4226	
東 京	川口 典子	〒182-0013東京都調布市深大寺南町4-38-5-103 日本大学	0424-42-0341 03-3329-1151	
東 京	久保麻衣子	〒158-0091東京都世田谷区中町4-24-3日本体育大学女子ソフトボール合宿所 日本体育大学	03-3704-9821 03-5706-0925	03-5706-0912
関 東	上田 真義	〒370-0801群馬県高崎市上笠原町891-1コーポあすか201 高崎経済大学	0273-63-7964 0723-44-7517	0273-43-4830
関 東	坂本 郁	〒370-0075群馬県高崎市筑前町20-9レインボーハウス206 高崎経済大学	0273-64-6217 0273-44-7517	0273-43-4830
関 東	高橋 義人	〒376-0601群馬県生市街町1-188-1コマツハイツ201 群馬大学	0277-32-1715 0277-30-1006	
北 信 越	松山 彩乃	〒930-1304富山県上新井郡大山町大塚90-2 富山大学	0764-83-1320 0764-41-1271	
東 海	村上 亮一	〒470-0347愛知県豊田市乙部町大沢543敬球楼 中京大学	0565-45-6542 0565-45-0971	0565-46-1297
東 海	武田 剛史	〒441-8011愛知県豊橋市南小池51-1グリーンハウスN棟221 愛知大学	0532-47-6302 0532-47-4111	
東 海	興座 利恵	〒474-0073愛知県大府市東新町4-240コーポイマル5-105 中京女子大学	090-3481-0088 0562-46-1291	
東 海	加藤 淳子	〒492-8143愛知県豊橋市駅前2-45-9 東海女子大学	0587-21-5113 0583-89-2200	0583-89-2205
近 畿	川口 慎一	〒577-0812大阪府東大阪市東上小阪8-2 関西大学	06-724-1835 06-388-1121	
近 畿	丸本佳世子	〒661-0012兵庫県尼崎市南塚口町7-23-17春帆楼 関田学園女子大学	06-426-7187 06-429-1201	06-422-8523
中 国	村澤 慎也	〒731-3161広島県広島市安佐南区沼田町伴4247-1免出ビル306 広島修道大学	082-848-4801 082-848-2121	082-848-2765

平成10年度 加盟大学一覧		
(男子)		全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	10	八戸工業大学 仙台大学 盛岡大学 福島大学 東北大学 宮城教育大学 日本大学工学部 弘前大学 北里大学 八戸大学
関 東	21	都留文科大学 山梨学院大学 茨城大学 高崎経済大学 日本大学生物資源科学部 群馬大学 芝浦工業大学 城西大学 獨協大学 千葉大学 東京理科大学 埼玉大学 東海大学 国際武道大学 筑波大学 明海大学 関東学園大学 流通経済大学 東京国際大学 文教大学 中央学院大学
北 信 越	7	長野大学 信州大学 富山大学 福井大学 富山国際大学 金沢大学 福井県立大学
東 京	25	日本体育大学 国士舘大学 早稲田大学 学習院大学 東京学芸大学 中央大学 東京大学 明治大学 東洋大学 慶應義塾大学 専修大学 日本歯科大学 立教大学 東京経済大学 帝京大学 桜美林大学 日本大学 成蹊大学 杏林大学 武蔵工業大学 一橋大学 国際基督教大学 明星大学 東京農業大学 文教大学情報国際学部
東 海	15	中京大学 名古屋大学 愛知大学 愛知学院大学 南山大学 愛知教育大学 常葉学園大学 名城大学 岐阜聖徳学園大学 愛知学泉大学 静岡大学 岐阜経済大学 朝日大学 日本福祉大学 愛知みずほ大学
近 畿	26	京都産業大学 同志社大学 京都大学 関西大学 立命館大学 奈良教育大学 龍谷大学 大阪大学 仏教大学 大阪市立大学 桃山学院大学 神戸大学 大阪体育大学 関西学院大学 四天王寺国際仏教大学 大阪工業大学 甲南大学 大阪府立大学 和歌山大学 神戸学院大学 大阪経済法科大学 姫路工業大学 兵庫教育大学 京都学園大学 姫路獨協大学 近畿大学和歌山
中 国	12	広島修道大学 広島経済大学 広島大学 岡山大学 岡山理科大学 東亜大学 福山平成大学 広島工業大学 岡山商科大学 近畿大学 広島県立大学 鳥取大学
四 国	9	四国学院大学 香川大学 徳島大学 愛媛大学 松山大学 高知大学 四国大学 徳島文理大学 高松大学
九 州	23	福岡大学 九州産業大学 九州大学 西南学院大学 産業医科大学 熊本大学 第一経済大学 佐賀大学 九州東海大学 熊本学園大学 琉球大学 長崎大学 沖縄国際大学 日本文理大学 福岡工業大学 第一工業大学 大分医科大学 西日本工業大学 鹿児島経済大学 宮崎産業経営大学 長崎県立大学 久留米工業大学 名桜大学

(女子)		
地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	6	仙台大学 盛岡大学 盛岡大学短期大学部 宮城教育大学 弘前大学 北海道女子大学短期大学部
関 東	12	都留文科大学 文教大学 埼玉大学 相模女子大学 東海大学 千葉大学 筑波大学 日本大学生物資源科学部 新島学園女子短期大学 順天堂大学 淑徳大学 千葉経済大学短期大学部
北 信 越	5	長野大学 信州大学 富山大学 金沢大学 上越教育大学
東 京	16	日本体育大学 東京女子体育大学 日本女子体育大学 東京学芸大学 中央大学 学習院大学 国士舘大学 早稲田大学 日本女子大学 桜美林大学 専修大学 日本大学 創価女子短期大学 創価大学 東京純心女子大学 明星大学
東 海	13	中京大学 中京女子大学 静岡大学 常葉学園大学 岐阜聖徳学園大学 南山大学 名古屋大学 愛知教育大学 愛知学泉大学 東海女子大学 愛知みずほ大学 桜花学園大学 名古屋明德短期大学
近 畿	20	園田学園女子大学 武庫川女子大学 立命館大学 大阪体育大学 神戸大学 龍谷大学 大阪国際女子大学 大谷女子大学 京都薬科大学 仏教大学 兵庫教育大学 大阪成蹊女子短期大学 神戸親和女子大学 奈良教育大学 P L 学園女子短期大学 京都女子大学 関西外国語大学 大阪府立大学 同志社大学 四天王寺国際仏教大学
中 国	6	広島大学 岡山大学 岡山理科大学 鳥取女子短期大学 中国短期大学 川崎医療福祉大学
四 国	8	四国学院大学 香川大学 徳島大学 松山東雲女子大学 高知大学 四国大学 徳島文理大学 愛媛女子短期大学
九 州	5	福岡大学 九州女子大学 沖縄国際大学 熊本学園大学 九州産業大学
男子 148大学 女子 91大学 合 計 239大学		

平成10年7月23日現在

表紙デザイン・写真・カット等の募集

ウインドミルの誌面を飾るものを次の要領で募集します。ご応募ください。

1. 全日本大学ソフトボール連盟の事業を表すのにふさわしい作品
2. 優秀な作品は、ウインドミルにに掲載し、氏名を發表します。
3. 応募資格は、連盟加盟大学の学生に限ります。
4. 作品は未發表のものに限り、版權は連盟に帰属します。
5. 締切は、毎年11月末日です。
6. 送付・問い合わせ先

〒474-0011 愛知県大府市横根町名高山55 中京女子大学 水谷 博

FAX (0562) 44-0310 渉外課気付

E-mail mztn@chujo-u.ac.jp

編 集 後 記

創刊号の編集後記に、学連の機関誌らしく研究論文や卒論などさまざまな情報を掲載して、もっと立派なものをお届けしたいとお約束しました。今、編集を終えて思うことは、かなりの部分それが達成できたのではないかと思います。これもひとえに投稿者や常任理事の方々のご尽力によるものと感謝申し上げます。今後は自己満足に陥らず、いっそうの誌面の充実に努めてまいり所存ですので、原稿や作品の準備とともにご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

広報記録委員会：水谷 博（中京女子大学）・山本英弘（朝日大学）

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウインドミル 第2号

1998年12月25日発行

発行者 全日本大学ソフトボール連盟 会長 大内 敬哉

編集責任者 広報記録委員長 水谷 博

E-mail: mztn@chujo-u.ac.jp

発行所 全日本大学ソフトボール連盟

〒671-2201 兵庫県姫路市書写2167

姫路工業大学気付

FAX (0792) 66-8868

E-mail: suei@gen.himeji-tech.ac.jp

印刷 西濃印刷㈱

〒451-0073 名古屋市西区浄心本通3-45

TEL (052) 524-5611

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X



いま、熱いドラマが始まる。

白球が青空に舞う。音が消え時間が止まる。

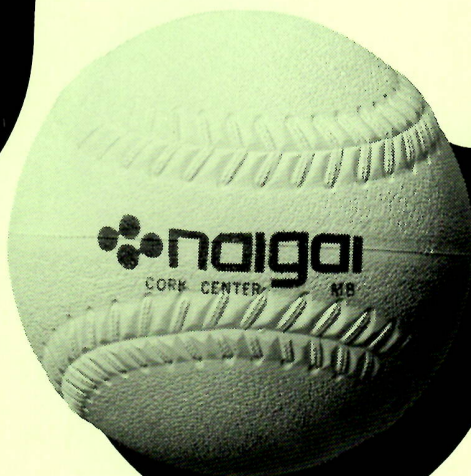
おとずれるクライマックス。どよめきが起こり、

ためいきがもれる。

一球に笑い、一球に泣く、ホットなドラマ。

naigaiのボールは、永年の経験が
うみだす信頼のブランド。品質に対する情熱の
ドラマがいきづく一球です。

ガンバレ！白球ドラマの主人公たち。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社



ウインドミル No. 2 (1998)

ISSN 1343-439X